

30

20

JAPAN

Takama

0

1

2<sup>m</sup>

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

E  
163  
3

逍遙文庫  
文庫 6  
1875  
3

都林泉名勝圖會

二



## 都林泉名勝圖會卷之貳

## 目錄

赤山社  
香木水  
金神社

什寶

義政公御式目

冰室古跡

吉田山遊宴

南禪寺

方丈什寶  
虫干儀

牧護菴

南禪寺湯藪齋商店

陽成院陵

慈照寺

棲求堂  
茶水井

活合納涼

東山殿御會和欣

中山心觀公旧蹟

西翁院反古庵

南禪院  
心字塔

菩提樹院址

瑪瑙水

金地院  
同ク院

南禪院  
南山堂

知恩教院  
方丈社

說法石

冷泉院陵

後一條院陵

惺窩先生幽居蹟

ト部家齋揚所

光宅寺

瑪瑙水

龜山法皇古墟

寶莊教院址

歸雲院

白河離宮

御忌舟相

御忌舟相

白河離宮

御忌舟相

御忌舟相

御忌舟相

御忌舟相

文庫6  
1875  
3



粟田院 圓山  
勝興庵正阿弥 端察花洛庵清阿弥  
皇太后妍子塚 高登寺 小方丈  
祇園社 殿園御輿洗禮物 長晴梅  
巖阿弥 長樂寺  
多福庵也阿弥 将軍塚  
青蓮院 多藏庵春阿弥  
延喜庵連阿弥 長喜庵左阿弥  
双林寺長喜庵 靈山叔阿弥  
下河原女伶會 菊漢  
文阿弥 上東門院塔  
正法寺 蔡美園院  
珠阿弥 金亭  
文阿弥 金亭  
上東門院塔  
延喜庵連阿弥  
長喜庵左阿弥  
菊漢  
蔡美園院  
珠阿弥  
金亭  
文阿弥  
金亭  
上東門院塔  
延喜庵連阿弥  
長喜庵左阿弥  
菊漢



赤山神祠

（他學院邑の）いみ（一僧の安あ急貞大師の顧命小僧で  
ちく小社と建る元亨社頭の林泉玲瓏也）特小近江（宮家）  
修補ありて神殿壯麗とする（世小姓宅の御當社の神れと受く家主  
比叡山小伽藍と建立）王城の

鬼門金神の守護と（ゆへ由縁）

（比叡山小伽藍）

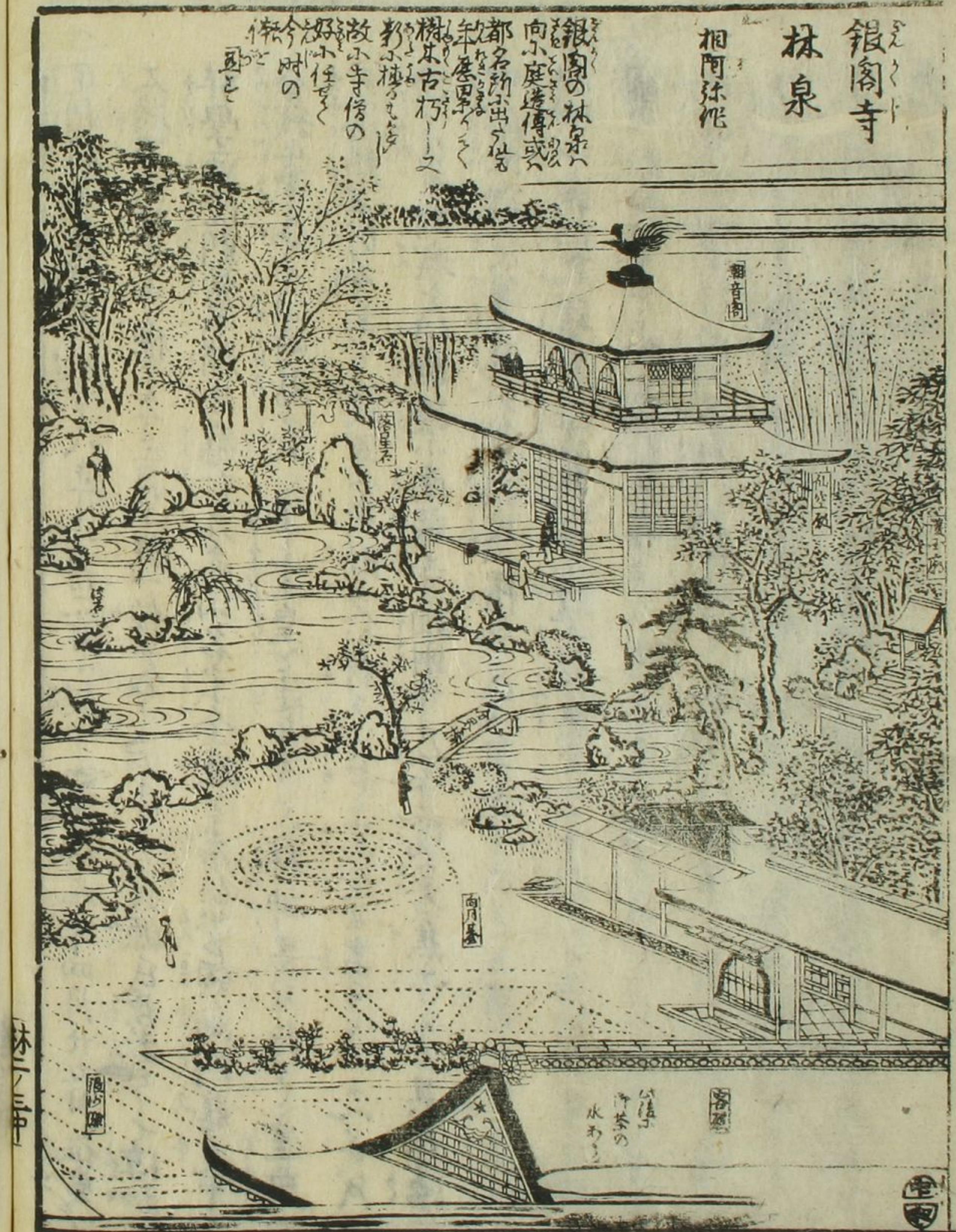
急照寺銀閣（足利義政公の別荘）（洋土）東求堂の中中央に相阿弥の墨  
の花（松）（松）及四壁半其中の邊棚の張附梅の画（古法眼の墨帳臺）  
腰障子琴碁書画の圖（持聖永納）（世小姓の）腰の蘭水仙（相阿弥の墨）（東間）  
（義政公薙髮の本像）（安次延徳二年正月七日小薨）（急照院  
殿准）（官舊山丈居士と稱）（台數）（五十六）（間の竹小着松）（相阿弥圖）（方丈の  
中）（間）（海）（友）（君）（仙人）（盡）（東）（間）（逍遙軒）（山水）（西）（間）（山水）  
（く）（持聖）（降）（也）（の）（草）（被）（土）（佐）（光）（興）（屏風）（相）（阿）（弥）（の）（草）（芦）（と）（薄）（小）（金）（銀）  
（の）（砂）（子）（と）（喰）（ち）（く）（希代）（の）（名）（草）

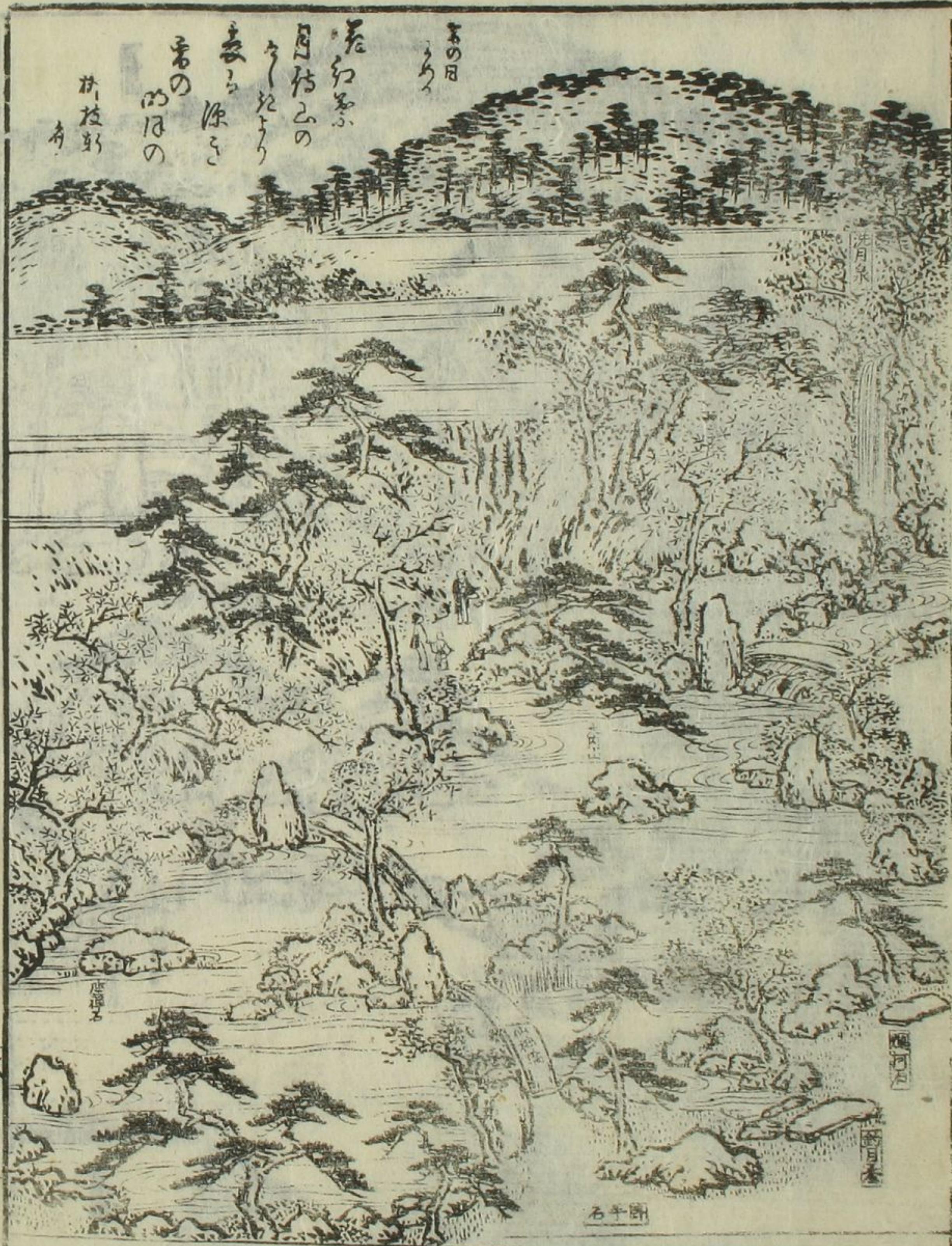
集芳軒

（堂後）（あり）（近世）（の）（造立）（維明）（和尚）（草）（水）（井）  
（東求堂）（の）（か）（あ）（り）（拂）（舟）（の）  
（流）（見）（東求堂）（へ）（通）

林二十三

○足利將軍義政公ハ永亨八年正月一日小誕ト寶徳元年四月廿九日征夷  
太將軍小任（亨徳一年二月小從一位叙）同年十二月源氏長者（淳和  
辨學兩院別當小補）（次應仁元年山名京全威と居し管領細川勝元を  
合）（殺）（生）（う）（け）（時）（勝）（え）（主）（上）（上）（皇）（を）（達）（ま）（り）（三）（種）（神）（昌）（成）（む）（く）（室）（町）  
（を）（御）（所）（あり）（ま）（う）（將）（軍）（家）（勝）（え）（を）（捨）（て）（意）（を）（宗）（全）（み）（あ）（り）（之）（子）（成）  
（按）（て）（日）（々）（園）（城）（を）（け）（驛）（擾）（南）（禪）（寺）（相）（圓）（寺）（及）（寺）（院）（多）（々）（焦）（土）（を）（か）（其）（外）（洛）  
（中）（洛）（外）（諸）（侯）（等）（民）（衆）（等）（兵）（燹）（小）（燒）（亡）（絶）（矣）（も）（う）（車）（か）（ー）（あ）（と）（公）（應）（仁）（乱）（り）  
（は）（付）（本）（朝）（旧）（記）（諸）（家）（文）（書）（兵）（燹）（小）（燒）（亡）（絶）（矣）（も）（う）（車）（か）（ー）（あ）（と）（公）（應）（仁）（乱）（り）  
（國）（の）（勦）（合）（れ）（下）（さ）（求）（む）（應）（仁）（元）（年）（よ）（う）（十）（年）（ま）（く）（諸）（人）（名）（み）（が）（直）（領）（國）（を）（守）（て）  
（割）（據）（の）（形）（勢）（あ）（り）（尚）（山）（名）（細）（川）（の）（徒）（洛）（中）（小）（對）（陣）（次）（將）（軍）（を）（足）（利）（義）（尚）（公）（小）（讓）  
（東）（山）（急）（照）（寺）（及）（銀）（閣）（を）（建）（て）（古）（畠）（名）（画）（を）（統）（び）（芳）（草）（名）（灰）（喫）（く）（幽）（棲）（次）（世）（子）  
（東）（山）（殿）（と）（り）（延）（徳）（一）（年）（正）（月）（七）（日）（奉）（征）（夷）（太）（將）（軍）（從）（一）（位）（准）（二）（官）（源）（義）（政）（公）  
薨（キ）（年）（壽）（五）（十一）（太）（政）（大）（臣）（分）（賜）（仰）

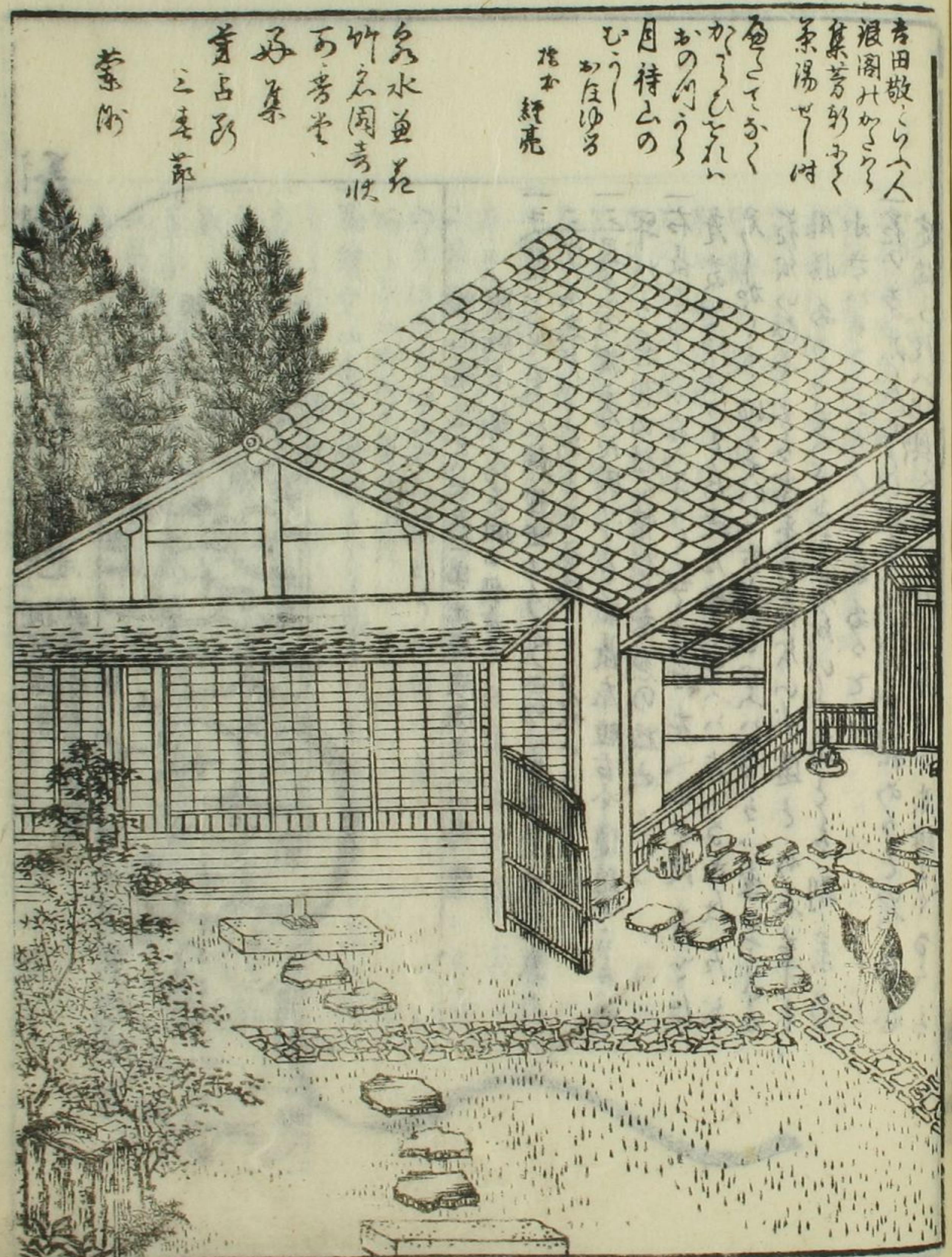
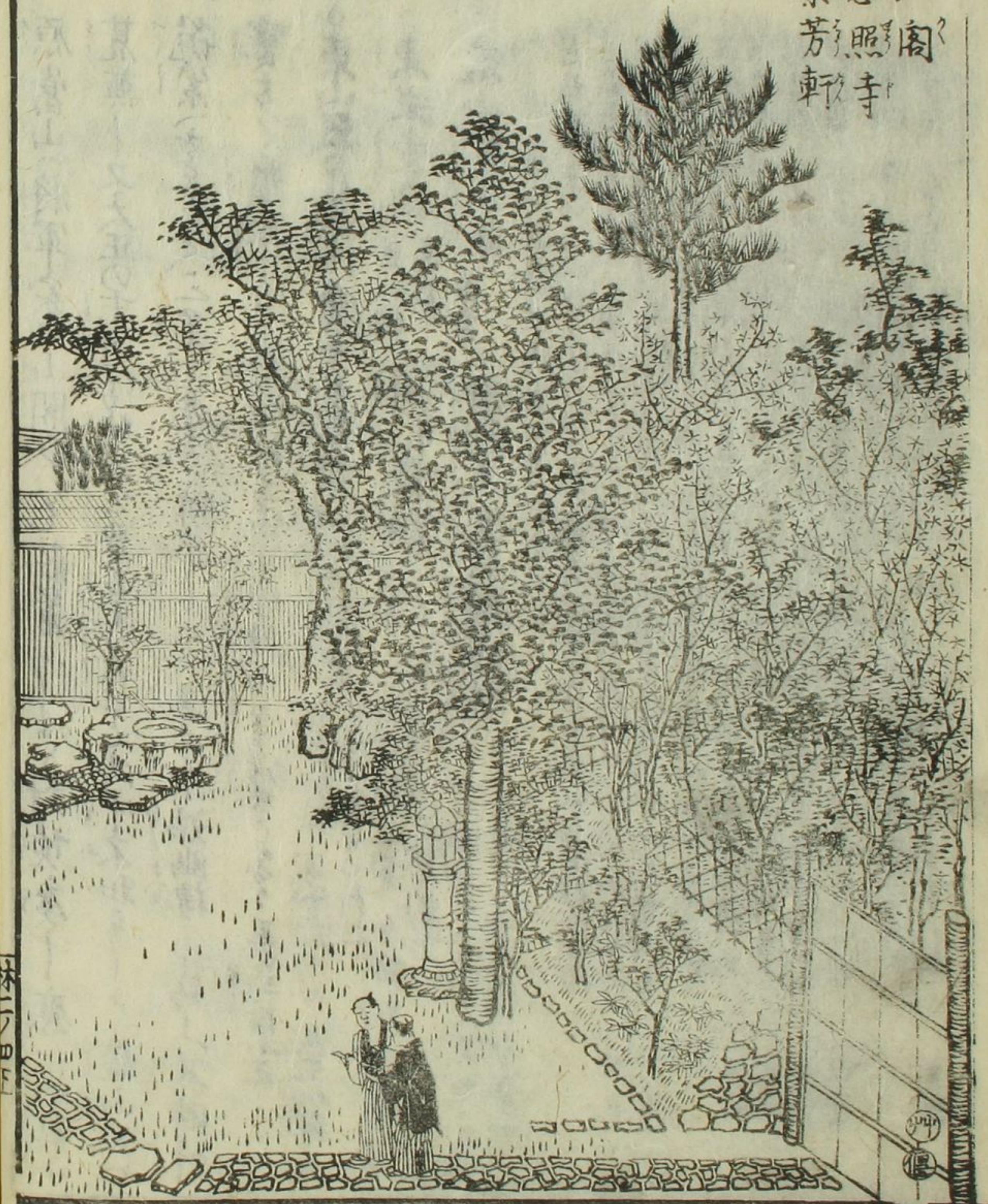




原當山ハ將軍家の山閣アリそれを莊アリて封境廣アリ一應仁の乱小  
 草蕪ハ又天正の末邊湯龍山公豐臣秀吉ヒトシと御中不和アリ一龍山公ハ  
 瓢箪ハ二茶と屢々帰洛アリ後アリか小姑幽棲アリ其時什  
 寶ハ多く離散アリやをゆえ今僅小寺寶アリ且アリ呂アリ云  
 ○東山殿月見御會十首和歌左小見沙○硯鷺アリ銘布留野アリ藤繪和州布盈社圖  
 ○東求堂額東山殿真羊○同仁齋額同羊○七賢盃七賢書名  
 ○東山殿家集枝書○唐物朱塗蒔繪膳碗希世の名器也今十人宋のう盤五十人アリ之正小離散アリ  
 東山殿月見御會十首和奇  
 月花煙 王の月ひひくふきゆる路の林れまつてそらを月不なえきぬ  
 月花鷹 らうわくをなもろくふらうてそらを月乃くもからう  
 月花虫 痘ふうたふ草の花が草とうとくさるまえ月ふむーとゆある 公秉  
 月花鹿 月花鷹アリ身アリひう身アリの身アリ月は月アリ身アリ老う身アリの衣アリの友アリや康アリもくく苑  
 月花鷄 月花鷹アリとアリの身アリの身アリ月は月アリ身アリの身アリの身アリ秋風  
 月花鷄 月見はくまくまくねがつひくふかくふかくらやうれてきと鶴アリかくまく  
 月花鷄 みうちつひね月アリをそのかのうをうけいの身アリふかくまく  
 蕁寺月 因アリか公移本れすふ新アリとくわく模アリのみの乃アリとく  
 芳潤

銀閣  
集芳軒

銀閣  
集芳軒



義政公御成式圖を卷

相阿弥子  
卷也表具茶也錦

米元暉化名米友仁字元暉宋朝之人山水画  
座敷八節花子細口傳旨之

一ま花と立率へ仰在世より今少くあれまで戒定惠乃  
二字衣志先一あるをきゆふに見ゆる  
三具足の燭臺に附一右長左短古今遠近との立  
一卑枝ち急懶の枝も懷枝も奢あらの枝也  
右長とりづら右へかくもかせたへ如てたとは  
度哉とりどりともは之左短とりへい右へみときは左短  
乃し加くうゆりてんく古今とりへい古も一季もする  
花伏ひ今とも當季の花伏ひよ遠とが入車も  
風流ありく足するキアゲリ人近とも副茶乃  
水きへもくあくくと志多うそり  
一若の本末心とり入車の人も茶也あうとくとも心  
定めしに比興え其なりれもおたそ中本ほりくさも

一公方様治成の時押板ふと幅射三具足高瀬匙火箸  
の香合公車の上小置又是公ニカニトテ  
墨色を拂ひ中少奇爐(きのこ)をうけ付産  
まし小香合右少燭臺左に花瓶(はなびん)の花をうけ  
の鷲(わし)又對(むかひ)をあくと右長左短の花をうけて挂け  
瓶(はんびん)ハ僧(そうそう)の花少(すくな)い車(くるま)其(その)上(うえ)少(すくな)く  
左の繪(ゑ)ひ花(はな)の花を右の脇(わき)花(はな)瓶(はんびん)にたとうまく  
右長左短とて立(たつ)て又右の繪(ゑ)ひ花(はな)の花を右の脇(わき)花(はな)瓶(はんびん)  
花(はな)の花(はな)の花(はな)をうけて立(たつ)て又脇(わき)花(はな)瓶(はんびん)  
花(はな)の花(はな)の花(はな)をうけて立(たつ)  
一立幅一對(むかひ)をあくと少(すくな)い口傳(くわんじゆ)大車(だいしゃ)ありて松(まつ)之(之)云  
本尊の茶(ちゃ)車(くるま)も五(ご)つありと云車(くるま)有(あ)是(これ)鷲(わし)香(こう)  
又花瓶(はなびん)二中(なか)仕(しき)に同(どう)花(はな)瓶(はんびん)内(うち)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)  
ゆり(ゆり)は内(うち)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)口傳(くわんじゆ)又花(はな)瓶(はんびん)外(ほか)に  
わら(わら)をへかげり(かげり)花(はな)瓶(はんびん)をうけて立(たつ)て又脇(わき)花(はな)瓶(はんびん)  
一脇(わき)繪(ゑ)定(じょう)四(しよ)季(き)の繪(ゑ)あく一(いっ)縄(くわんじゆ)ハ夏(なつ)蔓(ばたん)枕(まくら)をと東(ひがし)より  
一(いっ)縄(くわんじゆ)ハ西(にし)蔓(ばたん)枕(まくら)をと西(にし)より  
あれの上(うえ)に卓(しやく)と並(なが)る車(くるま)又(また)かくす  
一金(きん)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)と(と)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)の車(くるま)少(すくな)い  
茶(ちゃ)碗(わん)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)と(と)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)の車(くるま)少(すくな)い  
又輪盤(りんぱん)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)と(と)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)の車(くるま)少(すくな)い  
香(こう)爐(ろ)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)と(と)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)の車(くるま)少(すくな)い  
小(こ)もく少(すくな)い順(じゆん)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)と(と)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)の車(くるま)少(すくな)い  
一方(かた)少(すくな)い右(う)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)と(と)少(すくな)い花(はな)瓶(はんびん)の車(くるま)少(すくな)い



右の鉢もあれ多く下にて墨押板をち右のふせ  
尾ふよろく花ふ附しくぞく又一物すも

押板の中より

一

凌糊みに開き盤と墨が本と其外のやう志の心  
魚のうふ足そくひくちく食器一箇の  
入物一益一茶碗のあめは茶器のあ一茶器  
箱一トト一壺一ぬけ物の収容と合  
て括板に透紙も黄赤白黒とて墨  
ちうひとれの立花へとくみちうひのとくにて立之  
細口蘭筒北風鳴き中棚にて括く又双花瓶  
木へ下の重小立へとく

柱茶瓶の花を下れ花ふ同あさうかくぎふかま  
一切いたありうありーあく  
佛院と院言の花より保ふたと枯枝かとて禁ム  
茶社心の花より本の枝をそく魚く後野乃前  
あくくる花云ふとつとく

花瓶の花小花瓶のそとよろ下へみますもあら  
まのむへくに禁忌とくあくくとくわくく  
三具足の香合へに二寸四分半の面に

一風動のてとほる車へ押板の角柱の四分半の面に  
一洗ひ水舟一縁の中脇のとく水琴の京也

一押板の高さへ敷居もくへす但一弓半あくへ七寸八分

一毎日こそくへ七寸

柱飾の行はみ素ーようみすとくと大客殿あるう

奉事おれ高院又小度数のあん

一風終ひ廊下の湯のあり本から也日本より度揚乃  
一夫井ともかまく又客殿の中央の卓の上も掛け

一又ハ押板の花付をすーにしかり

一火弓ーとは押板の花又半弓押板の花押板

一鉢を掛く

一喚煙の香院の大井の中脇にはくをわく

一茶の湯へ公方様の脚踏の間は常因のかくくちく

一小さう本の脚生まくへお引く納と付るる

一車の心小本の脚生まく車古今の寄ふ

一夏の茶葉乃あまをあられけふ

一妻見ーに松人ーとく

一花の枝をそくは事と忌事おほくいめにちとく

一の枝とく同と底とみあり枝をゆもつとく是も

人のきるあくらく余加くつろくとむのとくに

枝とく面へと枝是又主人をけもる忌也

茶も正面へとひらせる事と又同名とあ

へ同く次りふういうちの事もつうくと又十丈

室の枝とく忌ーとあれい車本のりとみよ

枝のこうへる附其と瓜ふと人葉とそくに本  
させも十丈ま小足ゆる車つりく  
一枝の枝と云へ本木の枝ふそくさきする枝の肩附其下  
葉たか葉する葉木を立トと云あひて伏て忌也  
右長た短の葉み左の副葉を伏すけせは左の  
そく東度度とすくむ思程面向い  
左長右短の葉み左へぞく茶圓そくま葉そ右へと  
葉ゆく角一枝へ心のうほへそく葉立ああ  
かりろく

花瓶の口ゆくとれたへせく茶花瓶のかとよりのひ  
てゆくと面向し又花瓶の口ゆくうり附くち  
のきんゆくゆく

一本のみまくる車あくべあく立くる本と立車たき  
させく立車た之ま車そくする本と立車たき

かけくる花ハみま車うに親本と二本立くせく  
葉をはくをきり

一祝言の花みうちきり松とく松もう立る車有  
これへを半くらあつ枝の五方へそくする本とく

双花瓶小か一け本にくくを考くみゆるまたも  
駒蘭とくたおのせど外と高くう立く

駒枝と申ちかぬ小けく立車たき

双花瓶小か一け本にくくを考くみゆるまたも  
駒蘭とくたおのせど外と高くう立く

仙翁著かとの豆うあがね一のやまと立くはるようく  
時二本立く立くあれとくわう花瓶あん

豆花瓶立車尊の面乃向貴へはりく野人重く  
て立く

副葉ハ一本のりゆつ形き時其のゆく本からをすく  
花とくと云車ハさくらうのである葉子を本  
ゆくとく型ふふわく入をき

双花瓶ふも魚うる車底ふ本ふうゆふあくろも  
先づ立く立く其後て括厚うふせく茶葉へ

双花瓶小葉立く立く車ハ腰ふ葉の生うと見る  
立く立く

豆花瓶立車尊の面乃向貴へはりく野人重く  
て立く

副葉ハ一本のりゆつ形き時其のゆく本からをすく  
花とくと云車ハさくらうのである葉子を本  
ゆくとく型ふふわく入をき

双花瓶ふも魚うる車底ふ本ふうゆふあくろも  
先づ立く立く其後て括厚うふせく茶葉へ

双花瓶立く立く車ハ腰ふ葉の生うと見る  
立く立く

豆花瓶立車尊の面乃向貴へはりく野人重く  
て立く

豆花瓶立車尊の面乃向貴へはりく野人重く  
て立く

ある事よく其の時季は花と草に仕て  
を以ふそれとくせんう本にてより申  
樂のあて笛笛とゆき應次うひばり公もや  
とく其志を公ありろくみそり風うよて立  
体也

石はもた附ハセハヨリくはもく心腹うくは  
一割革すくやさしく立つと  
石とは物あくに小寸うをう草え葉そく  
とく寄の上の句に嘗て聲かうりちは君  
きえぬと云原うふ草木と寸うく下の合  
ふくもいつて草木一割うとはく心小枝く  
葉をそく

はもた草木あり附古奇小

もの持落やうとはくうことの上ふ

あられあらはみ次の志のそら

まつりさうろふと川魚たう本うりだる花瓶成  
あんじうくたうみどりうて立うりんや

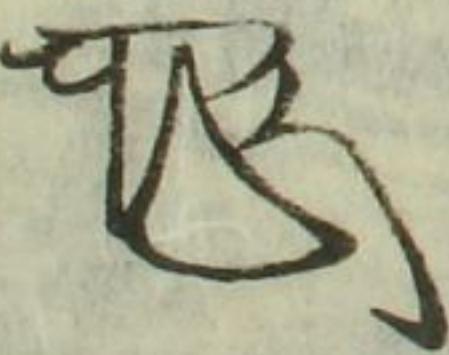
よく刀くは花瓶やいり扇うて立うりおの  
いれと紙く刀く初かと忘れ候あくら一  
百瓶めくら百瓶ううとあらとあら花瓶新に  
用れありある花瓶新に瓶のあらうう花瓶新に

本の花ふやうやううけをうふおりうくも

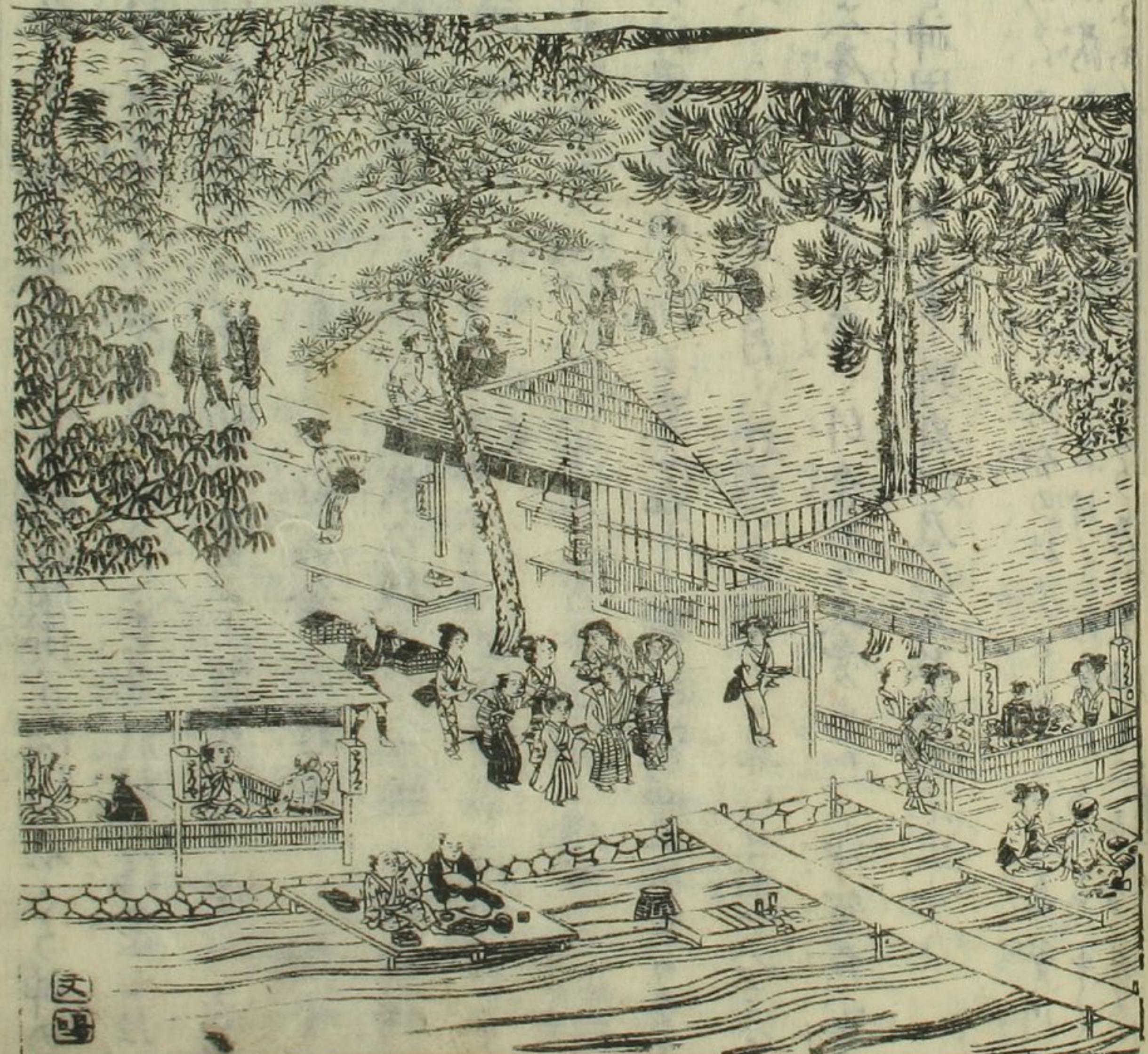
く姿あらわう花瓶ううくおりうろくも

思ふみうきく目のあら所みうくはけぞれ

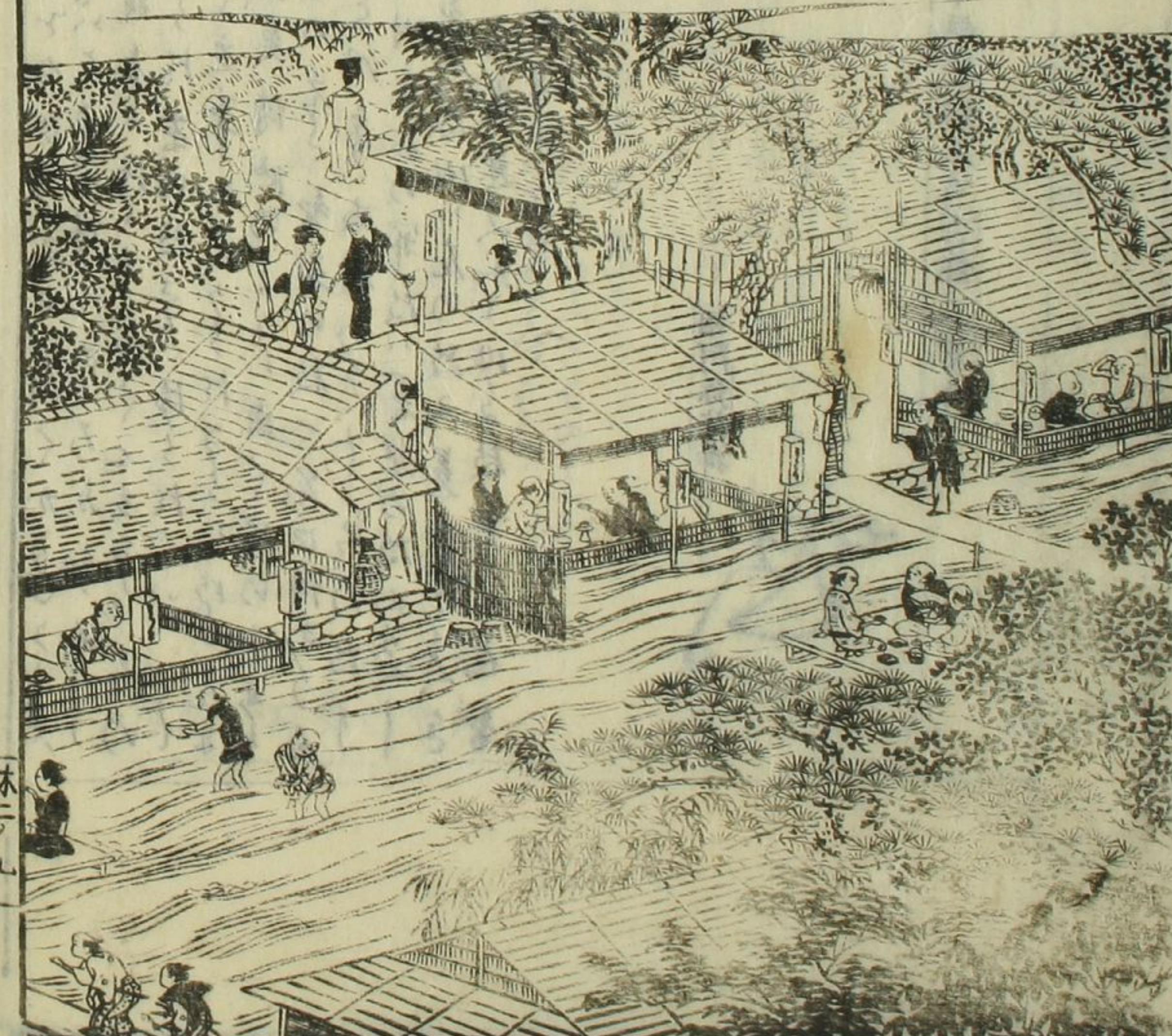
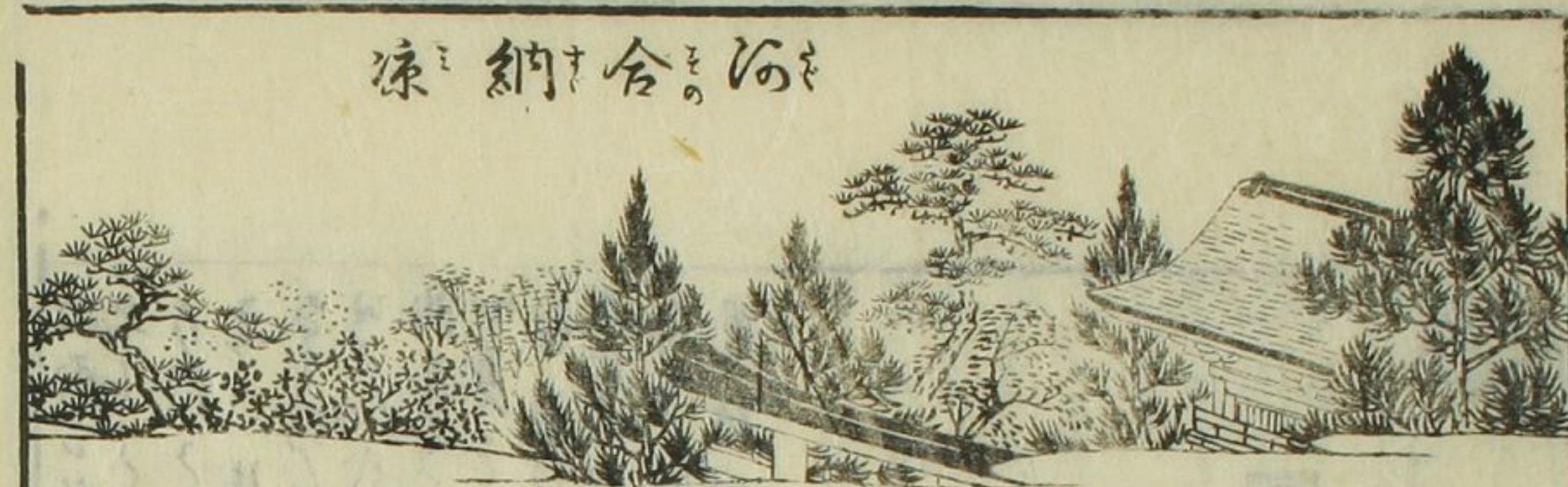
のある折に目と身はううるみううくかうう見  
えうく見え人へと子を仕えあうるが初かう  
うりうく花瓶毎日はく一みくで立うり花瓶乃  
えくうくはくはくはくはくはくはくはくはく  
さんが千金裏傳地の上うく直く岩の上うく  
曲うう慈悲のえく智惠の枝て肩口傳あうん  
と身とえがううれあみ枝あく一左乃枝うく  
智惠の枝育附も右の穿枝、慈悲の枝あく  
又右の枝小智惠あは付いたの枝、慈悲あく  
あり陶枝もうう慈悲又かゆう枝をう高智  
是枝叶う高を得也充堅く



石川や  
 せんせと川の  
 波うち  
 回もかうとと  
 半身のくせ  
 喜也  
 さくみやも  
 凉しく  
 あくび  
 湯秋川  
 藤島  
 鶴長明



涼納合の湯



糺納涼をみか月十九日より晦日まで下鴨社願御ま流川のやまう神の  
杜の本流モ茶店モ設く遊宴ノシミを署と避るゝを井於社の傍泉モは  
耳爪心モと冷一拂モ洗園子ヘ竹串モ刺く賣る上賀茂ノ申樂アリモ  
林間小笛鼓の音アリテ涼モ夏の火と秋の金火魅金ムク相生  
セ度故小厄氣と和讐の神事人あれと夏越の祓トイハ下鴨公御祖神  
社上賀茂と別雷神社トイ。延喜式ニ石神大月次相嘗利嘗

愛宕郡アリモ封十戸を充ラ。續日本紀又弘仁十年二月より中祀ハ准セラ。日本後紀  
寛和十年の季より社邊の河谷ハ汚モ草モ禁マ。或ハ社域の四至ハ定ル事  
俱ニ大政官符モ見えテ仁孝三年七月より大雨の奉幣ある昂日耳鬱トシテ

文德實錄ニ署。太平慶五年四月小川始クり音アリ又愛宕郡の中賀茂小室

錦部大野の山郷モ神田トモリ、奉野府記及び大政官符モ出テ

因原京城勝質曰

下鴨ノ社南小川アリ。而組の社アリ。又河合の社ト云。かも川高。聖川  
ヒトニテ一ツ小屋アリ。河合小河合と名付く。河合谷角モトモキモ  
トテアリ。其社ハ小川アリ。其社ハ東西小ニモナリ。

糺の杜モ東南小川アリ。而組の社アリ。又河合の社ト云。かも川高。聖川  
四月中の年九日。神輿日。櫻山の靈廟。聖村の御花山也。御花山に  
御旅ノ祭アリ。修人多ク膳ク被廢アリ。膳ク被廢アリ。膳ク被廢アリ。  
と奏以乃中アリ。も吉樂アリ。其日御花山也。御花山也。御花山也。  
勅使立。前二日。下鴨の神モ。中之御。御花山也。御花山也。御花山也。  
神教者モ。奏以。吉樂。本院の處アリ。御花山也。御花山也。御花山也。  
奏以。吉樂。本院の處アリ。御花山也。御花山也。御花山也。  
勅使立。貴賤アリ。見。本院の處アリ。御花山也。御花山也。御花山也。  
其日御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。

御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。  
御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。御花山也。

○境内小川流洗川あり

神山あり

山

山

山

山

山

古哥小うちの名不きの社を下流とすの小川と云うの社北西子流  
に岩本橋の社あり。行趾の森も本社の東南且ある。社の葵葉小宮同  
西み部原隸馬貴取より有。○四月中の酉日葵葉小宮同  
勅使先ツ下鴨の社に詣致ひ。後は御社小室うや。管同  
及び餘人甚多く爲り禮式の如音樂舞曲。公奉行後  
勅使が下供奉の行旅。うけたれ  
山家  
御集  
主本  
行園やみうたう原北葵くまきかさとては後ろかさん  
其處ふのふりこの芝北風ふみづー川の冰とら  
月のとくみあら東ふ宿とてよもと水河夢づゆ  
そろ事の物  
五月八月た  
五日朔日お神  
競馬者りき競馬の定人  
諸人群集

行園やみうたう原北葵くまきかさとては後ろかさん  
其處ふのふりこの芝北風ふみづー川の冰とら  
月のとくみあら東ふ宿とてよもと水河夢づゆ  
そろ事の物  
五月八月た  
五日朔日お神  
競馬者りき競馬の定人  
諸人群集

鴨祠春望 鴨祠崇神武天皇  
江開鳳闕東一林春苞  
何年銷歇舊齋院終古依然御祖宮  
太岳北懸千嵒秀清流南合二川通  
興來有意縣村酒頼是杖頭錢赤空  
水久月長明と瘦  
夕立や雙六の墓 鴨乃川

如泉

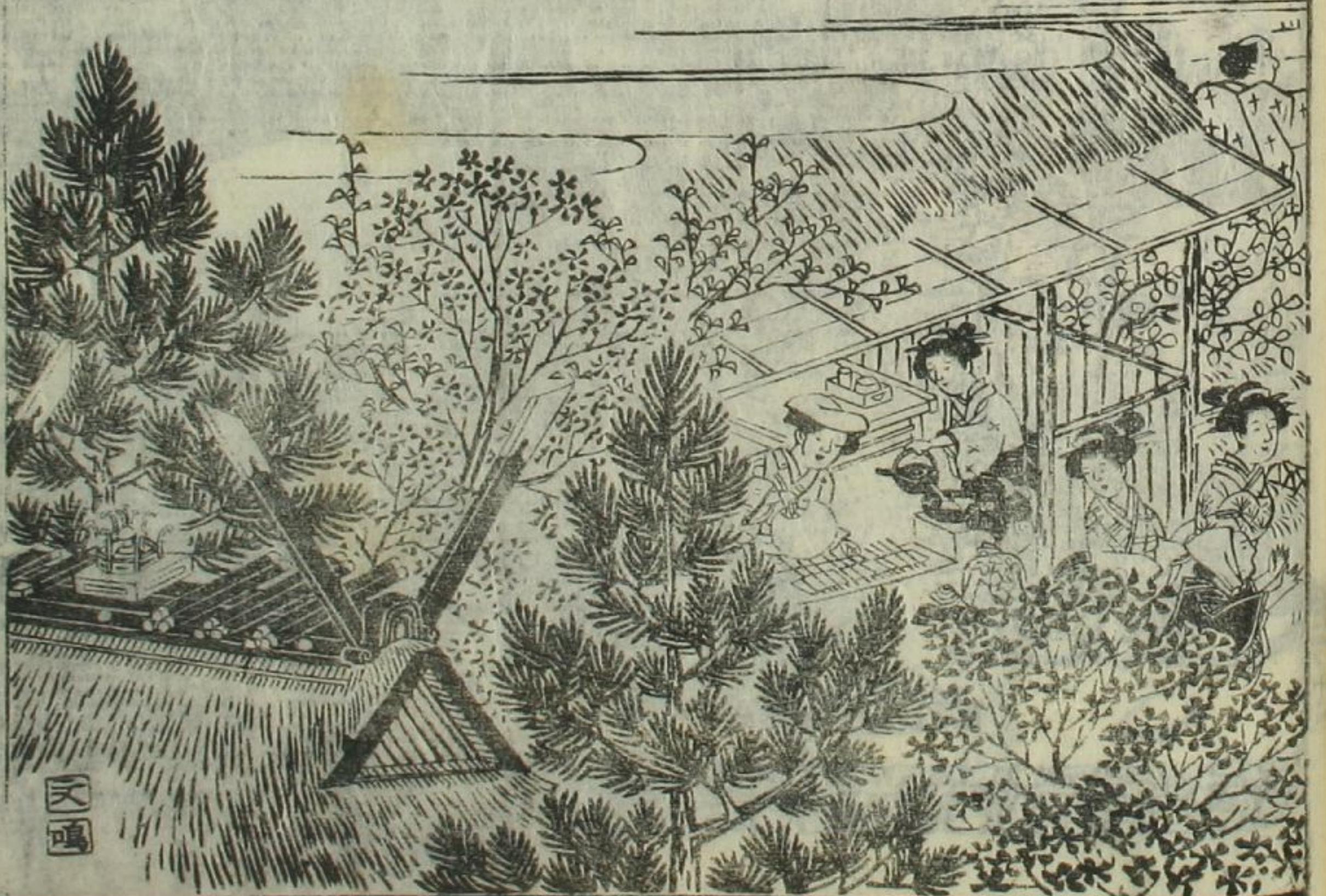
水導

文集

ト部家齋楊所 冰室右跡 惺窩先生幽居蹟 中山忠親公別莊蹟  
名神扁題みず公卿の手を書く。延喜式云小野蘇原市原冰室村  
禁中遷尋候。是れ兵乱を避ん。左田山小原。原洛陽近衛室町の私第  
日錄本見沙文明十六年蘇復卿。是れ立年卒後下鴨  
八月勅。是れ天正年牛勅。是れ八神殿とも云ひ遷後慶長十一年  
神祇官代である。

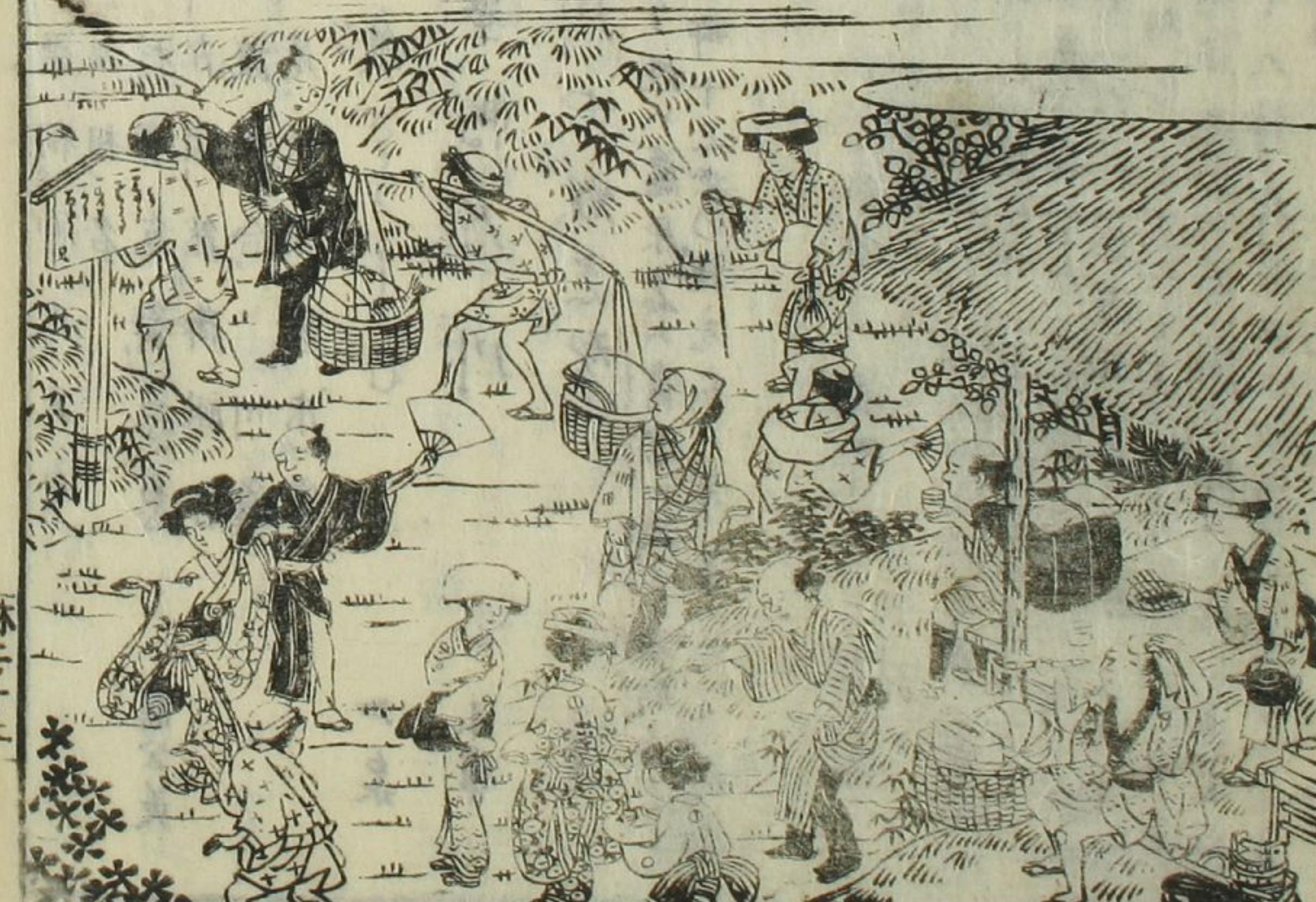
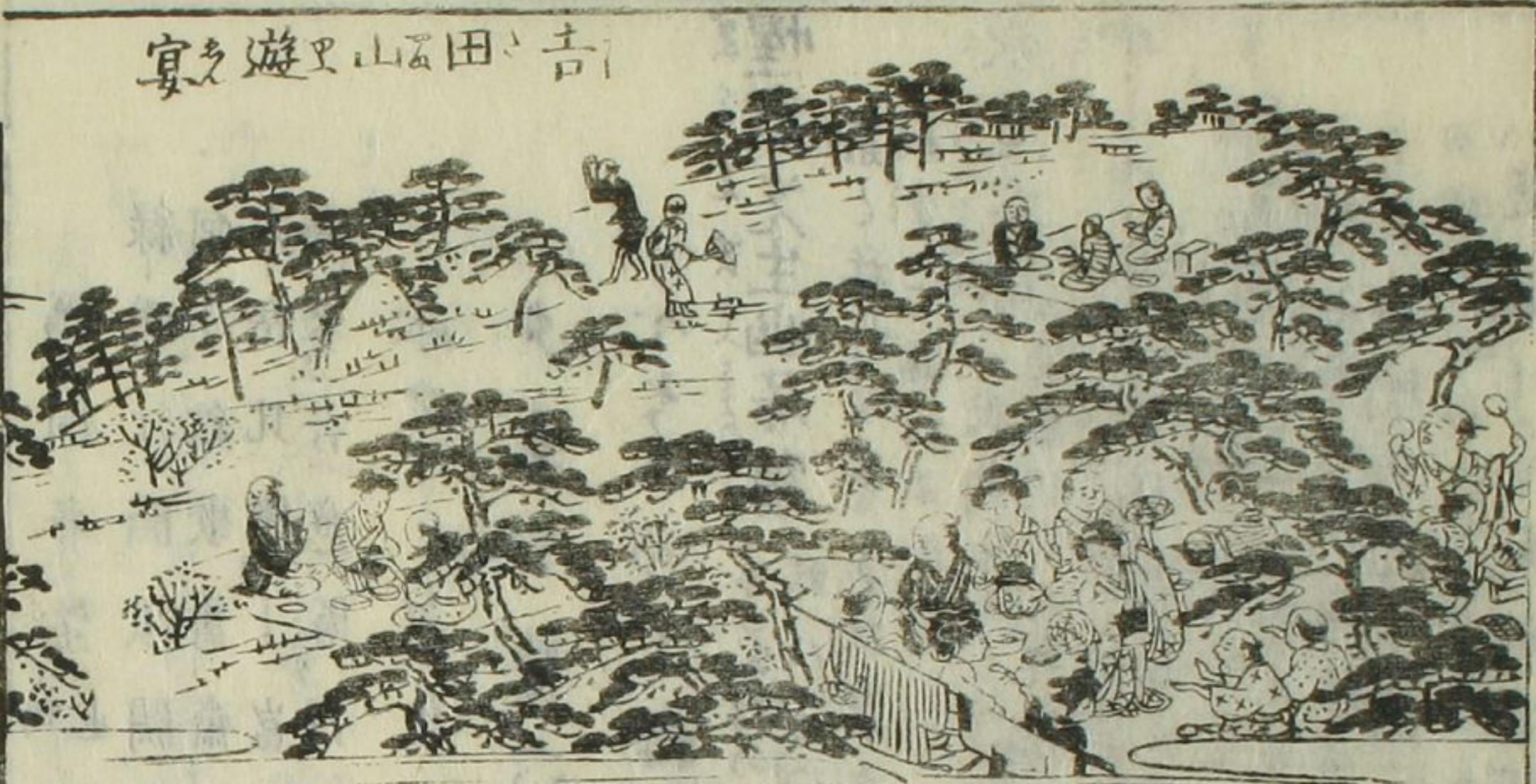
皆川允

九月草香能引人  
烟蘿巖徑起紅塵  
松林自絕磨履跡  
剝見綺羅雲外新



国画

吉田山遊宴



黒谷西翁院

古菴

藤村廣朝

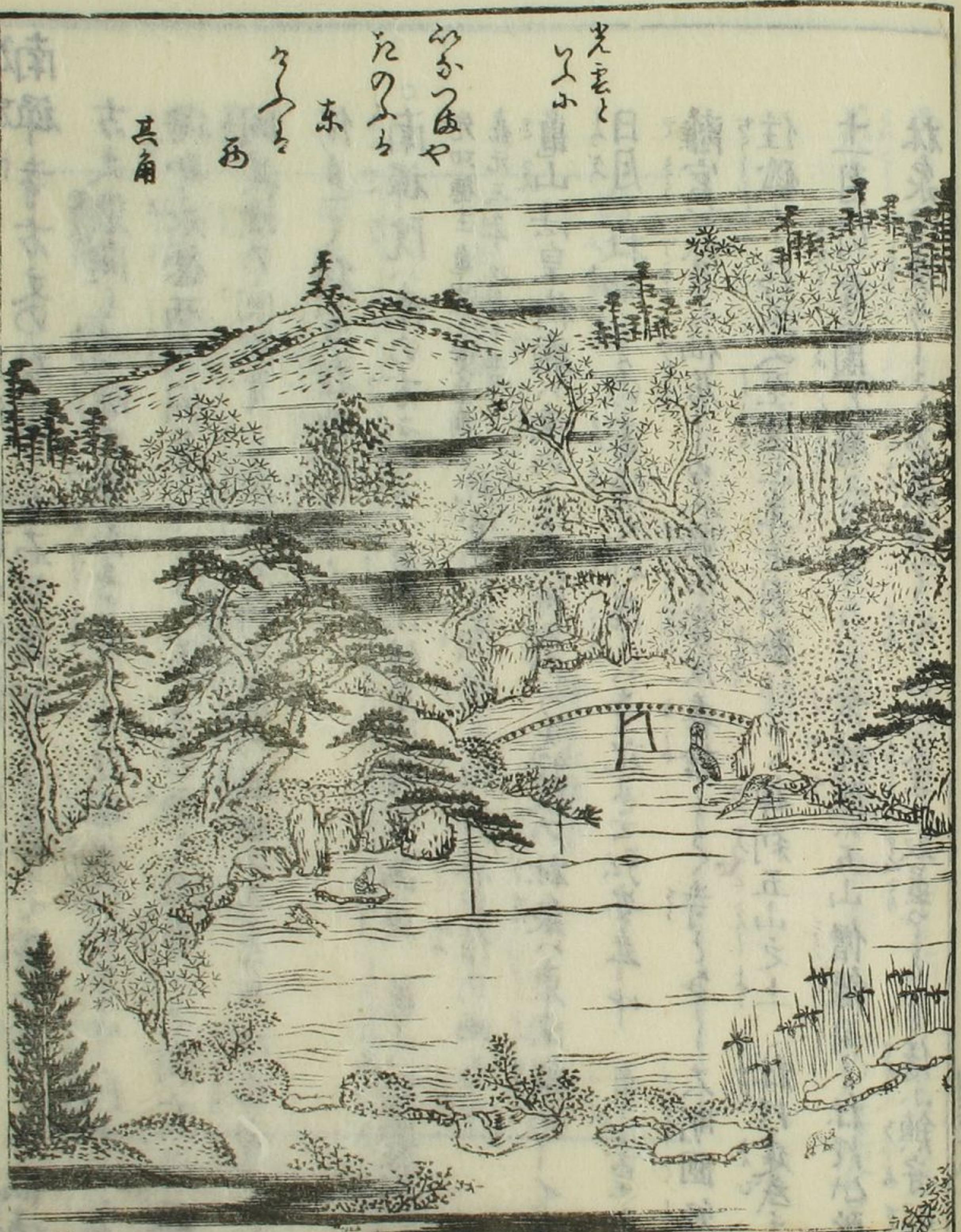
恒



後  
世  
可  
喜  
ひ  
ま  
る  
そ  
の  
名  
を  
と  
は  
そ  
の  
名  
を  
と  
は

八  
萬  
美  
齋





南禪寺方丈の林泉へあし石巨巖砌と夢七澤と廟の仙境人  
方丈東向う鳴龍の圖花鳥等の古法眼元信の筆中間廿四孝と  
待聖永徳西向同筆又一花鳥の画之西表一之間古法眼筆  
同其次の間次又二間共ふ竹小虎の画世小も重て流水小虎と  
何とも待聖探幽比筆之

○南禪院へ南の方へあし 龜山法皇の離宮へ中央 龜山法皇宸影表

先功德主龜山太上覺皇崩祖

嘉元二年九月十五日

此堂内ニ間俱小將門常信の画也

賈云

龜山法皇御廟へ南の上方近附へあし院の林泉へ東南鮮みて實小  
日月と扶助するの盡境へ梓山へ寺記み云弘安年中 龜山上皇あくよ  
離宮と營く仙居へ又厥后宮灰喜捨へ寺とよし 大明國師灰  
住職へ終へ又至徳二年七月勅へく禪刹五山之上 称は建武元年  
十一月りをへ園大曆ふとへり。金地院へ五山僧錄同と称はけ院の  
林泉佳境やく名數多く心といへ文字少双並まく其後小鎮守昭堂

あり南方小 御宮ありじ方丈へ南面めぐらす中之間仙人盡た右と左  
花鳥みみ待聖尚信の筆之其外當院玲瓏とくに山の佳境なり  
南禪寺方丈虫干之体

出山釋迦 遠慕

ト

東之間

待聖永徳筆

小十六善神

山水 仇英

觀音

牧溪

山水 仇英

觀音

唐画

卓 御書之間 永徳筆

四

大十六善神

琴

碁

孫通

西之間 永德

書畫

康富記

勸懲寺淨廣鄉寺

文殊

釋迦

普賢

思恭等

古法眼

七朝國師香陽最嶽和尚

蘆葉蓮華南院國師

自画讚

禽之間

古法眼

慧璣六十

漢羅漢

眠鶴之画 萬國彌

後之間 乃生馬

本來圖作頂相  
日梅常信  
竹鶴安信  
身金告子  
身空國師  
身參密室  
身參密室  
身參密室  
身參密室  
身參密室  
身參密室

龜山法皇宸翰

龜山法皇宸翰

後醍醐天皇宸翰

後醍醐天皇宸翰

龜湖室之額

後醍醐天皇宸翰

閻山國師香陽事

文殊清拙  
藥山圖馬公頭  
閻山頂相平田晉

藥山圖

高步達

虎之門

文殊釋迦  
老覺兆殿

示以俊墨蹟

梵仙

山水子果  
大明國師頂相  
虎之貞之門  
龜山法皇惠深  
法柏原院宸萬  
妙祐

南國師頂相  
明國師頂相  
游依遊依  
寧游寧游

文殊清拙  
藥山圖馬公頭  
閻山頂相平田晉

藥山圖

高步達

山水子果

龜山法皇惠深

虎之貞之門

南國師頂相  
明國師頂相  
游依游依  
寧游寧游

文殊清拙  
藥山圖馬公頭  
閻山頂相平田晉

藥山圖

高步達

蝦蟆  
達摩  
鈇杵

深幽

虎之門

蘆鳥  
蘆鳥林良

玄友堂商文進

荷馨  
荷馨可翁

文殊志溪

荷馨  
荷馨可翁

國子第

林良

鑑玉

水月

林良

鑑玉

水月

林良

鑑玉

水月

應菴像

桃因寮

什物

此殿

淮陽威院之清涼殿

人

柳之間

古法眼

祖師塔

虎之門

南禪寺  
方丈

元妙妙覺

山水

山  
水

山  
水

山  
水

山  
水

山  
水

山  
水

山  
水

山  
水

山  
水

山  
水

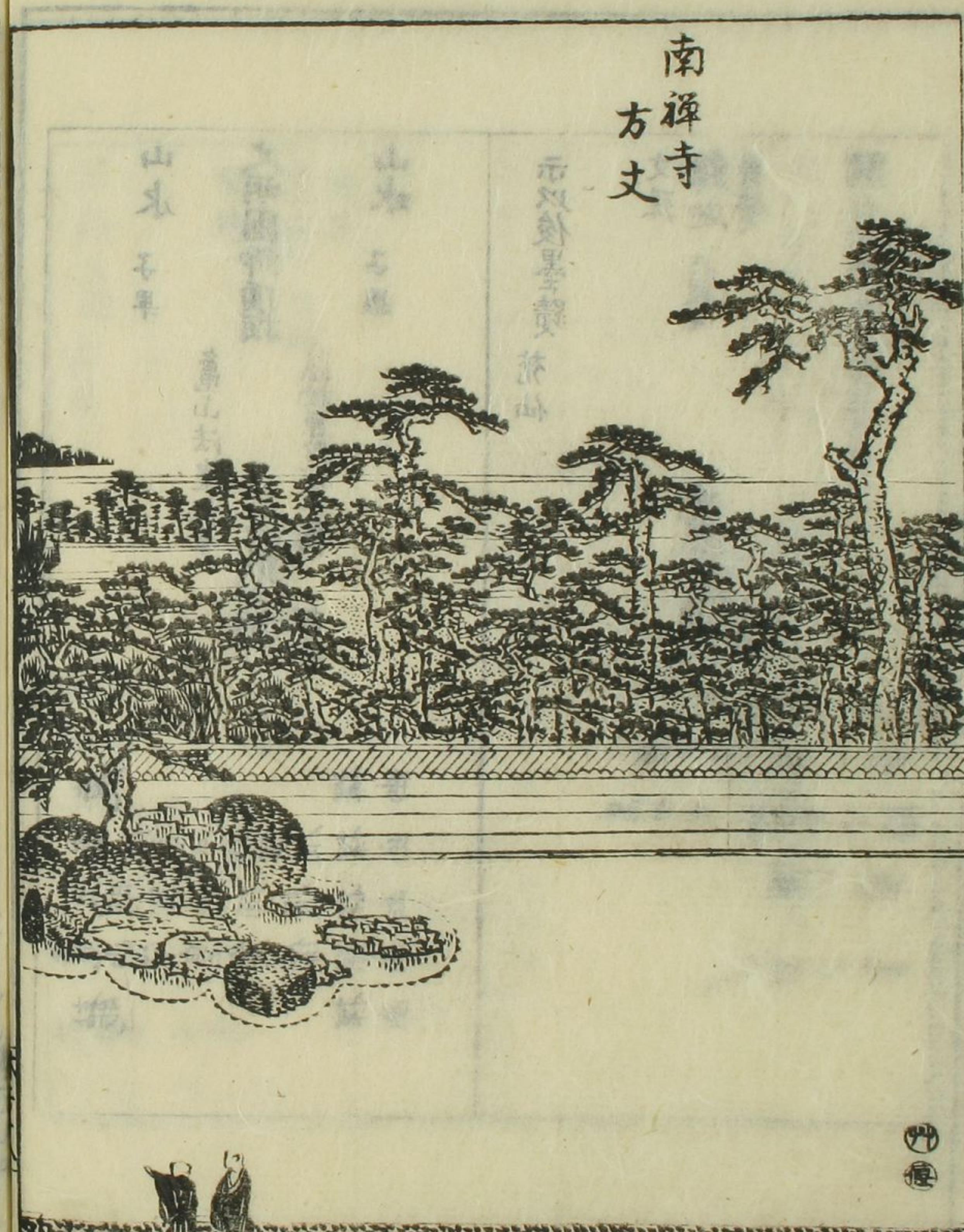
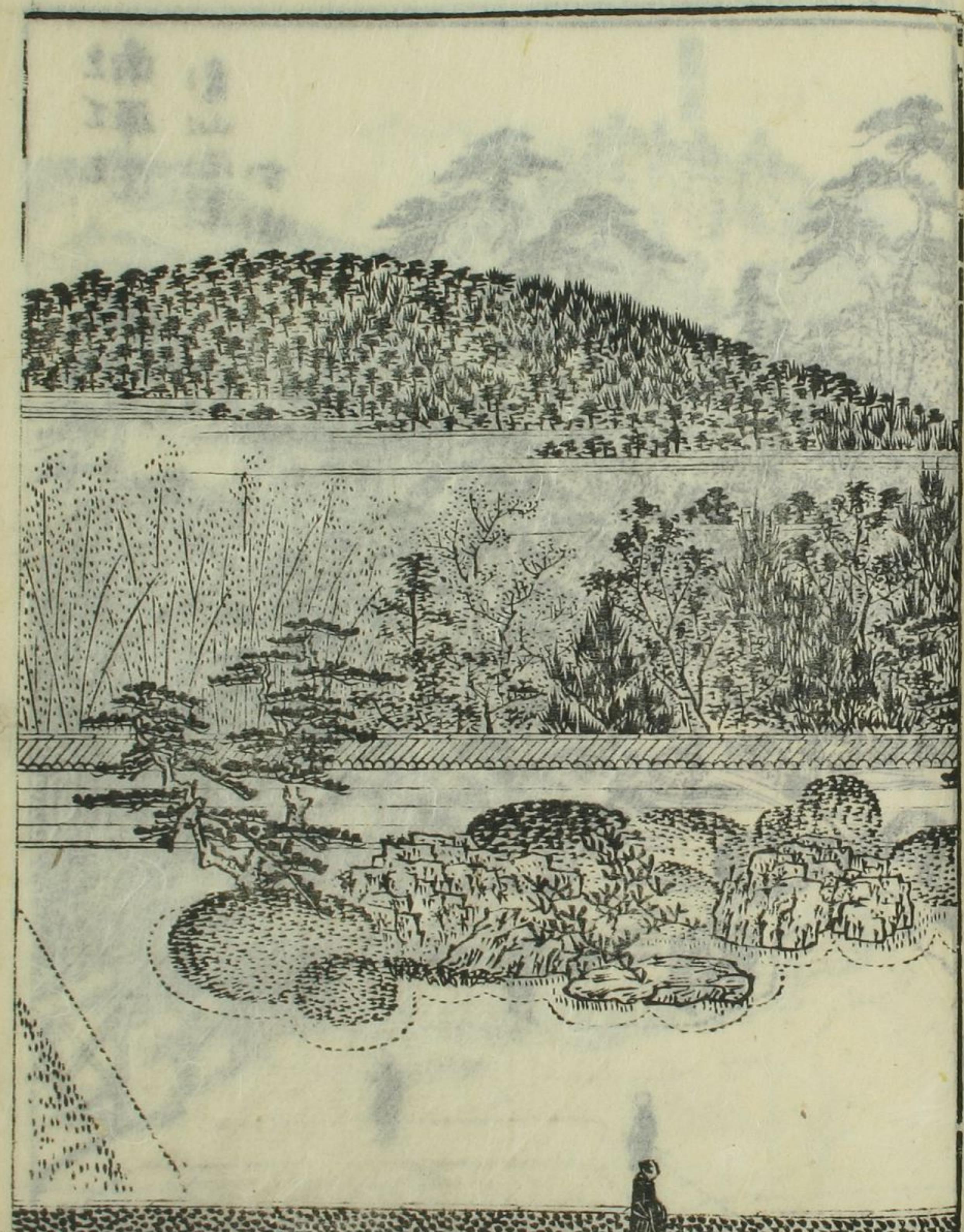
山  
水

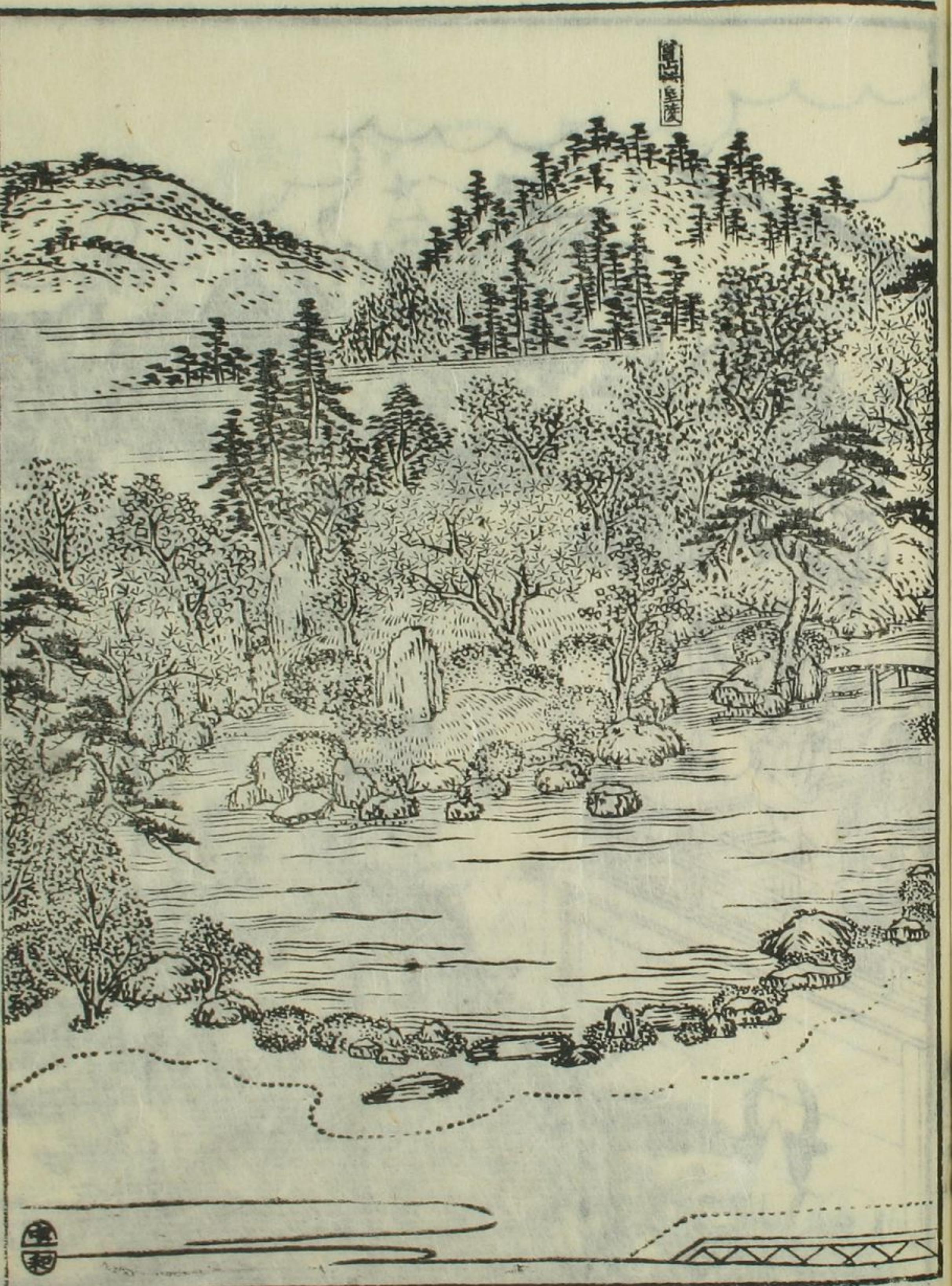
山  
水

山  
水

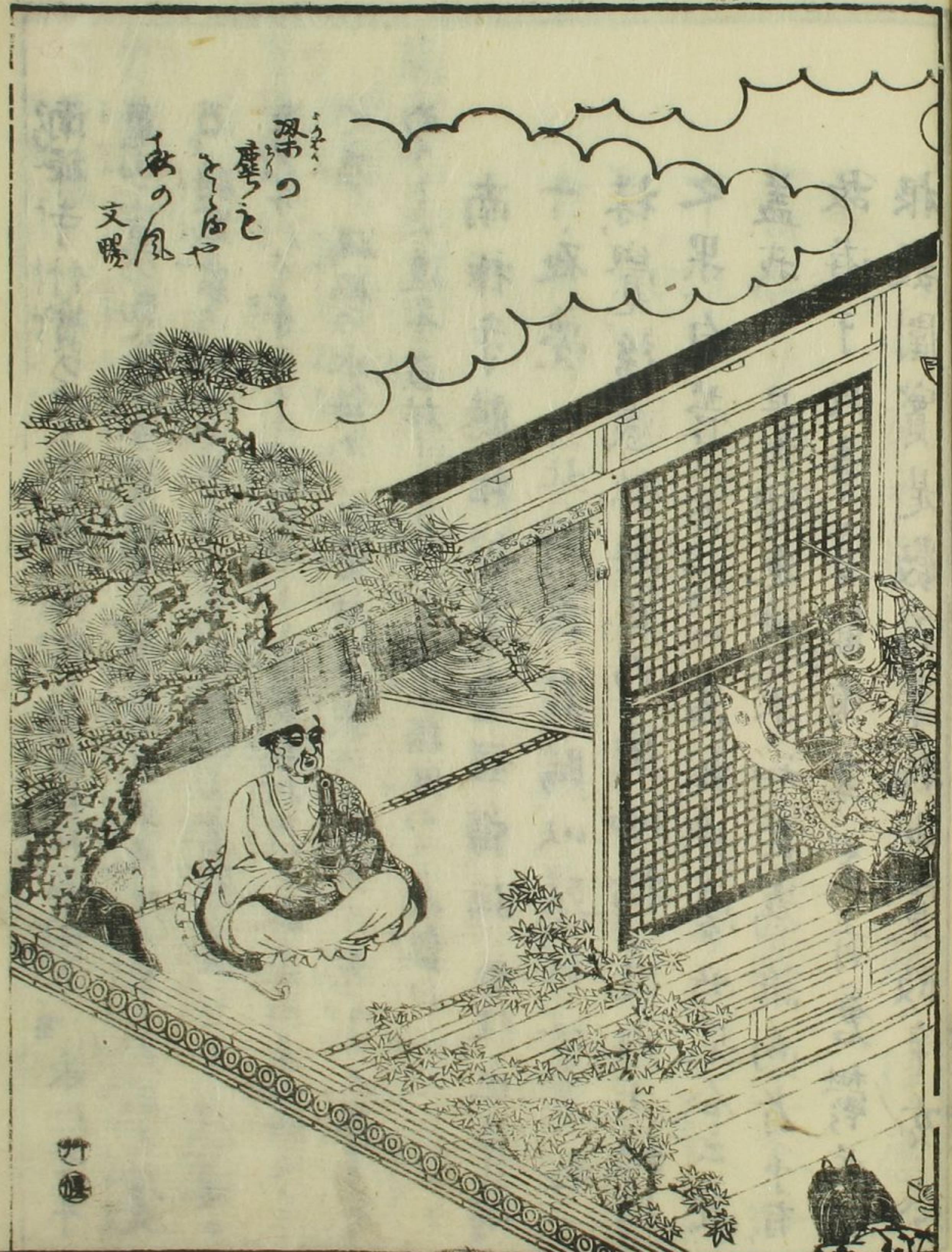
山  
水

山  
水





秋の風  
文陽  
立あつ  
壁あつ  
とて居や



南禪寺什寶の中小菅神の達銘 三幅 烏樞沙摩明王 一幅 永仁七年  
龜山上皇の勅書正安以降綸旨國宣院宣建成中宮寺足利家古發  
及將軍家の施捨文等あり其外塔頭古書軸を藏む。事記有通  
ちびれを筆する小源限。塔頭總松院の林泉風趣幽雅  
て庭小碼碯の水鉢あり又菅神爰想の名松あり老木の之樹平て  
あくしう迎年襄枯く朽く故小植繼り其銘曰

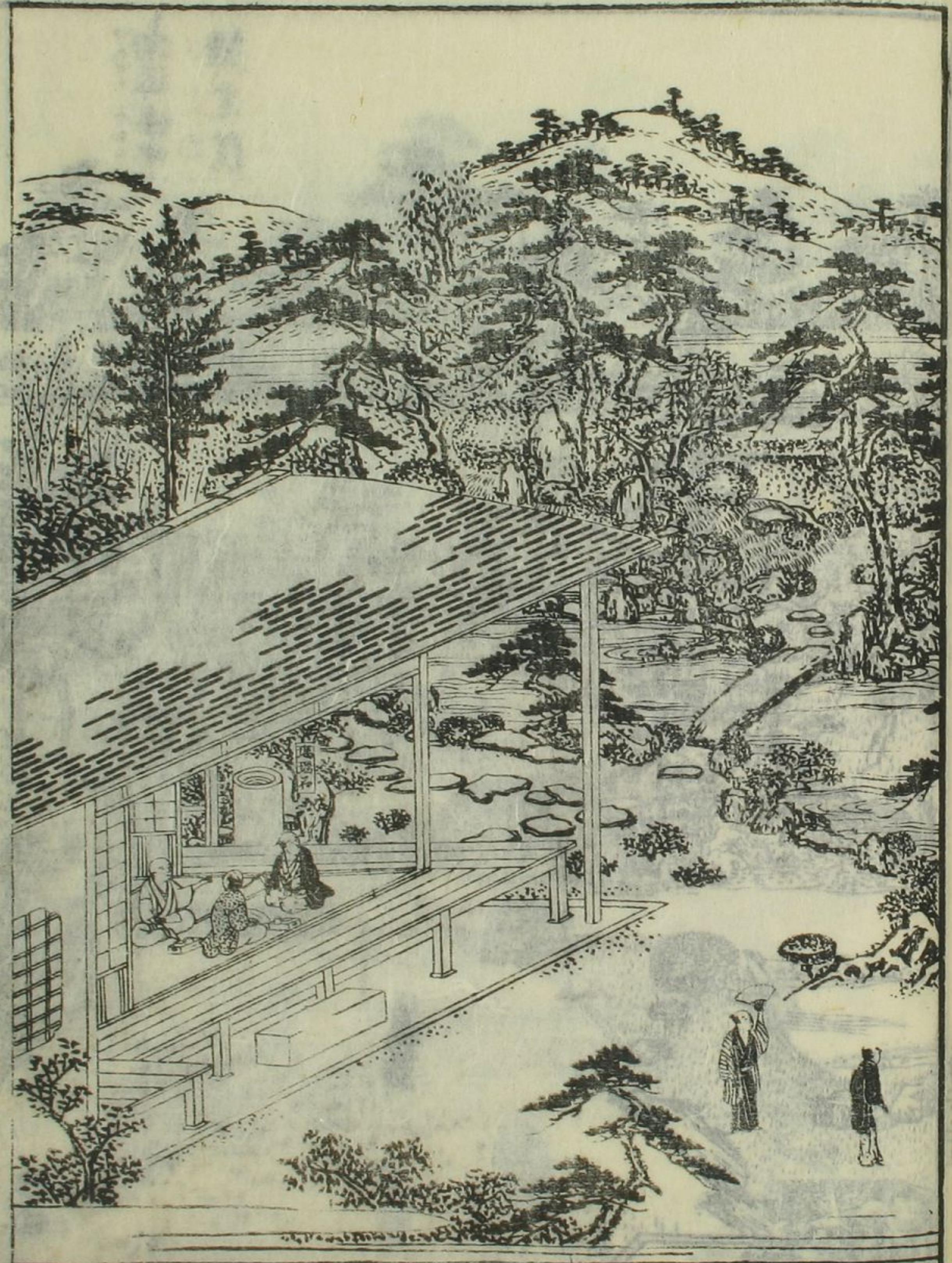
南禪寺聽松院者惠鑑禪師所住也。曾傳  
一夜夢 北野神君賜以殊所珍賞。松一  
株覺後感銘無已乃早洒掃庭内上地待  
之果自菅家贈一盆松與夢所見合云此  
蓋我 噩祖也然不知其為誰向者予有  
故遊于此寺賞觀有年矣青蒼鬱茂株  
根數圍實是數百年物也寛政辛亥今  
住持正巖禪師乞予詩之因賦一律應其  
需

青松百尺接天開、曾入高僧夢裏來、林  
下誰知奉 神許庭前偏好挺冗材、計  
年風外潮音起、仰 德雲間龍影回、元  
自奇句在人口千秋併賞賦中梅、

特進

菅原胤長

藤在衡公別業蹟 神樂岡の北小あり拾芥抄小見えり 藤山蔭卿の室也  
著聞集に記し 营之品の序文へ本朝文碑に著及推定 草言ノ  
詩小曰 勝地佳名何所感栗田別業在城東 無題詩出  
菩提樹院址 神樂岡の東より地名次櫻井とひく百陳抄云長曆元年  
玉葉 六月二日上東門院菩提樹院を參慶し  
寶莊嚴院址 聖護院村より長曆元年十月秀明天皇勅建  
舍芥抄小見えり承安三年三月十九日宝莊嚴院と和歌尚齒會  
而練妙に見えり



南禪塔中

聽松院

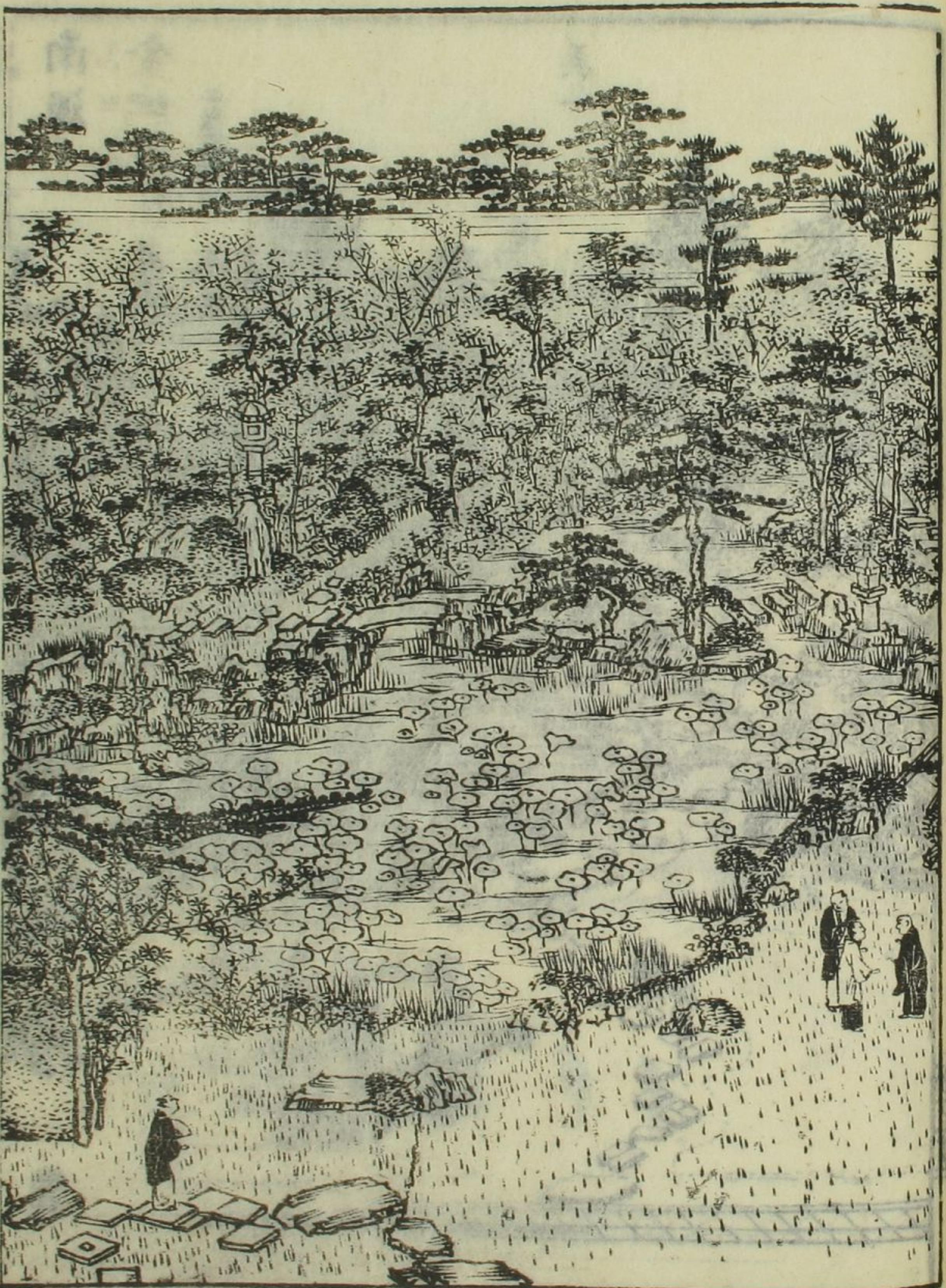
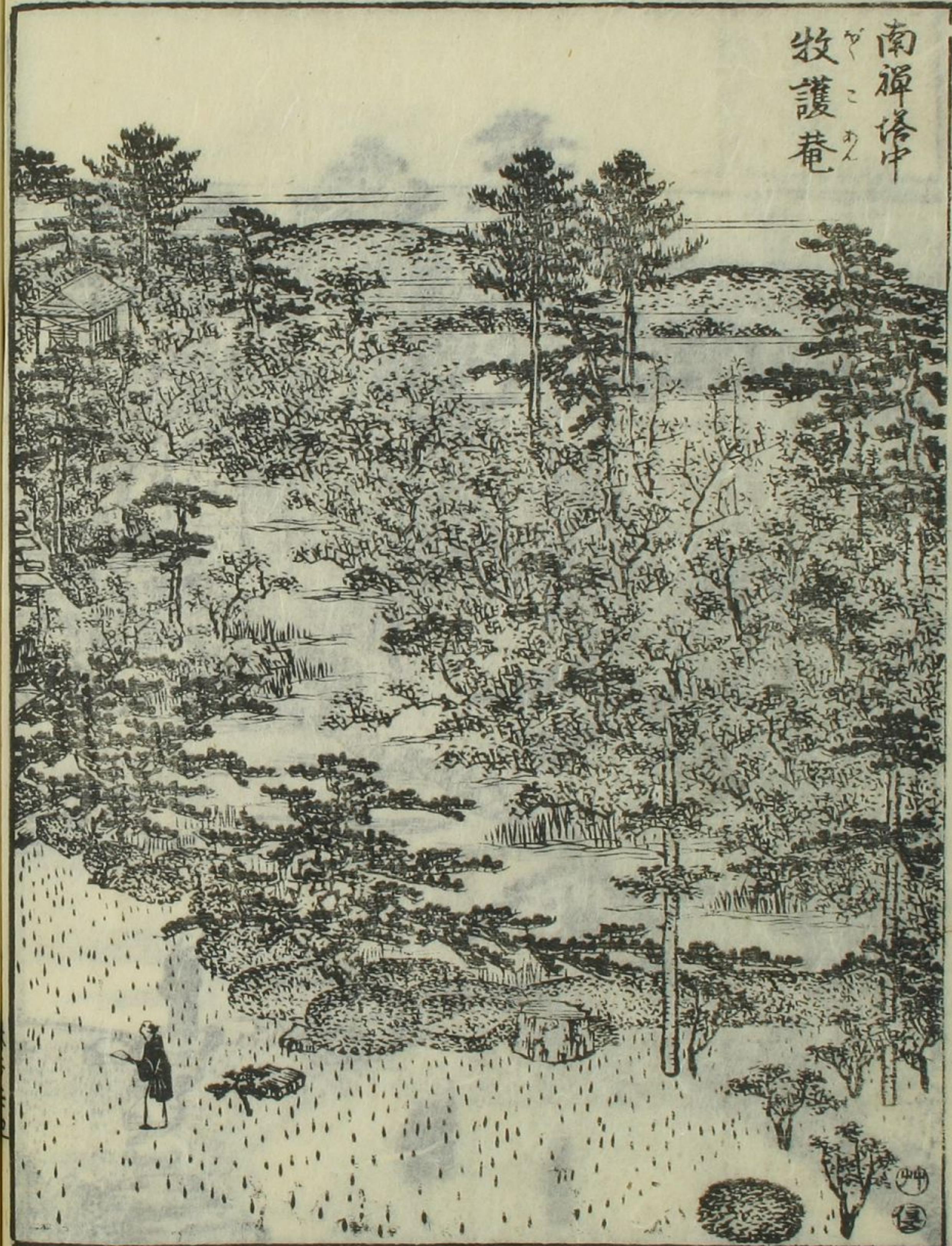
林泉相阿彌陀

苔神

垂松



南禪塔中  
牧護菴



南禪  
金地院

元  
小堀遠州作

真一



兵貳

師本崎の

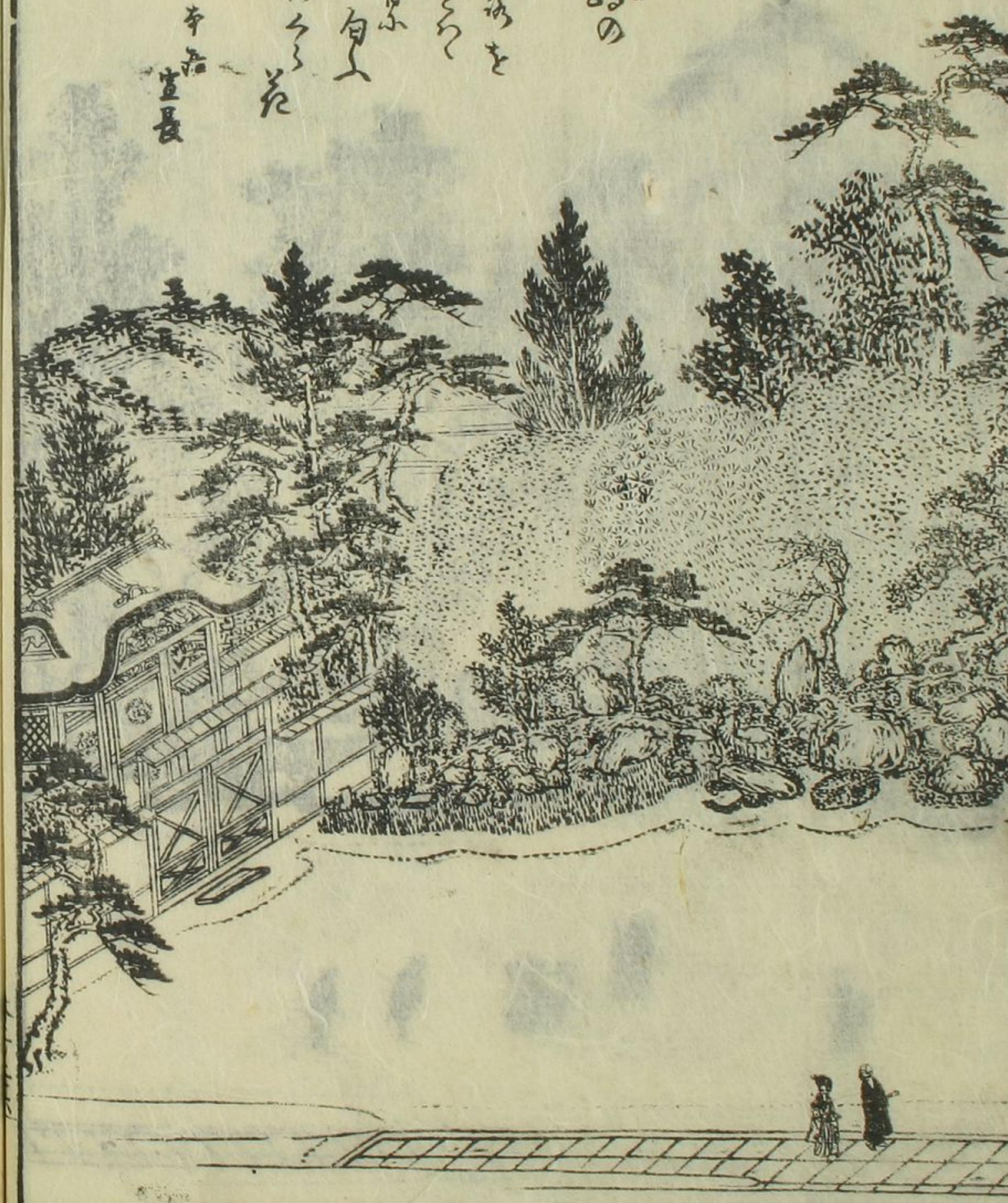
と跡

人そぞ

名自小

山内久

寺長



白河離宮

藤師實公新にありて公道築し向河帝法勝寺と連て離宮

於康平三年三月二十五日帝白河院より奉ゆ事より康平

記又之又本朝文粹云

夫白河院昔是大相國昭宣公之幽居今則博陸候

勅書

右丞相之別業也云云

花ゆふみゆたからに後りとひやりや生る白川の水

豪素祐親

法性寺入道

名古屋文臣

地名の字ふ約の北殿南殿築山下御所等あり元永年中向河上皇の

離宮へ保元元年崇徳上皇ちて遷孝ノ皇居とひて開墻内禰

わくく決戦に上皇瀬別に幸有く崩れ給ひ幕承二年

四月吉記ふ又えく建承元年七月兵燹に罹ひ文和二年

二月重く建宮ある大中臣賀紀に是より先嘉祐二年

四月粟田宮故東の方に遷り供養の害ありとりてより新殿

殿の東小あり泉殿へ阿弥陀堂故虛みわう堵名今小當かなに

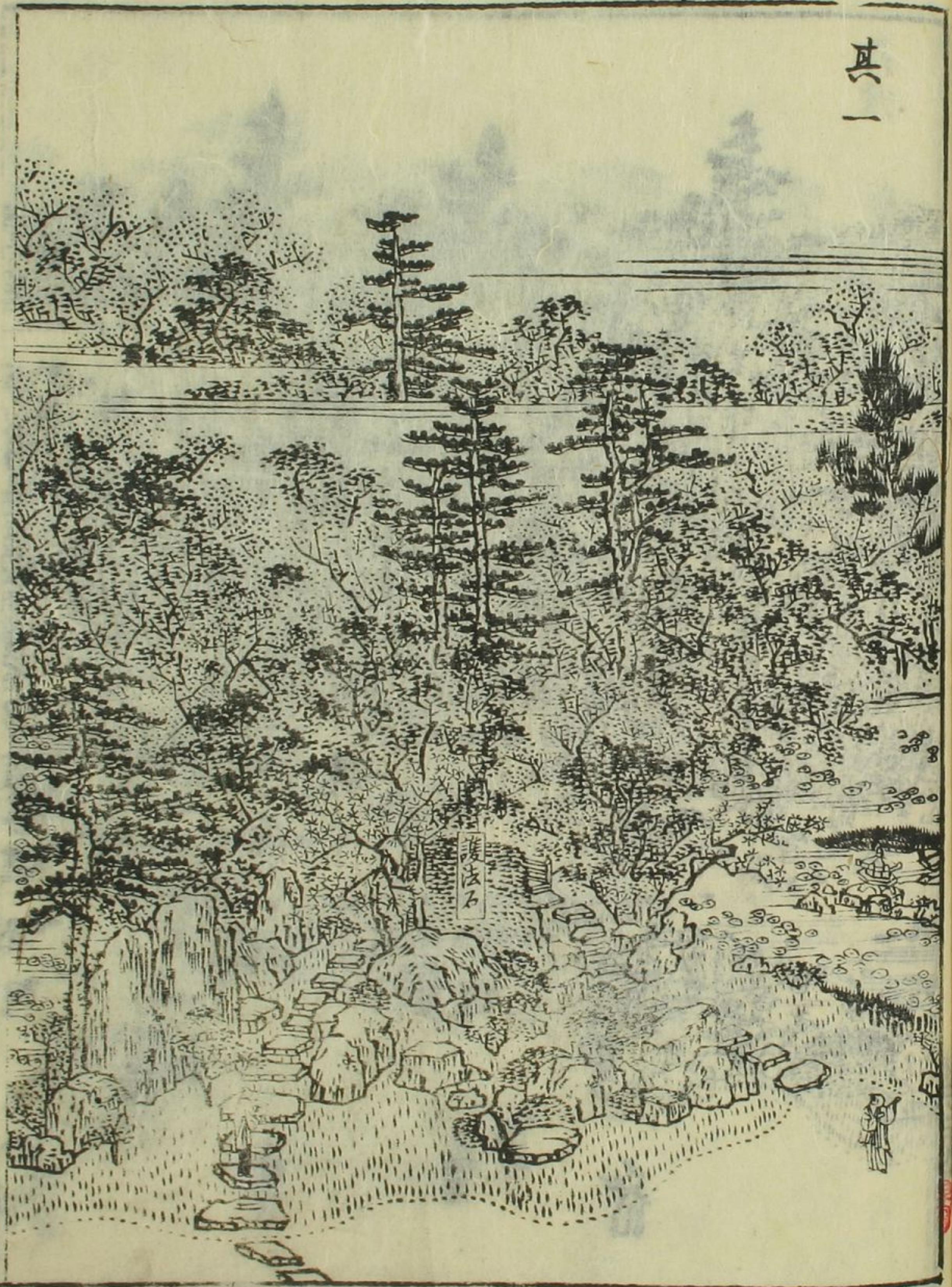
上院北白河殿野河御所向河池殿等も阿弥陀堂の東又安

岡寺殿へ岡崎村の中入地名故御所内といふ嘉元年中

鮮に万縫抄たる



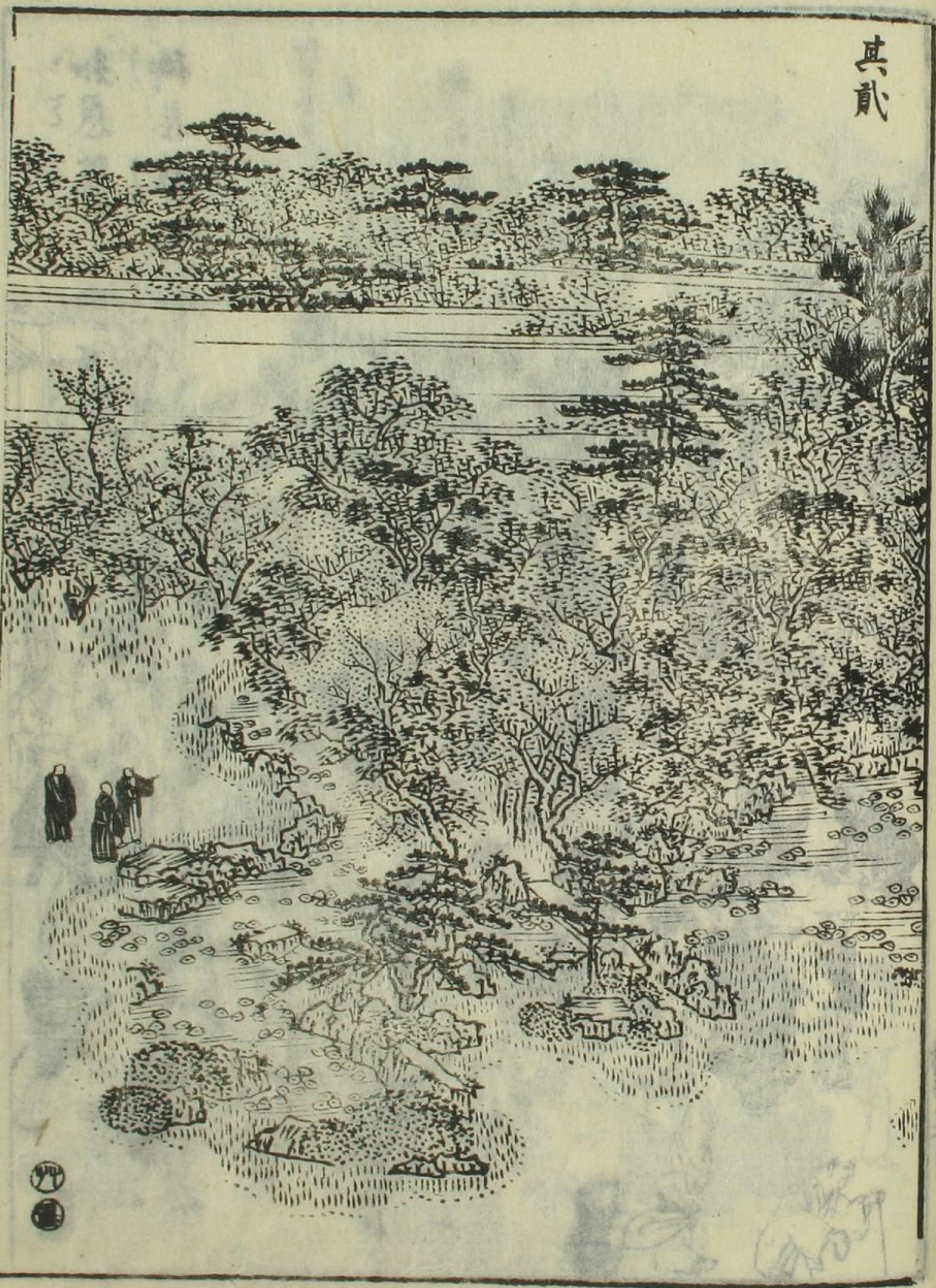
其一



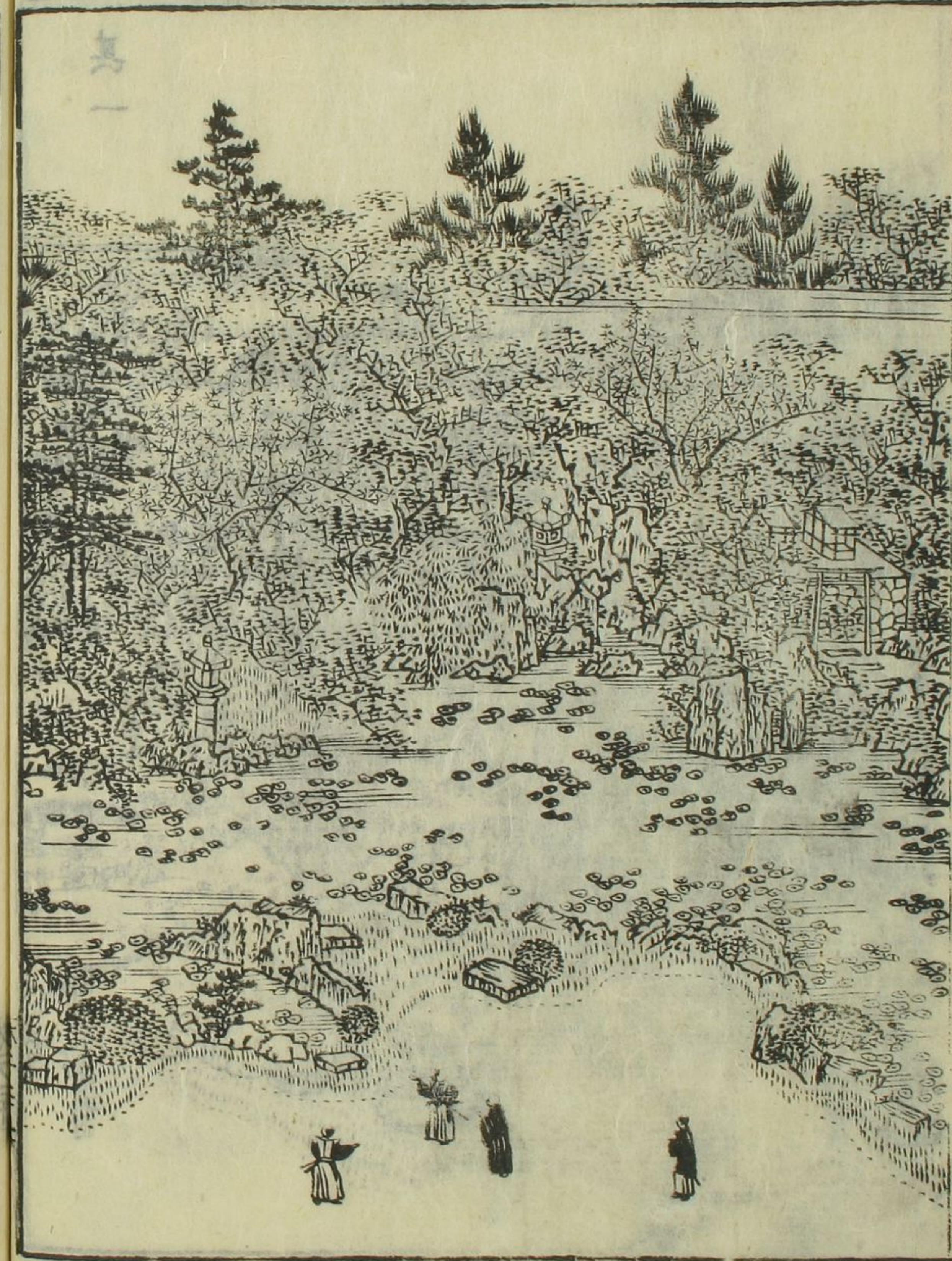
和恩教院  
方丈  
林泉

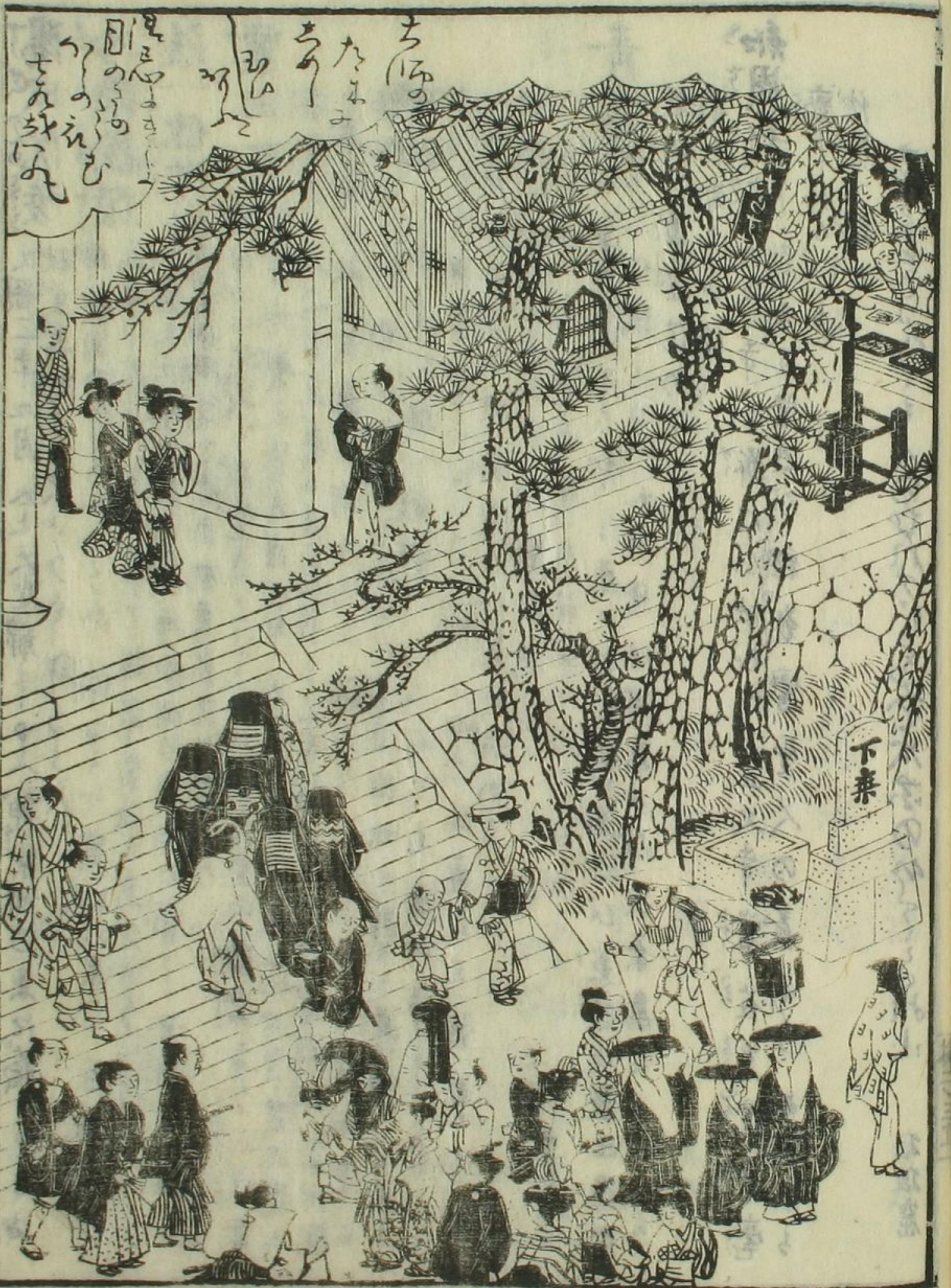


其貳



其一





陽成院陵

文醫二年九月太上天皇崩トヨリ神樂岡の東に葬一墓尚  
枝葉累記モ又トヨリ今蘇うるに寛弘八年十月櫻平の

冷泉院陵

神樂岡のやうりふあり今蘇るに寛弘八年十月櫻平の  
西小山葬一墓。帝王編年集成小尼元す。

栗田院陵

菩提樹院と建於枝葉累記著せり  
栗田院銀云元慶九年五月十九日神樂岡の東南に葬一墓尚

遷寺

栗田院北宗と圓覺寺とし。和天皇の離宮うり二代實  
原是太政大臣藤原朝臣の山莊より太上天皇和院より栗田院

青蓮院

遷寺と云ふ額と圓覺寺とし。又云元慶四年十二月  
太上天皇圓覺寺小山莊為義の山莊此址あり

新恩教院

栗田院小山莊。正久寺常在院。白毫院  
應仁院。大谷寺と號。正久寺常在院。白毫院

無題詩云

今來圓覺勝形境  
念佛遙期九品蓮

青蓮院

栗田院小山莊。正久寺常在院。白毫院  
延喜式云圓覺寺群

圓山

安喜寺と吉水大藏法院の故源人慈鎮和尚棲古山而總妙  
落東の佳境。長樂院。阿弥陀院。勝興院。正阿弥。花洛院。阿彌  
ス端。賽。多福院。阿彌。延壽院。通阿彌。延壽院。通阿彌。多福院。通阿彌。

圓山

安喜寺と吉水大藏法院の故源人慈鎮和尚棲古山而總妙  
落東の佳境。長樂院。阿弥陀院。勝興院。正阿彌。花洛院。阿彌  
ス端。賽。多福院。阿彌。延壽院。通阿彌。延壽院。通阿彌。多福院。通阿彌。

圓山

信願。中左阿彌。又。鐵田入道。生寺。道八。圓輝の子。北達磨の孫。のう  
長の舍。有樂の子。うむ。圓輝の子。北達磨の孫。のう

圓山

ふそくあれやつまうかくちふゆう一まゆゆうへ達磨今方  
つまうとおもふがくも葉廣うきらへにかほあせ浦ふ一あす  
麻も人モふ能古坊主ヲモ人トテヘテ

圓山

度試新トセ。然可残玉カト  
虛室元年日

今猶生一日へ御歸院を一山

羅人

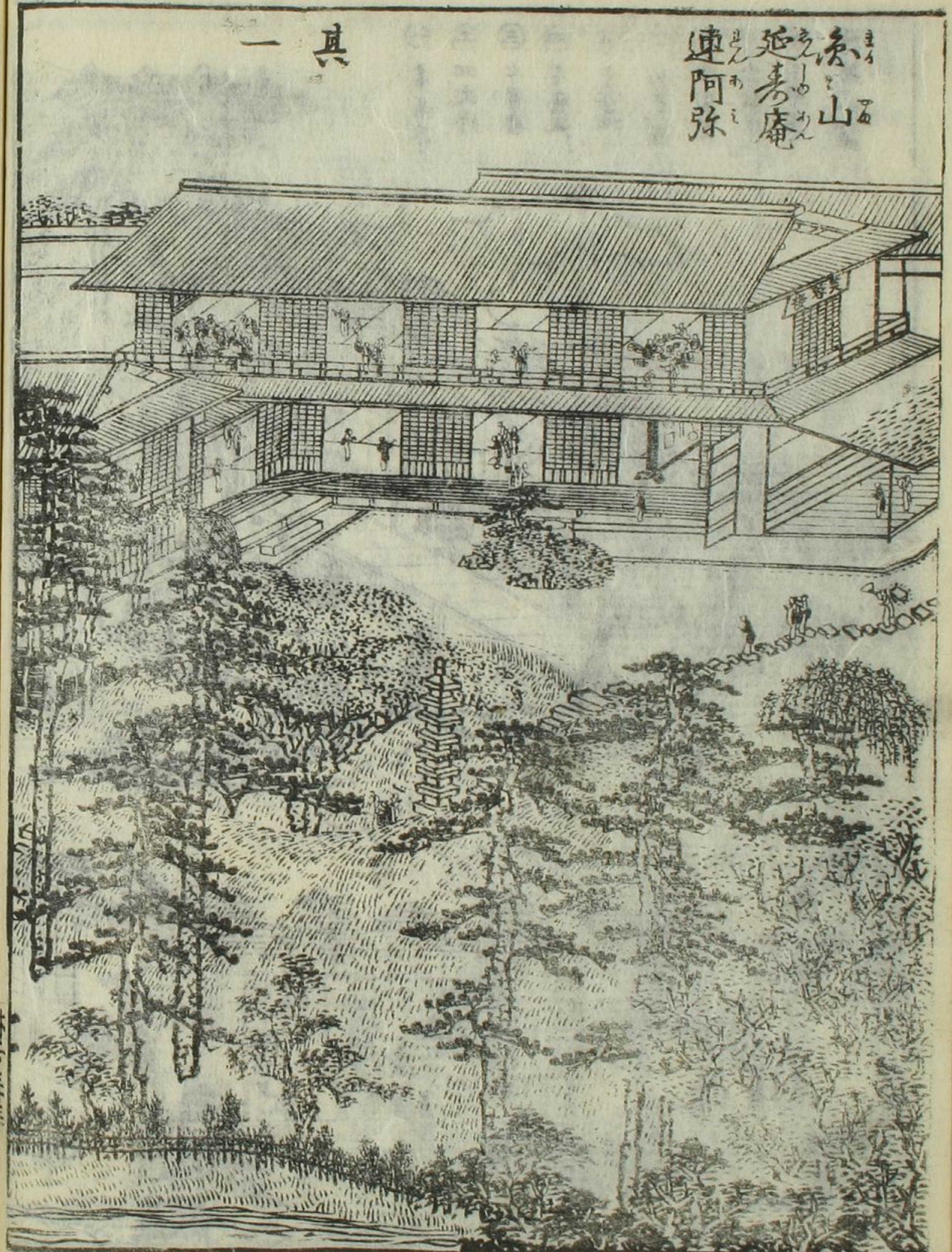
多麻多の庭造。阿彌の化多麻多の書院の画へ諸侯の手又

境地た吉水の名也。あり



其一

連阿彌  
延壽庵  
山

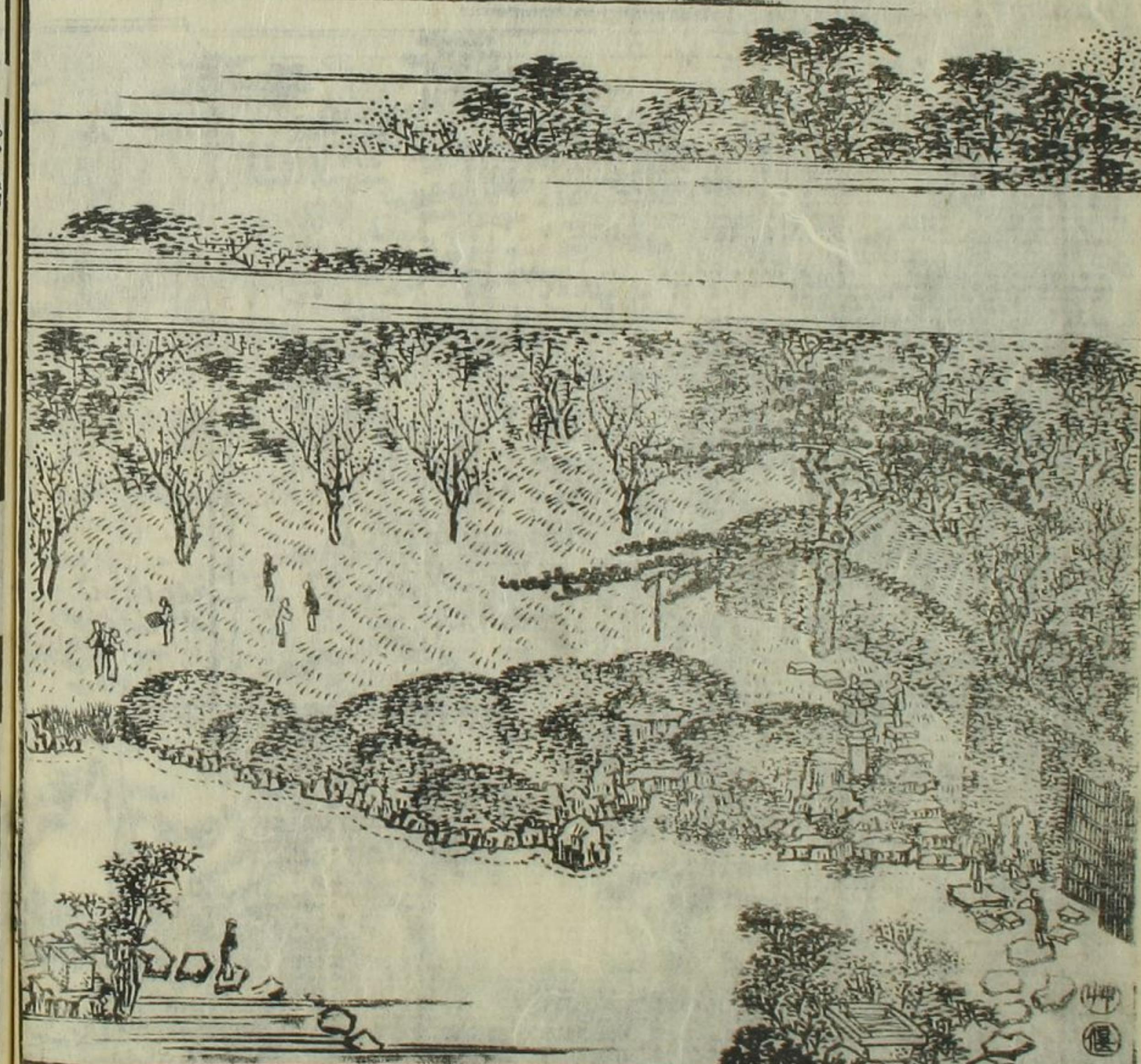


伊勢  
伊勢  
長衣の  
御法哉

内壁  
内壁  
藏

連阿休

其貳



將軍家

明應二年十一月五日  
魏徵卿記云

和漢雜詩曰

洛水城東第五橋秋風

上國思

未消遙

到

日若

相

想

莫

惜

音書萬里

遙

阿

師

海

浮

杯

朝

對

日

龍

宮

洗

鉢

夜

聽

潮

上東門院塔

通長公の女入枝桑畠記曰

嘉保元年十月三日崩

大谷水葬は

家集云

皇太后字せう夢ひく大谷に送りまく

われ君きのとをみたる谷の煙とさうんかけとくへん

相模

皇太后姫子塔

萬喜四年九月祇園の東大谷小葬

院の皇后

通長公の女入枝桑畠記曰

嘉保元年十月三日崩

大谷水葬は

長樂寺

祇園の東より寛平年中建立

捨芥抄ふ見ゆひ

就治傳

の如すあり後拾遺集に有

初冬於長樂寺同賦落葉山中路

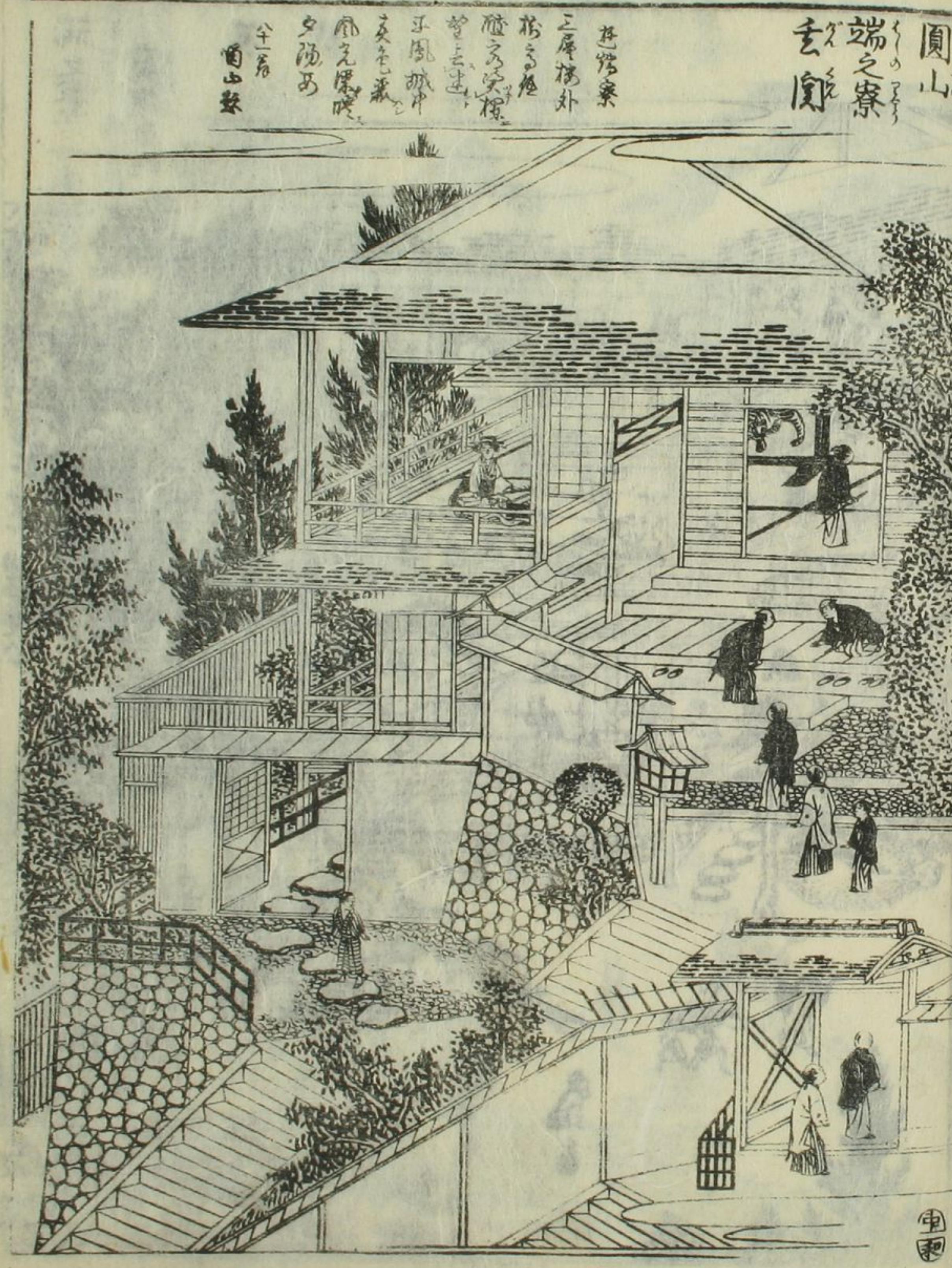
高岳相城

夫長樂寺者形勝之其一也山頭東嶮望

鷺峯於不退地之前野西平顧鹿苑

本朝文粹

夫長樂寺者形勝之其一也山頭東嶮望  
鷺峯於不退地之前野西平顧鹿苑



圓山  
端之寮

圓山

遊方客  
三層樓外  
花木  
登高處  
平風城  
莫去也  
夕陽也  
風光也  
夕陽也

圓山

無漏界ノ之右。干以俗機可斷于以業塵可  
而消故吾黨占斗藪兮攀登擊合掌兮禮拜  
已矣于時樹間葉落山中路幽晚霞影  
漫埋出峽之猿叫曉雨聲冷暗洗在林  
彼鹿鳴度瀾口以續紛拂岩腹以蕭颯至  
葛錦窠脆而辭蜀機丹丸碎而謝仙龜焦  
稚反杖穿朱買臣之衣隱逸優遊履蹈  
仙之泉脈漸久其白者也既而世外地  
撞雪中樹前鑷振九條寒嵐傳而響遠鐘  
雖守槐林之株花報猶芳始到蓮官之砌  
請仕禪定將離愚癡云爾

芥子園院内林の内ちうへるハ拾芥抄云左大波尾張定鑑の造建  
又僧西行芥抄の如芥菴集に見ゆる又平庸頗入道の山莊  
の舊蹟なり平寂院及び寶物集記すア阿法師の墓あり  
遷玉集れ出たり近年双耳頗阿の古蹟芥華園院とあり唐小  
荒廢久至徳年仲圓阿上人名地の

端之寮

庭阿弥地

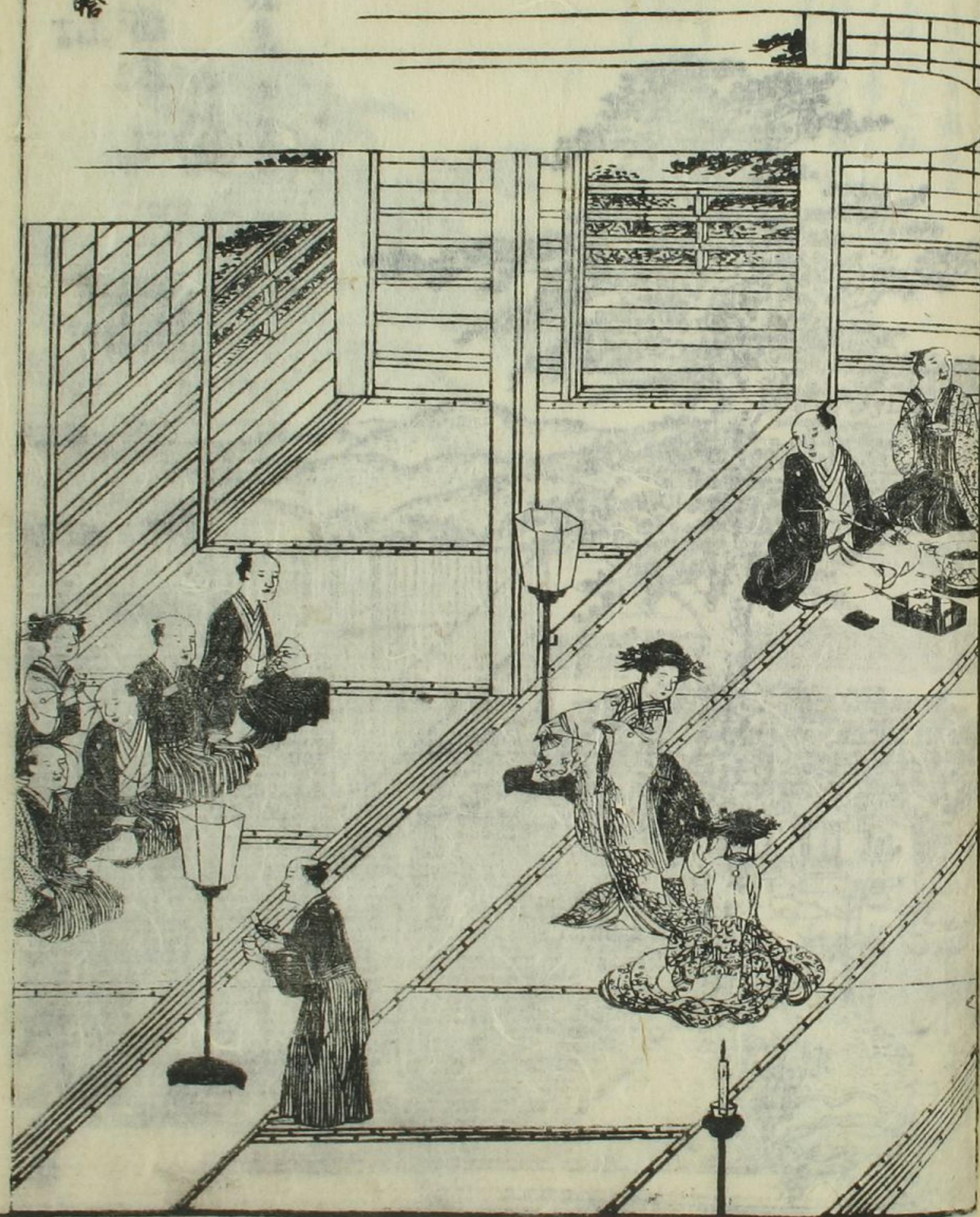
其  
貳



六如庵慈周

右  
桔子端寮也  
永田櫻齋曾  
大書此立字一扁于其樓

呂繪  
胡夢小扇子



福庵の風景  
松の風景  
扇の風景  
庵の風景  
福庵の風景  
松の風景  
扇の風景  
庵の風景  
肥庵の風景  
松の風景  
扇の風景  
庵の風景  
福庵の風景  
松の風景  
扇の風景  
庵の風景  
在ありと見て  
在ありと見て  
在ありと見て



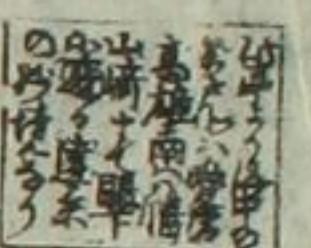
一其



春日同詠寄鶴祝吉  
か幸たづな美川純  
あひそ參みか新  
都原清ちと雲谷梨  
毎多教旨志  
正二位質枝卿

されも福華の  
當り一時海をく懐  
事と空きう

春山  
多福庵  
也何殊  
林泉有斐也



多福庵

有聲他

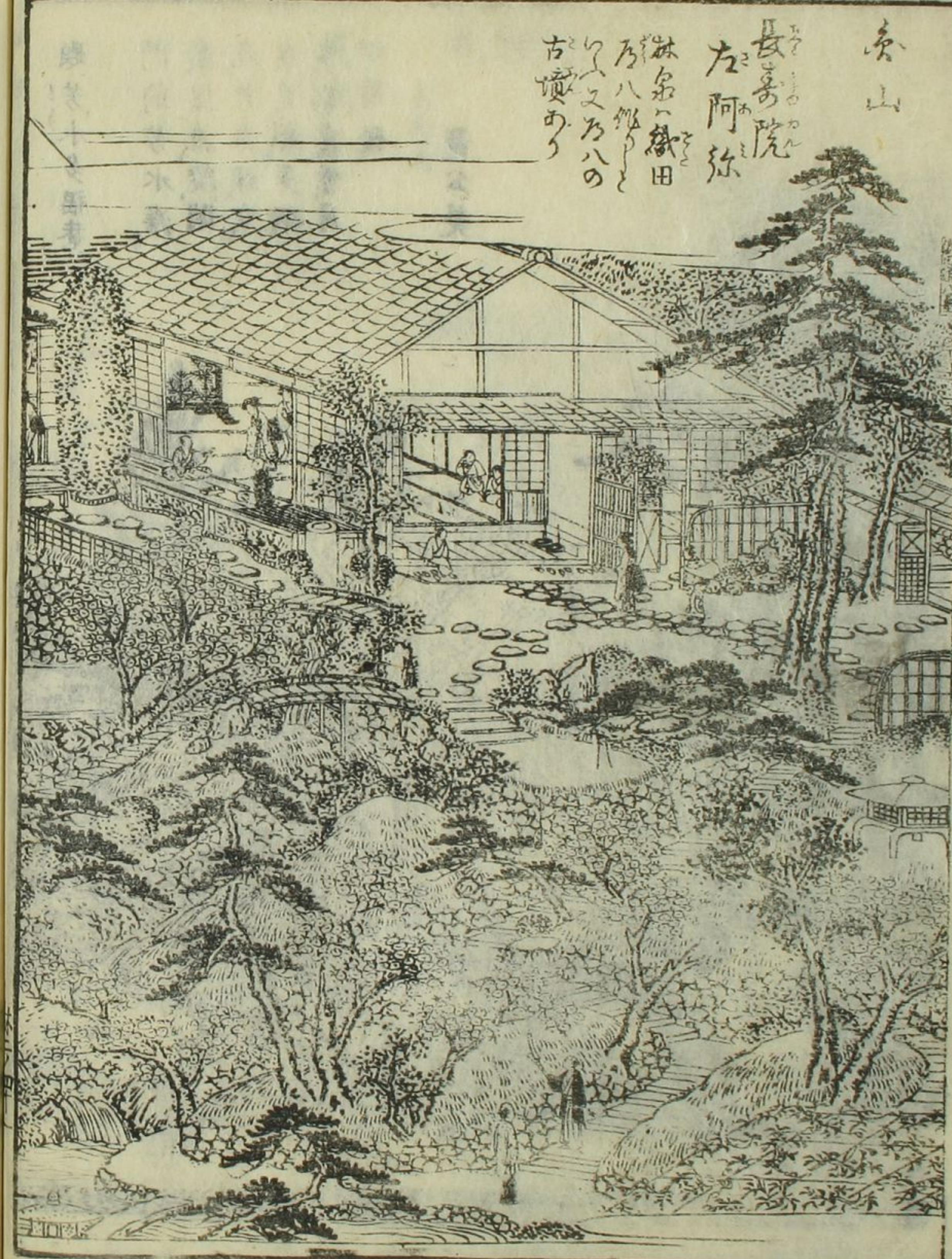
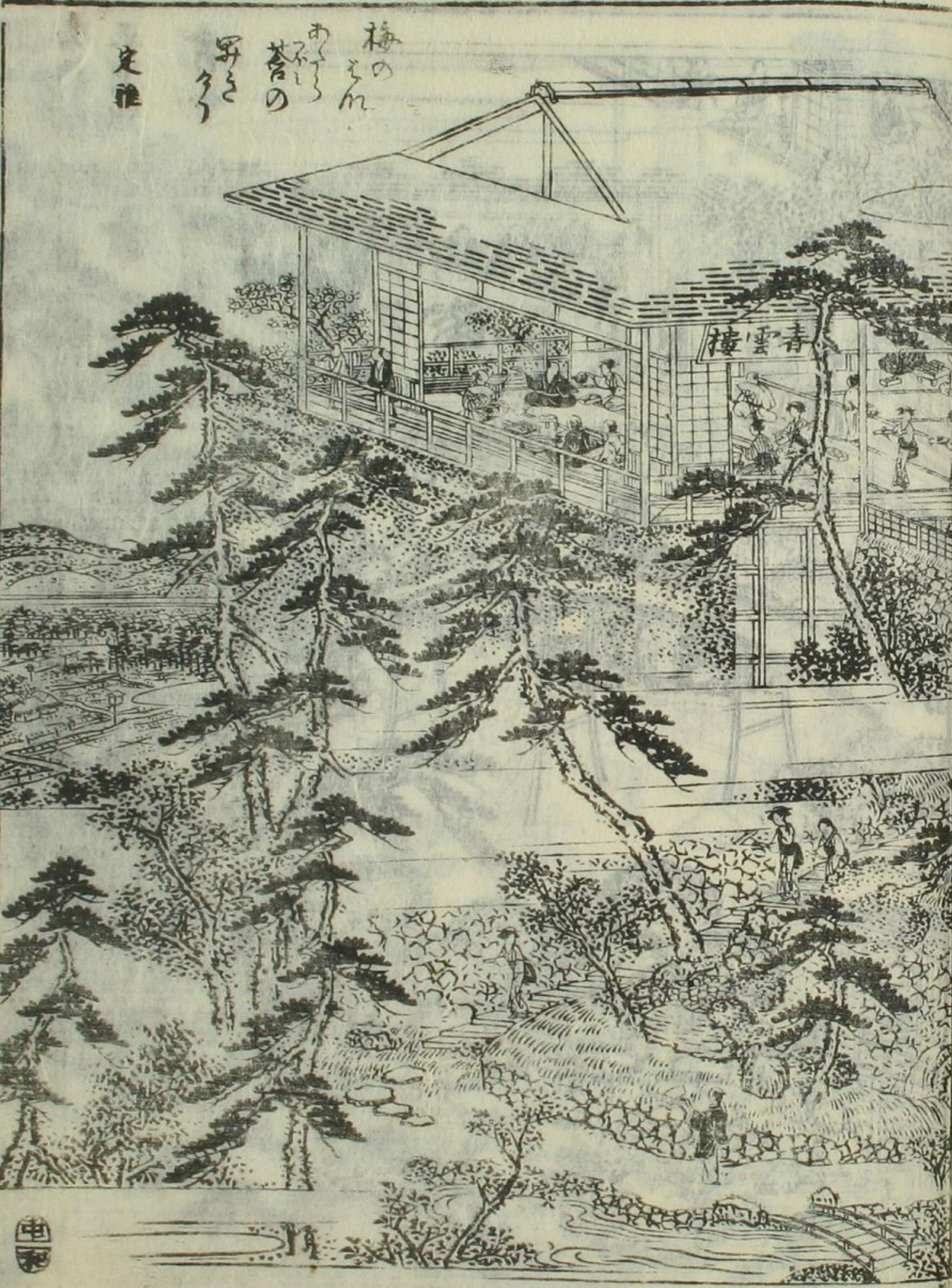
真貳

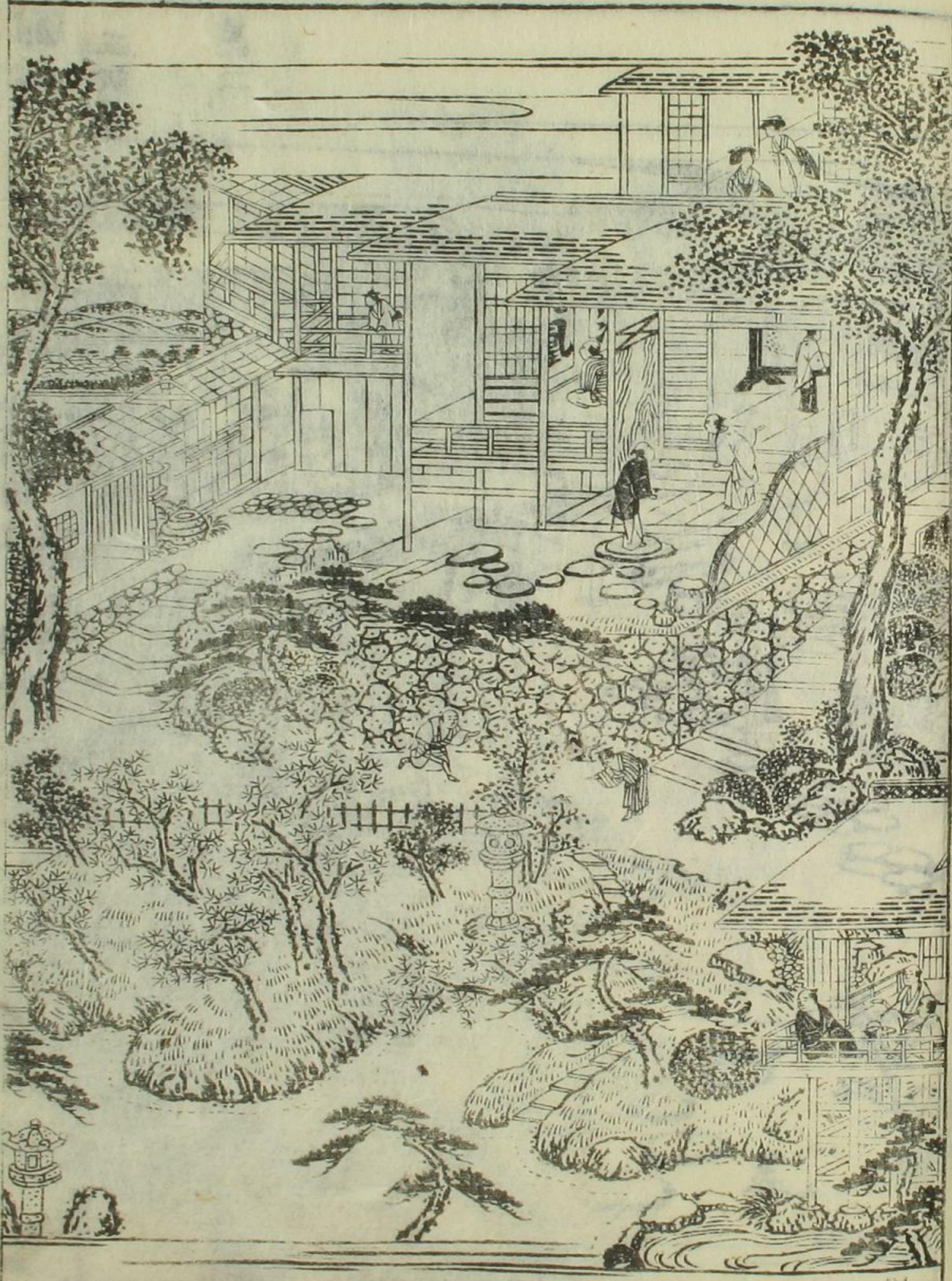
題芳水多福庵

門前芳水澹  
巖崖流繞閑  
苔自埋宜矣  
題多福字樹霞  
雪月四時佳

龍公美

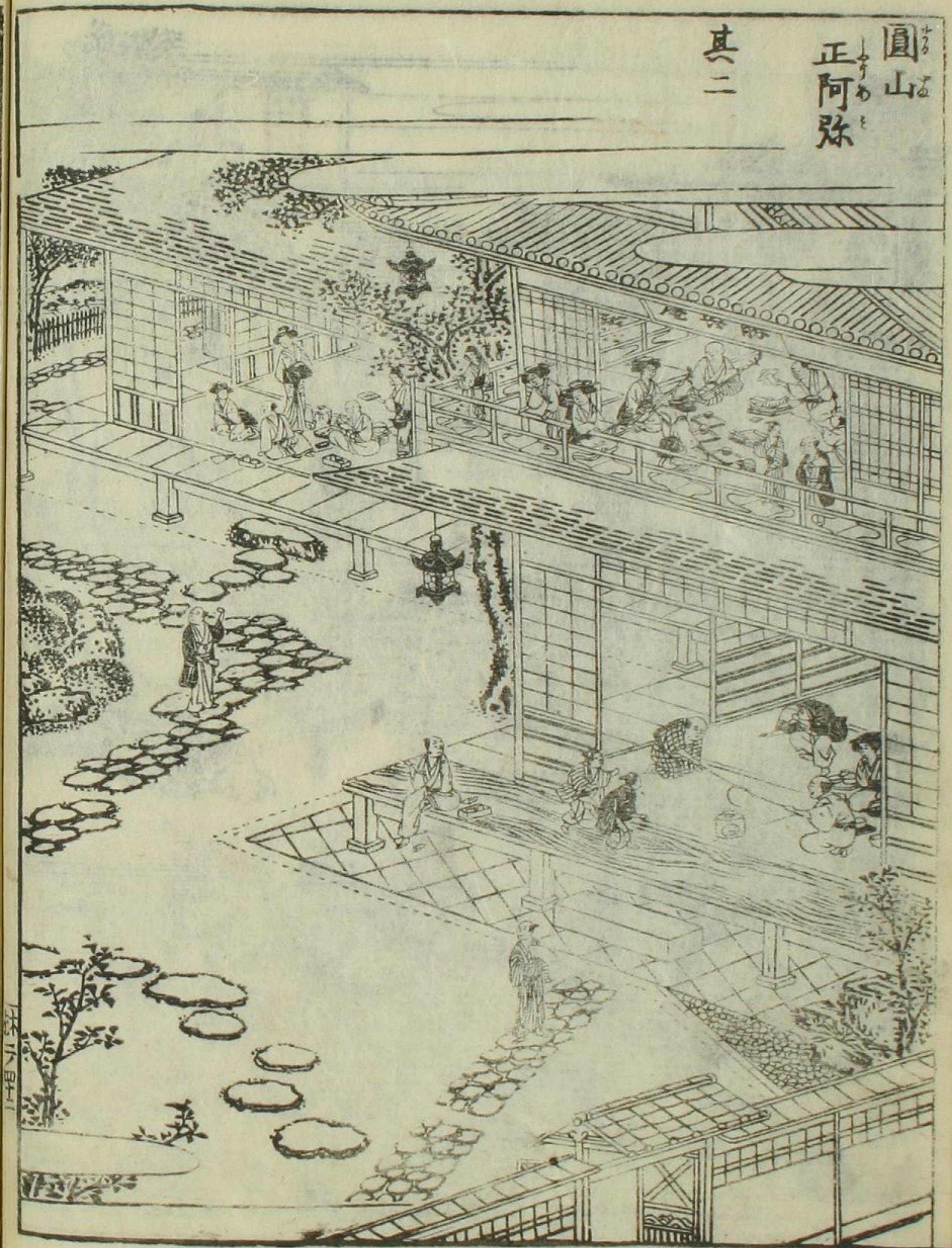






圓山  
正阿彌

其二



祇園社

感神院牛頭天王と號す

文永二年官符公賜て愛宕郡八坂御觀慶寺

感神院

大師と號す有り奉る。投票殿主たるに承安二年六月上皇神樂ニ基と進む。百練妙みあり正殿禮殿神樂御厨御小祠四十薬師堂今當觀音寺と号す。元之文作堂多宝塔へ邊世鳥有小羅の洞宮の長久朝御事といふ。家本建仁以降編旨院宣國宣及び將家の書。神樂十章と稱む。僧房九區祠職二十柱家あり。六月祇園會神樂の北四條系極小あり。過年修補せ建て。いよりち鳥丸五條坊門善院小あり。今かが大政所附といふ。

○祇園神輿洗

受く禍災と祓除を爲す。五月晦日生子の男女祇園社小祭して各移次

とお殿小出。一式と祓除する。謂津社の中央へ素盞烏尊あれが故耳。名あり。四月廿日より春子の人々一様の桃灯と竿頭に張り伊達政所と号す。西へ榆田路あり。が將牛と号す。東へ龜王女と号す。一基の祇園附地藏堂のあさぐ神幸し。又祇園鴨川の女伶妓婦のま風流に優れ。其の盛りは催くあり。又祇園附地の御子の茶屋の集い。榆麻のめぐ天地の向もろう多き。又六月廿八日也。

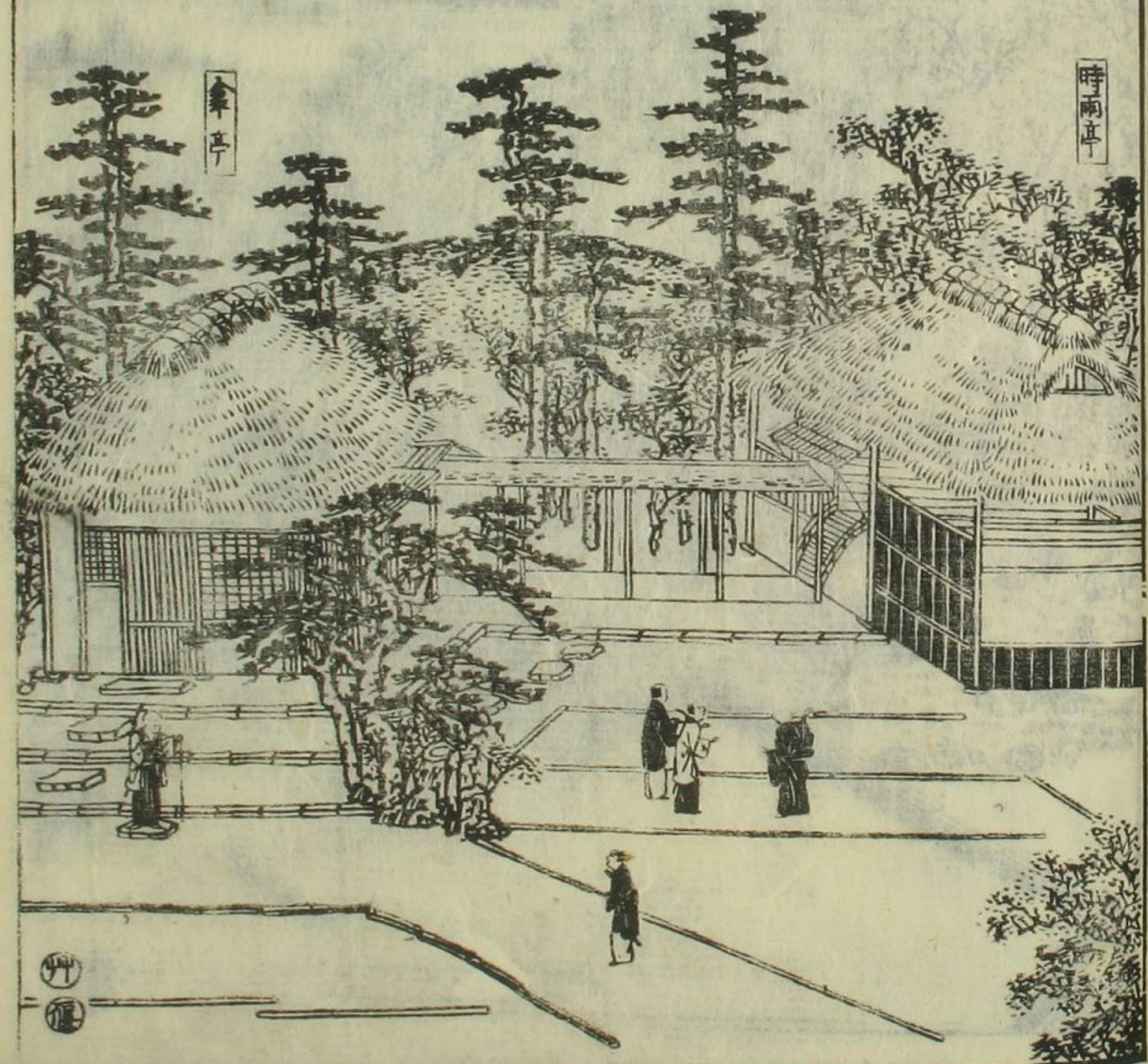
平遠物故出。祥祭晦日黒きにみる。神徳の能。

天下の能を以て。高麗。

美の宮人雜物。夏秋ひ。

難易

高臺寺の林泉は豊太閣御靈舎の下四方の東すあり。圓光寺雅う。一側屋と縫の便ゆ。舊は地名を屋守岩栖院金仙寺等の古跡。山莊は跡す。而て號す。中納言隆良卿の山莊は跡す。而て號す。慶長年中豊太閣の丈人高臺院湖月尼公の營修。則ち小寺。石塔壁あり。又其側小天哉翁長嘯墓と建る。投票舎へ寶形造り。而て圓外莊殿。是人長押の上。世六歌仙と稱る。和奇ハ八條智仁親王。筆画ハ土佐光信。秀吉公影政所尼公。之江和尚像。平二位法尹像。常光院殿二位法尹。法尹妻尼像。永壽と号す。極監物像。淨英と号す。洛東の佳邑。又く名區。多く毫毛細花幽艶。とく匂ひ濃く。病院。又く走火体。驚嶺の月皎。とく祥之をハ連峯。小石繡絵と風み隨へ。く若木伏虎。東坡が向風に騎かや疑ひ。宋玉が幽蘭白石の曲を化す。の勝地也。



口も  
相合金算の  
傍も俗  
班外

高臺寺  
金算亭  
天井丸く  
金算とちく

高臺秋過  
暮人靜梵王家  
放參鐘絕後秋風  
遊高臺寺上方余有感  
讀其唱和詩有因賦呈二  
正織百佳  
賓六數歸巴嘆火金銀寺化漢地  
使下避雨寒吹帽菊水試茶香滿杯  
寬政己酉春  
鞠空門心不着堪看鹿跡上高臺  
政荒場心不着堪看鹿跡上高臺  
勤重構亡幾殆復舊觀  
功亦偉哉  
夏支頑幸有人重榮花木挽回春  
除林表孤峰色二百年來事々新  
唯巨

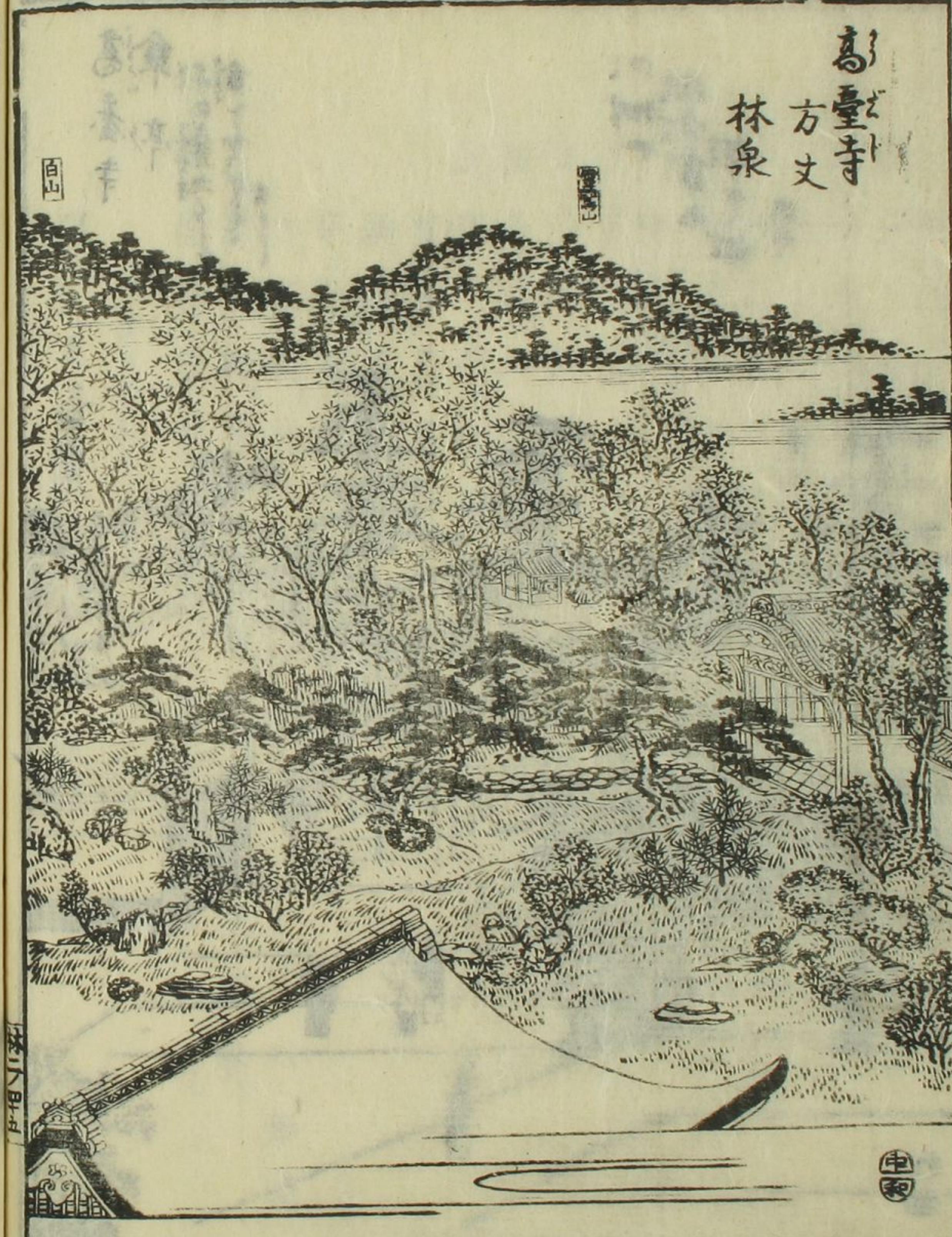
六如菴  
定雅

よ臺の花さうふ

其一

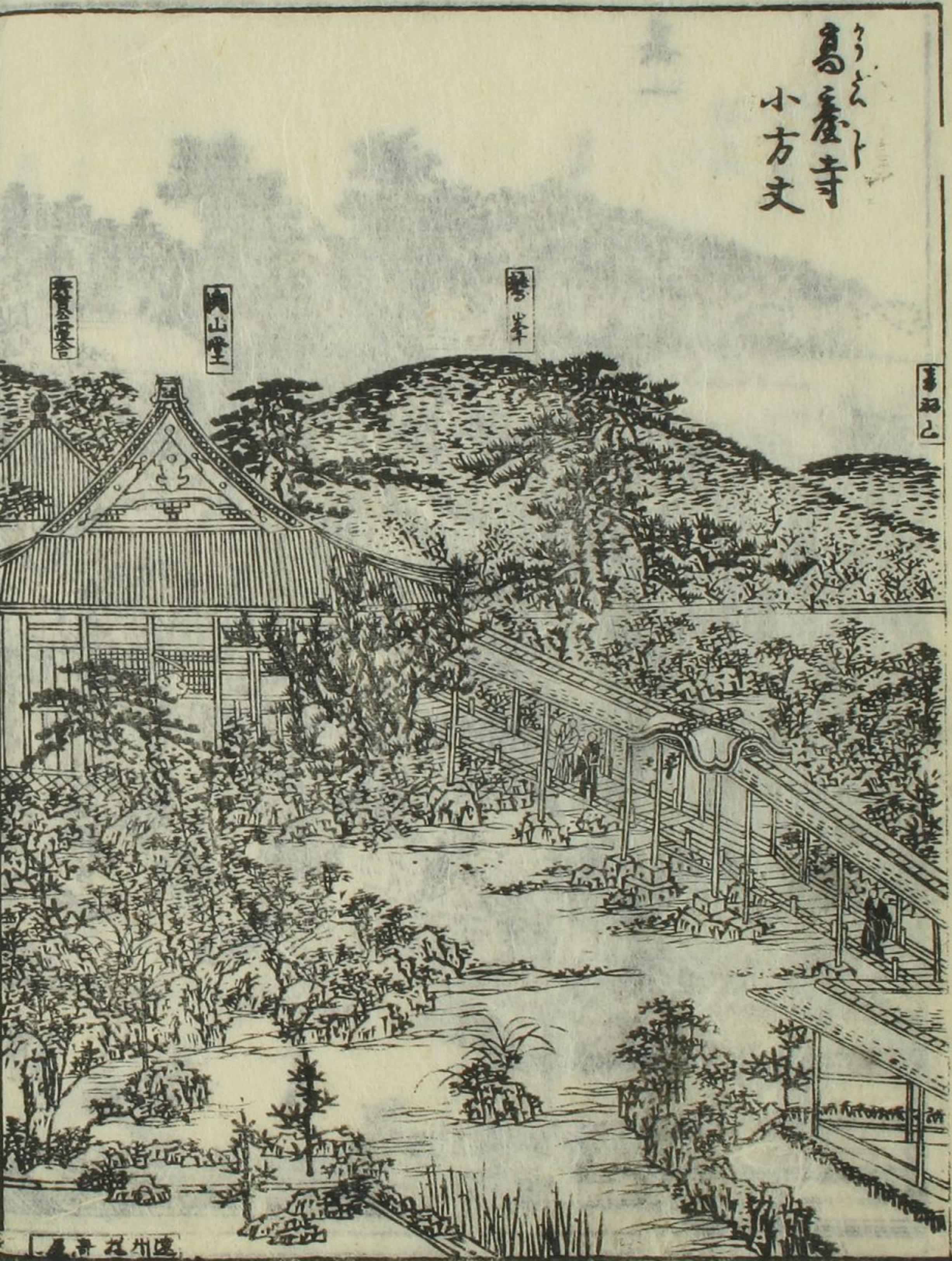


高臺寺  
方丈  
林泉



高臺寺

小方丈



同賦

環中禪師

登高非俊俗  
迎賞爲林泉  
攀閣幽松際  
柵欄飛鳥前  
暮寒千嶂碧  
雨氣萬家烟  
還莫歸期晚  
好教初月懸

乙卯重九  
環中上人邀登  
高臺寺山閣  
設宴  
蕉中禪師  
白雲西望夕將沈  
綺席留連興轉  
深不擬登高能  
作賦解言山水  
有清音

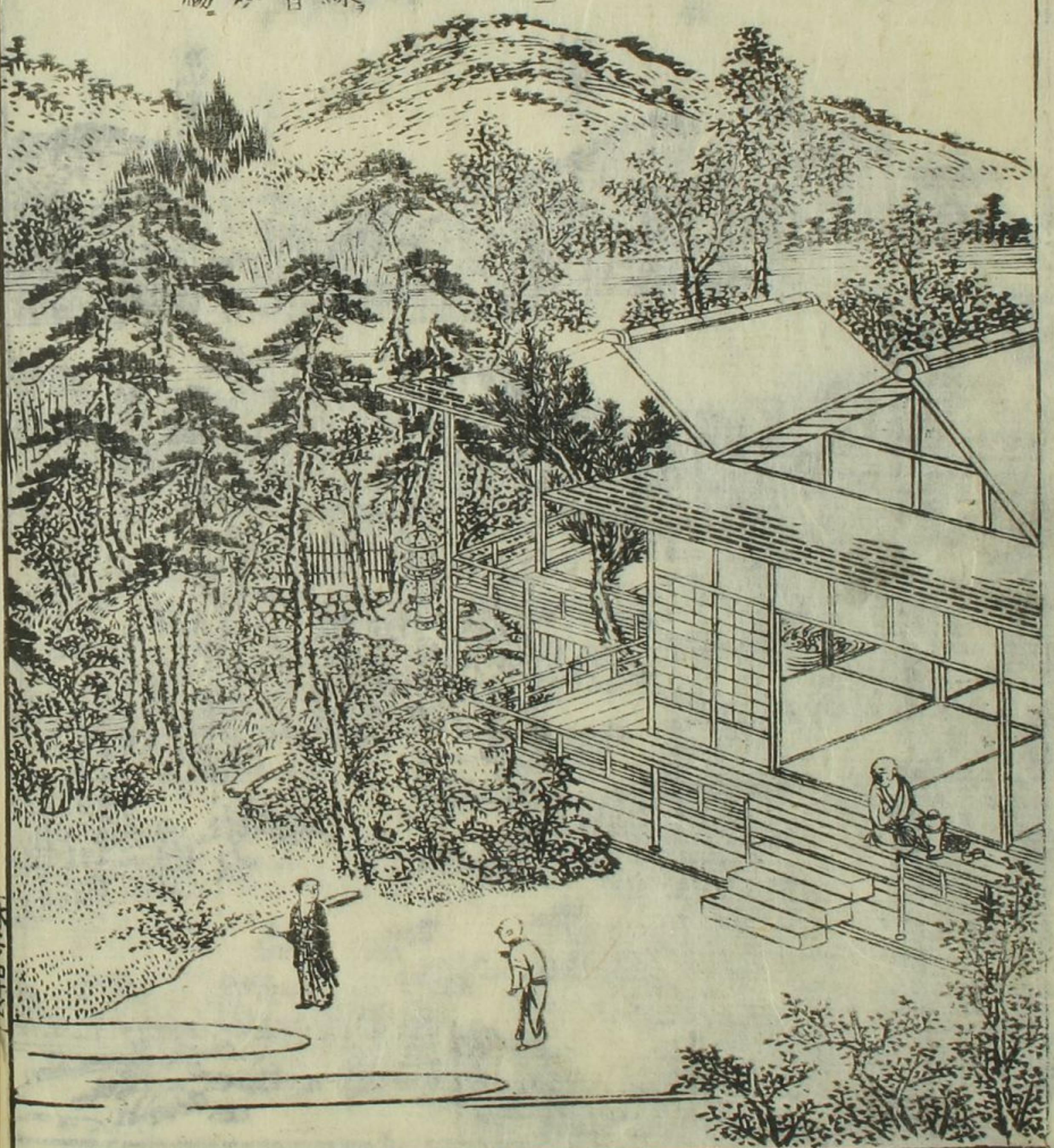
雙林寺

長喜菴

簷前雨細山添綠  
簾外花飛雪散香  
况復主人談論妙  
忘歸終日醉金觴

宿華院主  
月峰之住菴

龍公美



萬田信卿

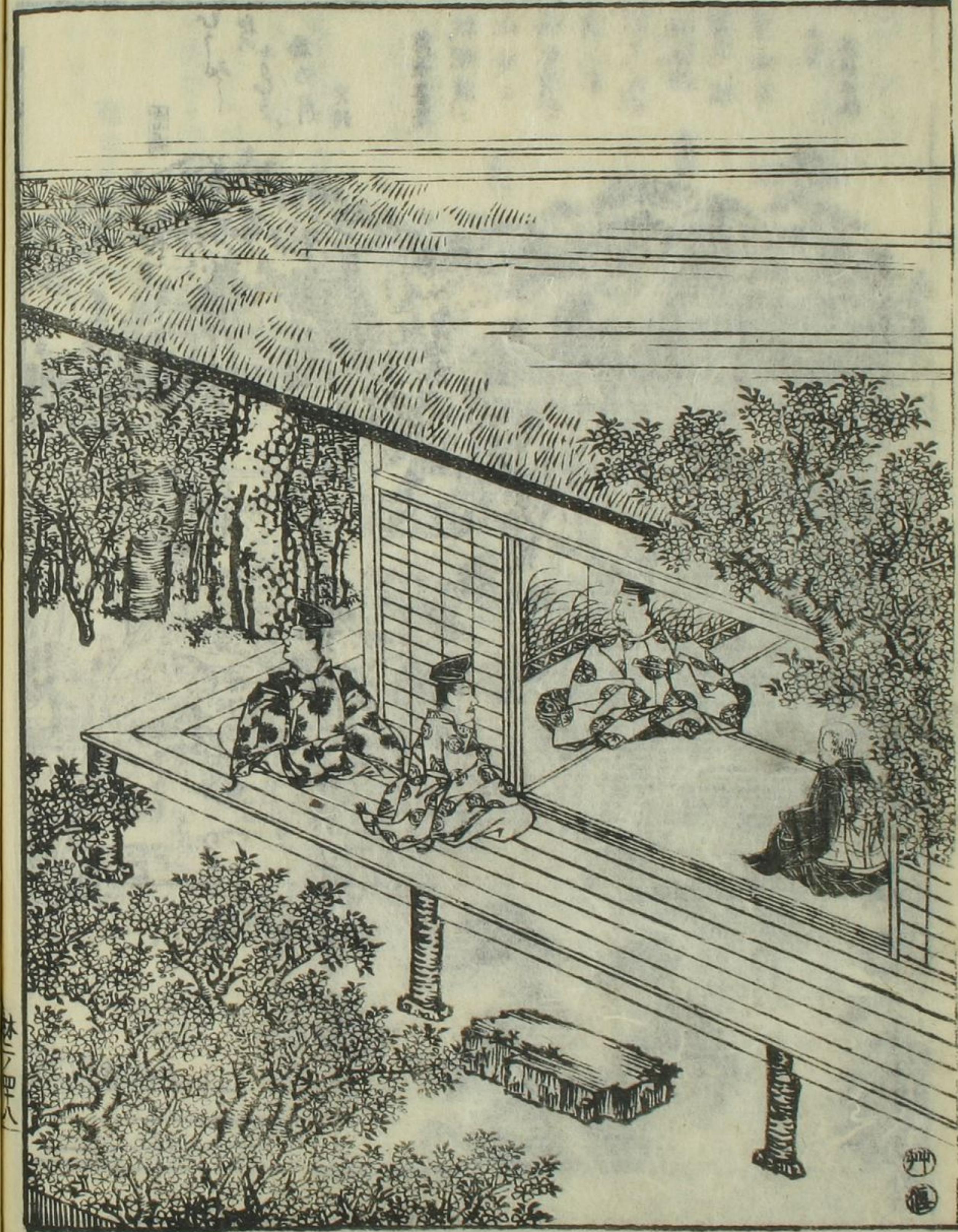
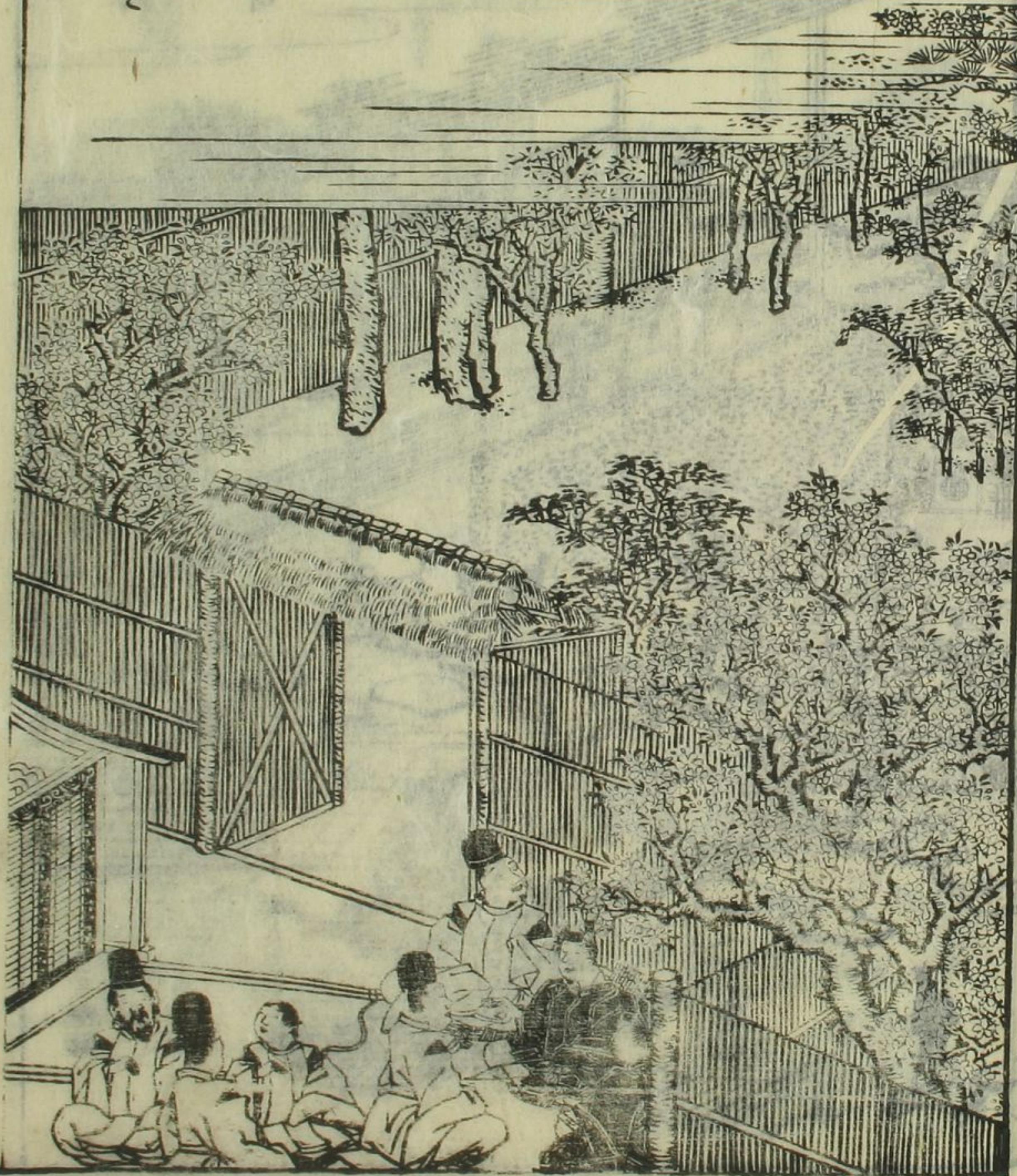
三峯

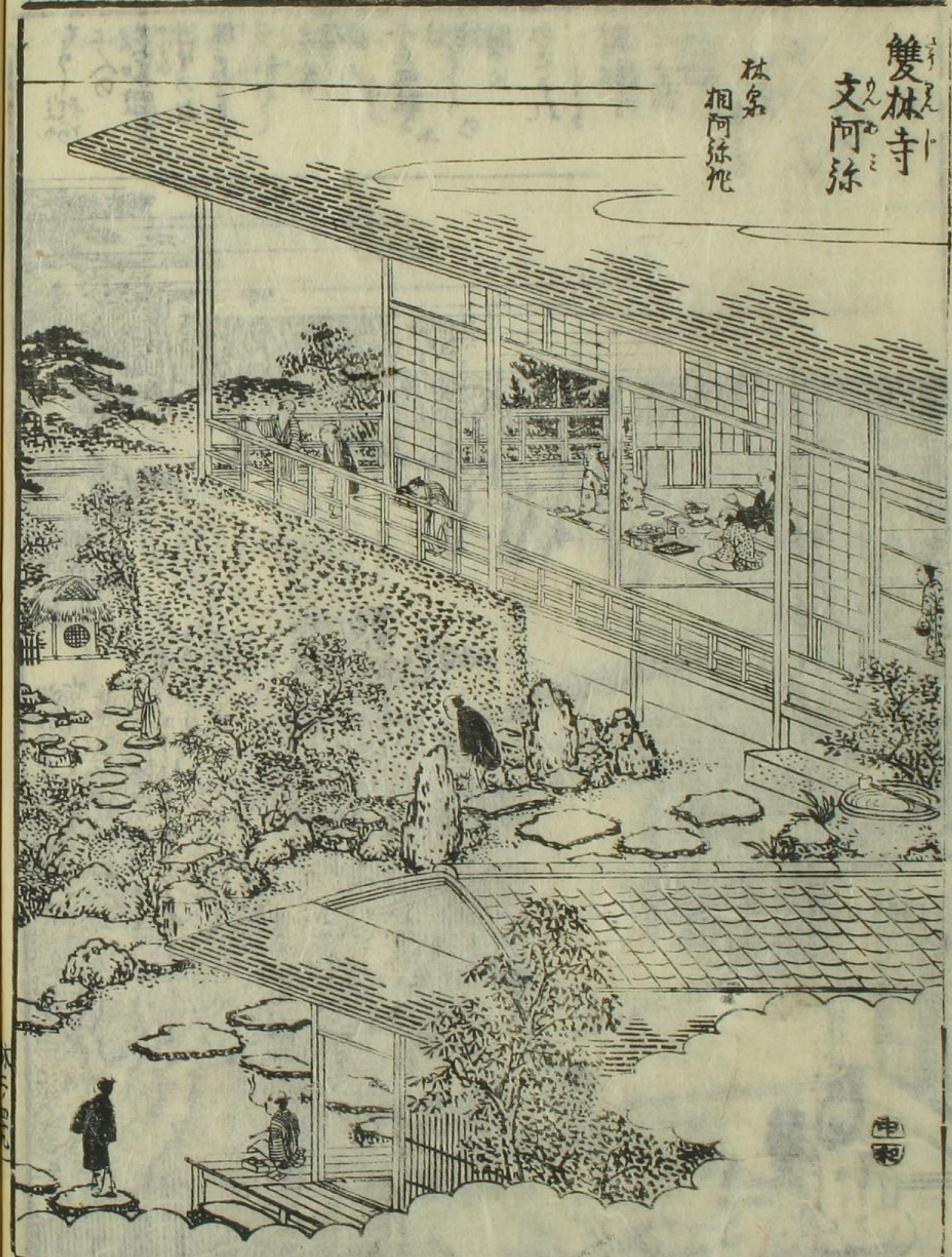
總長春庵  
秋烟漠々  
水冷々  
物也清奇  
試見天公  
存画癖  
描成一幅  
翠堆屏

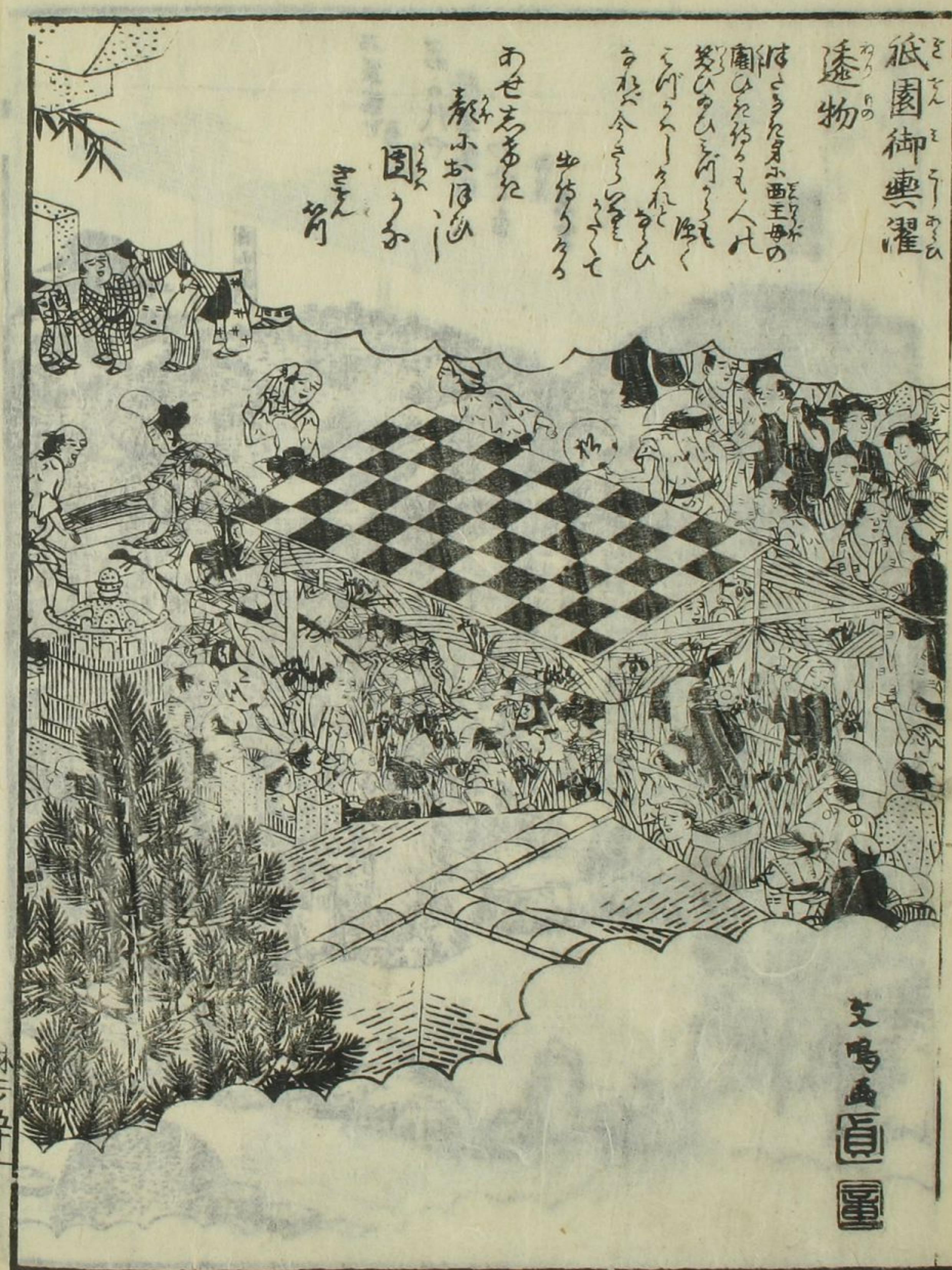
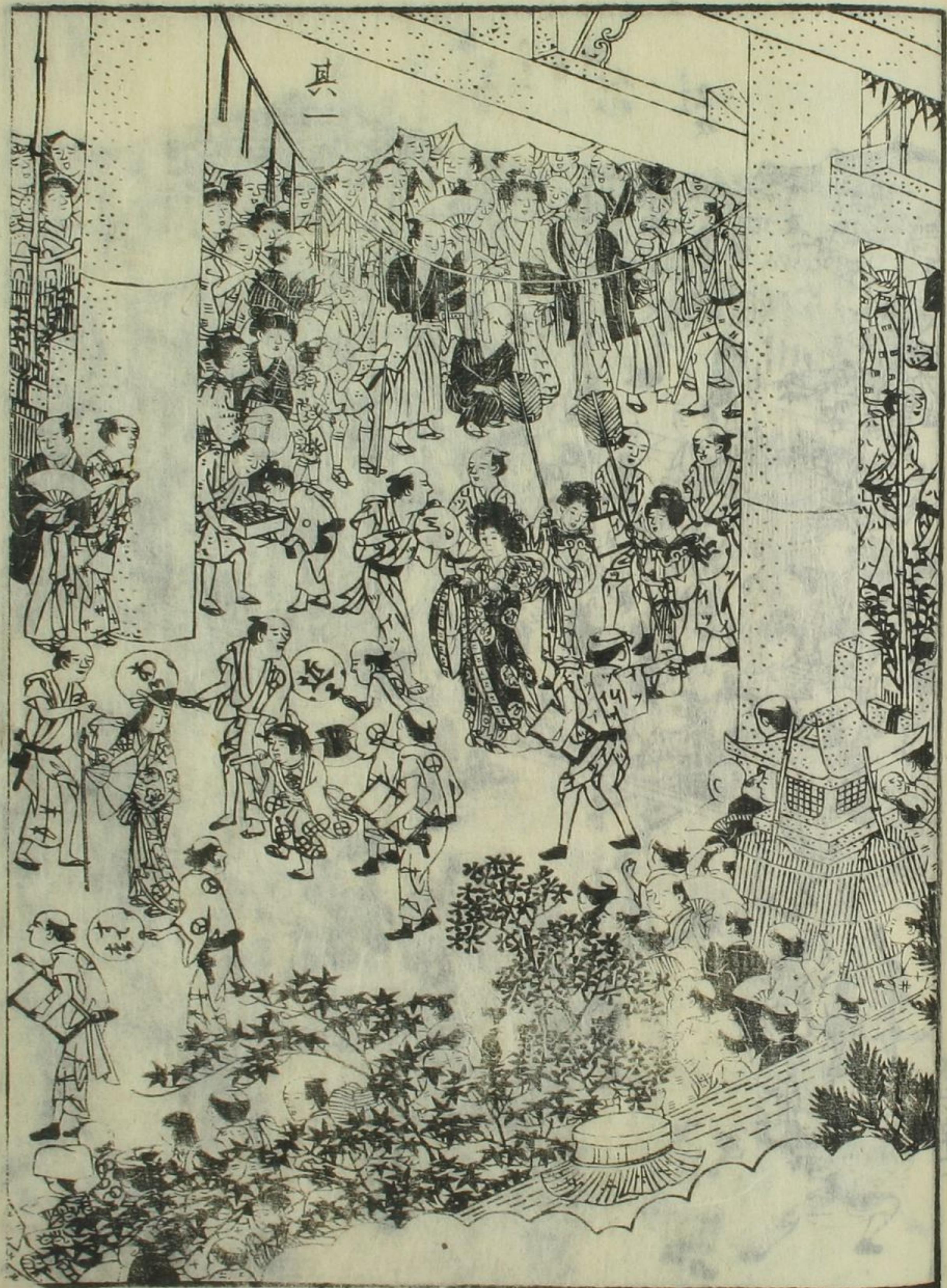
ひみ  
かの  
梅の月  
足雅

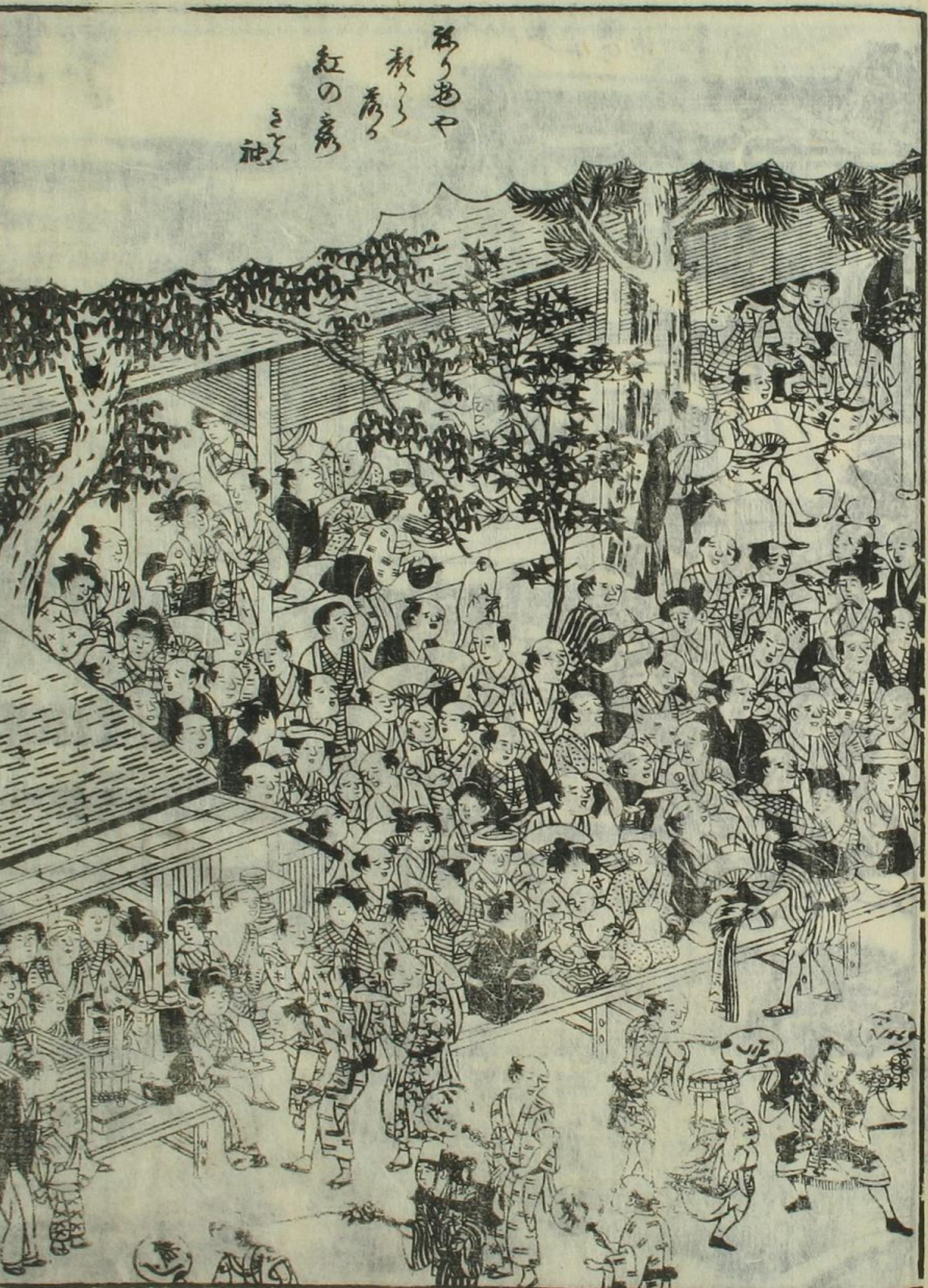
原山房

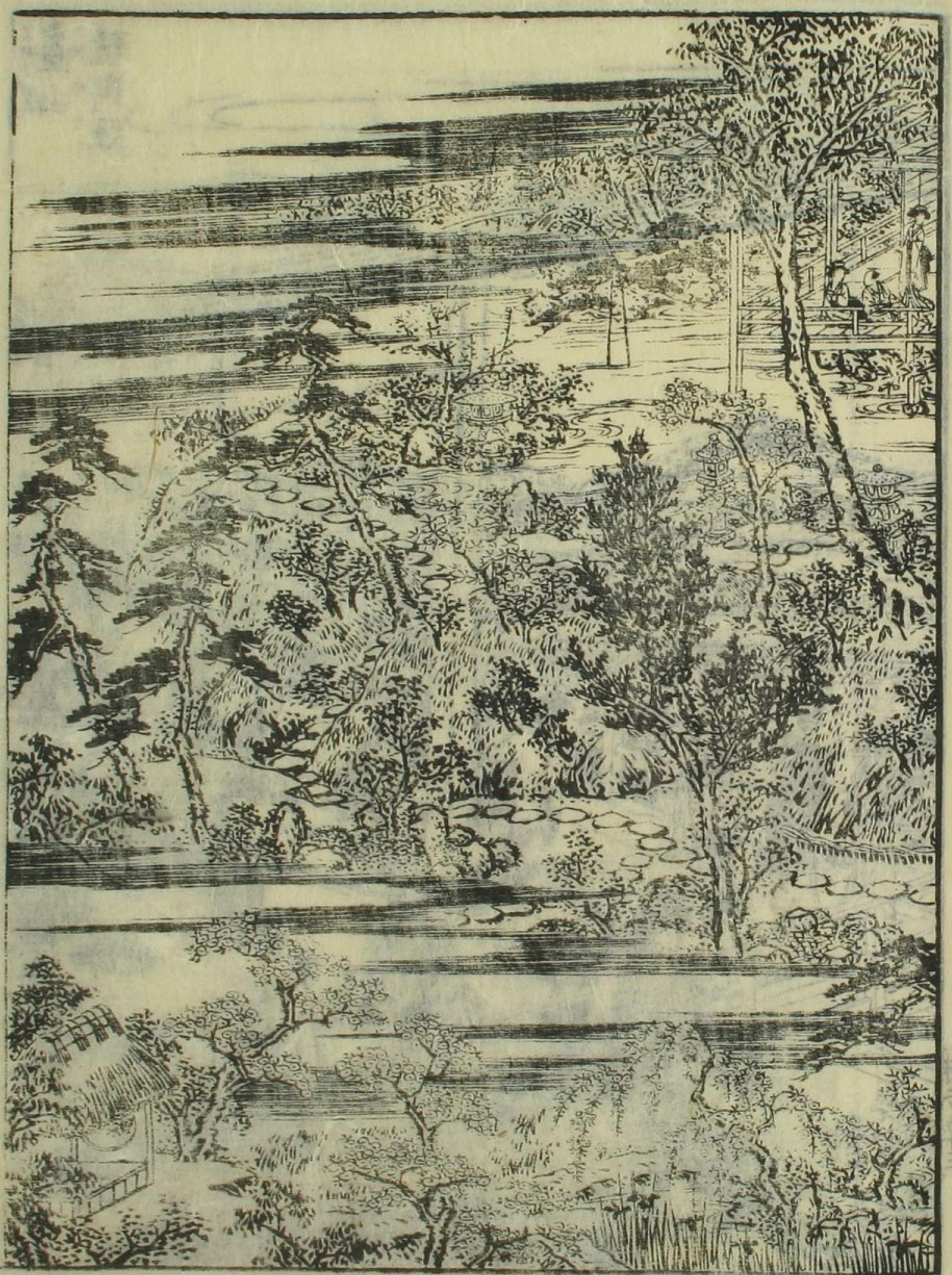
むう その  
上人の  
藝林園六  
迷生の花  
福花多く  
咲かれて  
花客  
君賀  
本り  
今人双林  
形そろふ  
蹟く  
のとれ  
東海の  
二とび  
景田と  
あと  
あらす  
まく



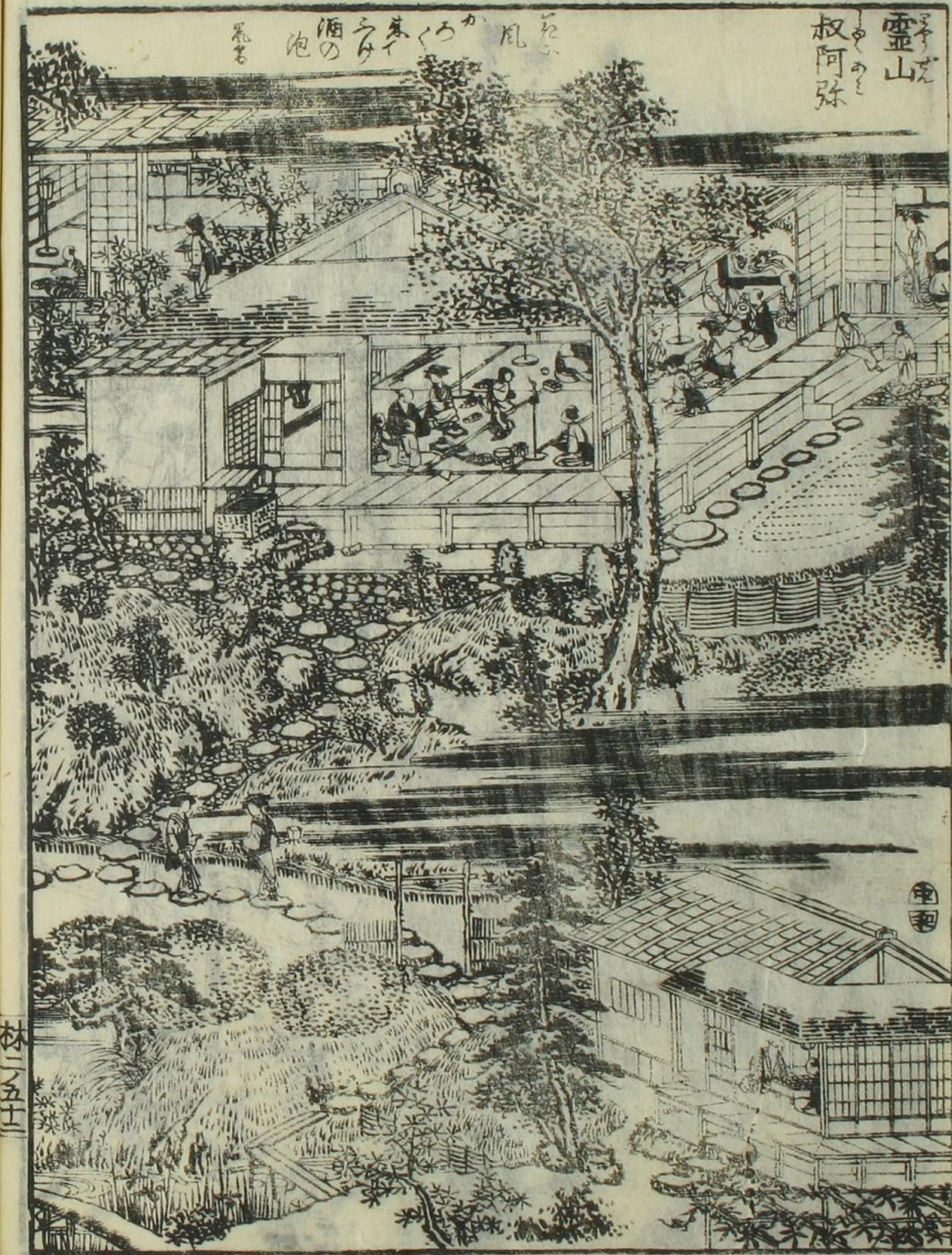






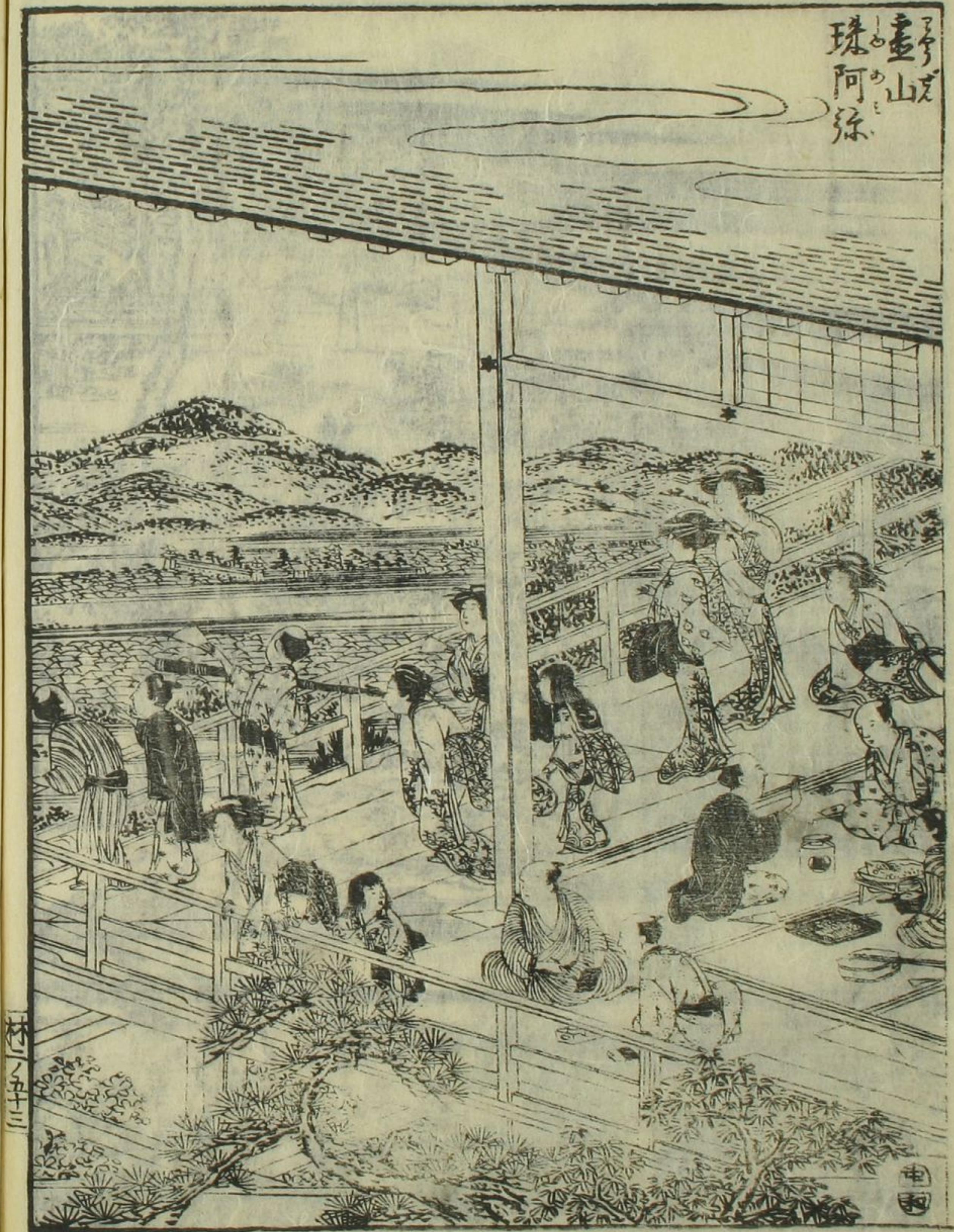


林二五士

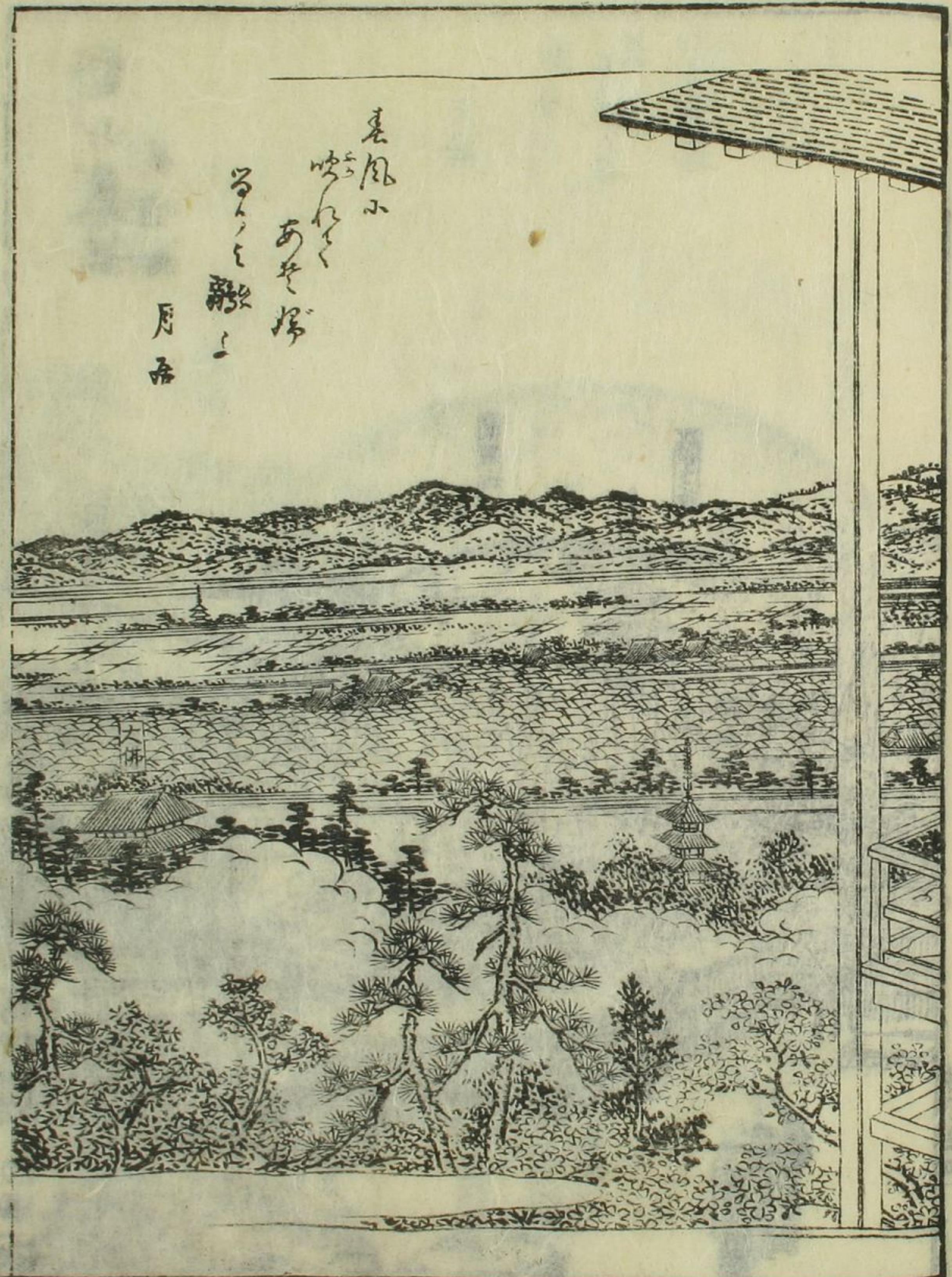


四

珠  
阿  
山



一五十三



春風  
吹き  
あそぶ  
月夜

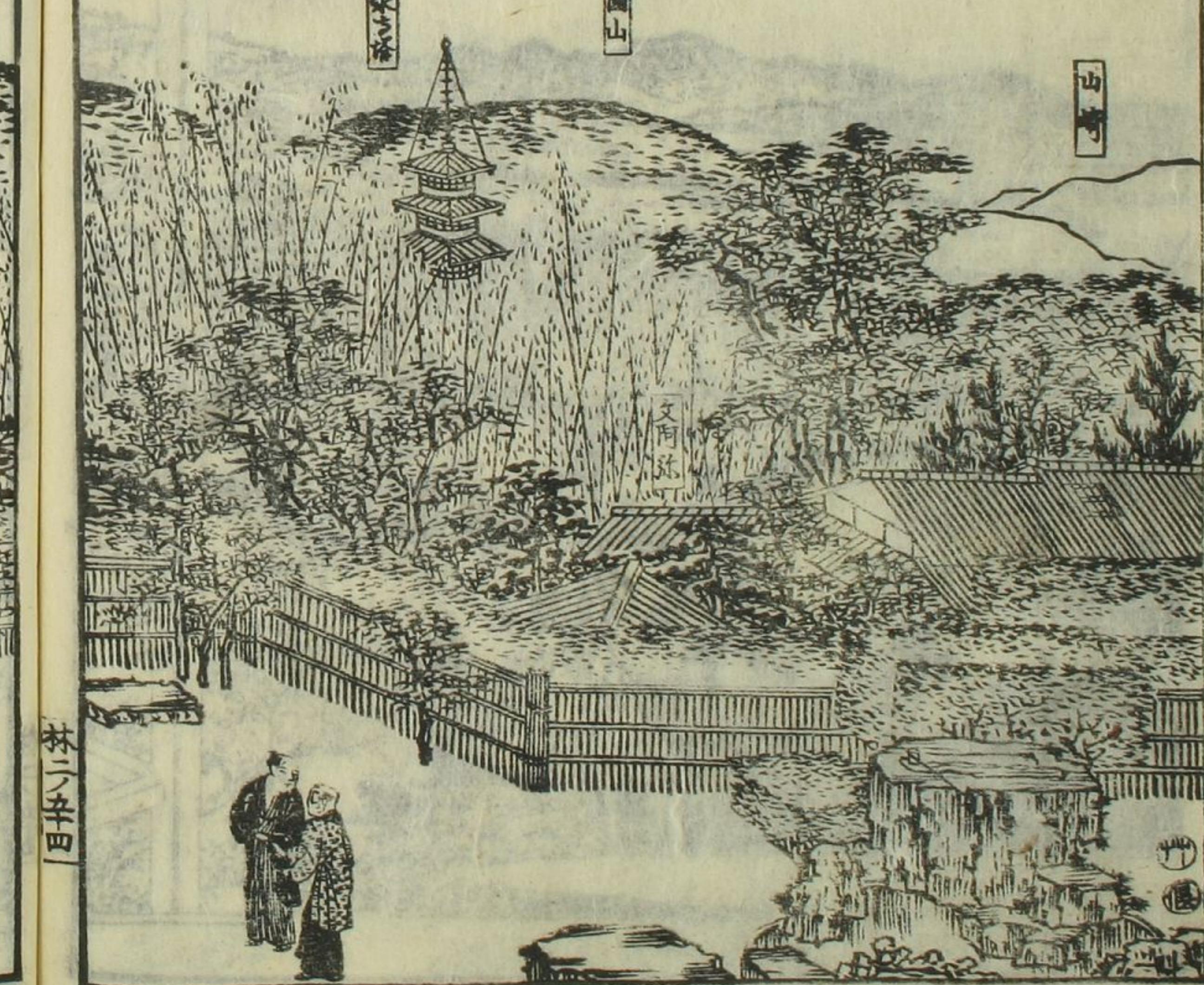
靈山巖阿彌  
長嘯接

山亭

圓山

圓山

林二辛四

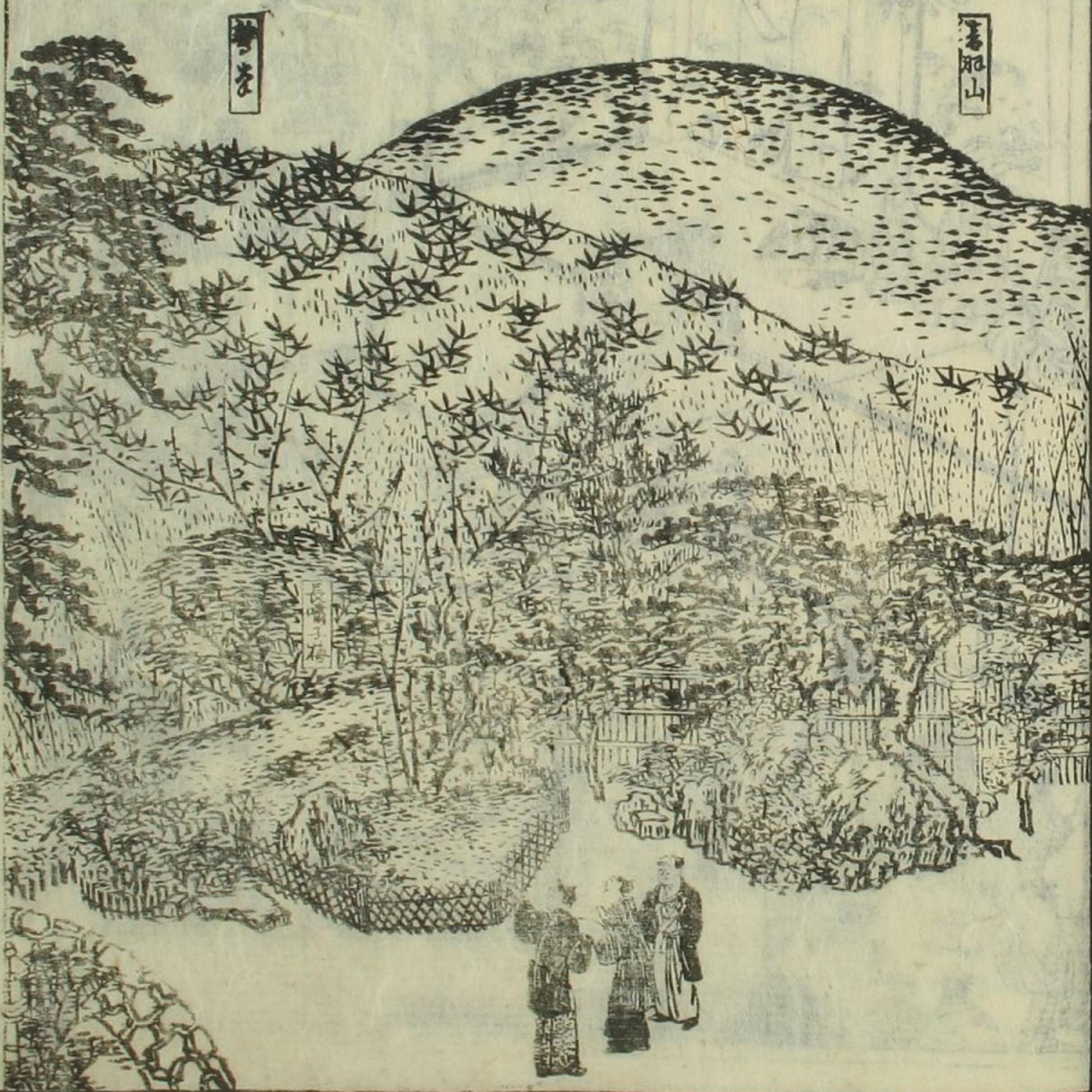


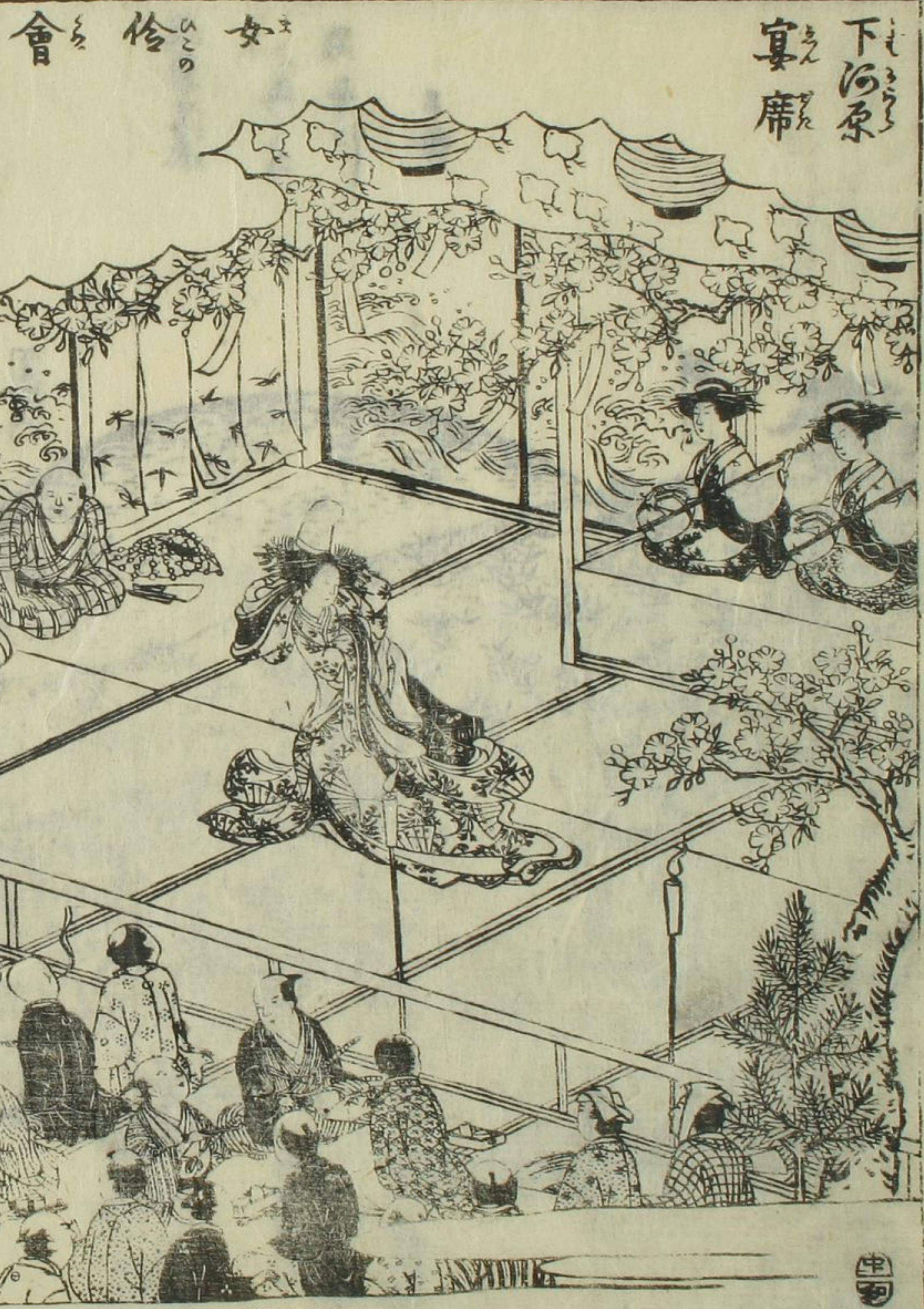
武園清水  
喜庵の  
腹舟

呂齡

會

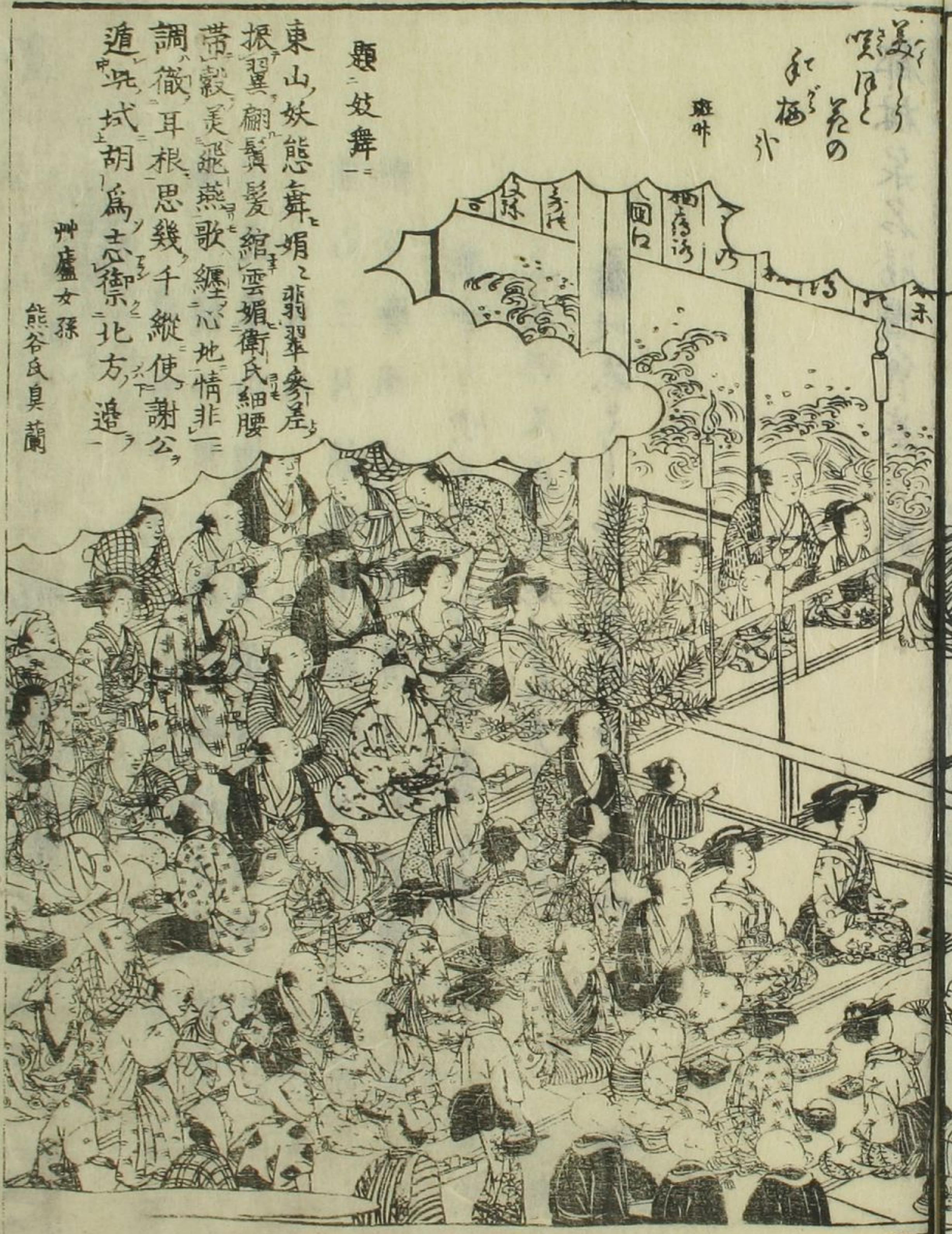
圓山





女伶會

下河原  
宴席



靈山

山廬小寺あり正法寺と云ふ山塊光云治嘉二年十一月佛寺七十四箇所  
及び新後古今集小見ゆ又

山中小長嘯子の宅址あり

東山冬景

三峯

荷田信郷

樓閣雪如塵一樣瑞光望裡新

梅華仙

不<sub>ニ</sub>是東山謝家妓婆娑縞袂素裙人

梅華仙

東山三月龍繁華紅錦青羅人似花

梅華仙

終日春風吹不落芬芳腦殼幾千家

梅華仙

京中う吹きすゝるあ葉う耶

梅華仙

上人の本居松かんたん夕かくみ

梅華仙

都林泉名勝圖會卷之貳

早稻田大学図書館

011688994782